OUKA
Osaka University Knowledge Archive



Title	新発現の蒙漢合璧少林寺聖旨碑
Author(s)	中村, 淳; 松川, 節
Citation	内陸アジア言語の研究. 8 P.1-P.92
Issue Date	1993-03
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/20428
DOI	
Rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA
http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/

Osaka University

新発現の蒙漢合璧少林寺聖旨碑

中村　淳　　松川　節

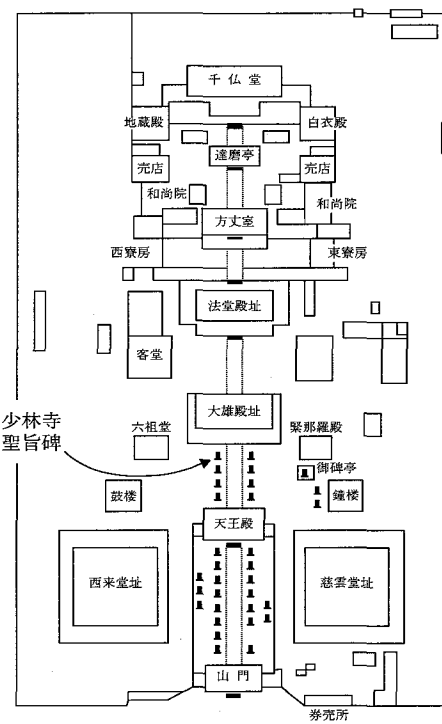
目　次

0．はじめに
1．少林寺聖旨碑解題
(1) 概況（pp. 3-9）
(a) 形状
(b) 各截の内訳と年代比定
(c) 伝存過程
(2) モンゴル時代の発令文の体系の中で（pp. 9-13）
(3) モンゴル時代の文書行政（pp. 13-22）
(a) 文書行政の流れ
(b) モンゴル文発令文の書式の定型化 ——「大元ウルス書式」の提唱 ——
(4) 13～14世紀モンゴル語資料の体系の中で（pp. 22-31）
(a) ウイグル文字モンゴル語資料としての価値
(b) ウイグル文字モンゴル文面の特徴
2．少林寺聖旨碑のテキストと翻訳
(1) 第1截のテキストと翻訳（pp. 32-34）
I-1. モンゴル文面の翻字・転写と逐語訳　I-2. モンゴル文面総訳
I-3. 漢文面の移録と日本語訳
(2) 第2截のテキストと翻訳（pp. 34-40）
II-1. モンゴル文面の翻字・転写と逐語訳　II-2. モンゴル文面総訳
II-3. 漢文面の移録　II-4. 漢文面の日本語訳
(3) 第3截のテキストと翻訳（pp. 41-48）
III-1. モンゴル文面の翻字・転写と逐語訳　III-2. モンゴル文面総訳
III-3. 漢文面の移録　III-4. 漢文面の日本語訳
(4) 第4截のテキストと翻訳（pp. 48-53）
IV-1. モンゴル文面の翻字・転写と逐語訳　IV-2. モンゴル文面総訳
IV-3. 漢文面の移録　IV-4. 漢文面の日本語訳
(5) 語彙索引（pp. 54-61）
(6) 語註（pp. 62-81）
(7) 語註索引（p. 82）
(8) 少林寺聖旨碑にウイグル文字・パスパ文字で現れた漢字の一覧（pp. 83-84）
参照文献リスト（pp. 85-92）
略号表（p. 92）

0．はじめに

中国河南省登封県の北西に，五岳の一つに数えられる中岳嵩山がある．嵩山は太室山と少室山からなり，その少室山の北麓に中国有数の名刹少林寺は立つ．少林寺の歴史は古く，北魏の太和20年（西暦496，一説に太和19年（495）とも）に孝文帝が天竺僧跋陀禅師のために置いたのがその始まりであるといわれる．同寺は達磨大師の面壁九年の地として，また唐の太宗御書碑，日本人僧邵元の手になる息庵禅師道行碑などの数々の碑文の存在によってもまたよく知られるところである(1)．山門をくぐり，参道に沿って数々の碑文を見ながら天王殿を通りぬけると，大雄殿の前庭にでる．東西に鐘楼と鼓楼が配され，参道の左右にはそれぞれ４つずつの碑文が並び，碑林の様相を呈している．そのうち向かって左側の一番奥に，従来の研究書には紹介されていない蒙漢合璧の少林寺聖旨碑が現存する（図１参照）．本碑は録文がモンゴル文・漢文ともに現在まで全く知られていない未発表の碑文である．

図１　現在の少林寺伽藍配置図



本碑に関する第一報は『中国文物報』第26期に載せられた「少林寺出土元明大石碑」という記事(2)である．本碑は近年行なわれた大雄殿の修復工事中に３件の明碑とともにその前庭の地底より出土したとい

(1)　cf. 常盤 1928；鷲尾 1932；常盤・関野 1976, pp. 52-93；礪波 1987など．
(2)　杉山正明氏のご教示による．特記して深謝したい．

う．ただしこの記事自体簡単な紹介記事であり，聖旨碑に関する部分は都合12字×10行程度のものでしかない．その録文をはじめて日本にもたらしたのは松田孝一氏（現大阪国際大学助教授）である．氏は1990年３月に現地を訪れ本碑の存在に気付かれた．そのとき撮影された写真を中村・松川の両名が利用することを快く許された氏のご好意には篤くお礼申し上げる．写真をもとに碑文の予備的解読を試みた後，我々はさらに1991年１月31日現地に赴き２月２日までの３日間，河南省登封県外事辦公室を通して登封県文物局より許可を得て原碑に就いて調査する機会を得た．帰国後，最終的な解読作業と中間報告を繰り返すうちに，本碑の内容がモンゴル時代の歴史史料として，またモンゴル語史資料として，さらにはウイグル語史，漢語史，宗教史，文書学等様々な面においても非常に価値のある資料であることが次々に判明した．

ところで，我々が碑の存在を認知してからすでに相当の月日が経過しようとしているが，所有国である中国側からは『中国文物報』で紹介されて以来何の研究報告も行なわれていない．そこで我々は，一日も早くこの貴重な資料を学界の共有財産とするために，1992年11月20日に大阪外国語大学で開催された日本モンゴル学会秋季大会において「新発見の蒙漢合璧少林寺聖旨碑」と題して発表に踏み切った[3]．発表では時間の関係上，成果の一部しか報告できなかった．本稿の目的は，本碑が様々な分野に対して画期的内容と価値をもつことを指摘するとともに，テキスト全体の解題・録文・訳註をすることにある．遺憾ながら未解決の問題も存在するが，現段階の研究結果をここにまとめる．なお，分担執筆した箇所には，末尾に中村は(中)，松川は(松)と付記する．

１．少林寺聖旨碑解題

(1)　概況

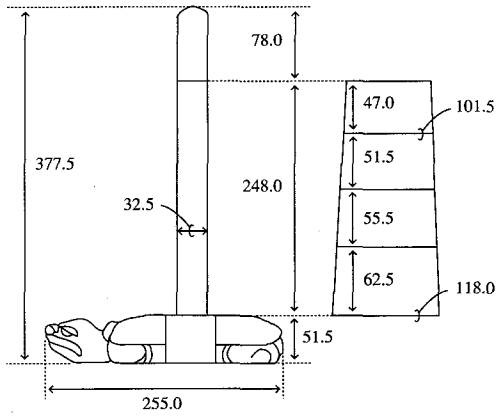
(a)　形状

本碑には４通の発令文が合刻され，それぞれはモンゴル文とその対訳漢文の

(3)　学会報告の内容は，ツェデブ東京外大客員教授によってモンゴル語訳され，モンゴル国政府広報紙『アルディン・エルフ』に転載された．See Цэдэв 1993.

２言語で記されている．碑石上で４通は上から下へと配置される．モンゴル文面と漢文面とは表裏対訳となっている．本稿ではこの４通の発令文を上から順に第１截，第２截，第３截，第４截という．全高は亀趺から計ると４ｍ近くに及ぶ巨碑である（図２参照）．

図２　少林寺聖旨碑見取り図　（単位：cm）



亀趺は寺院の入り口方向を頭としており，亀趺を基準にすると漢文面が碑陽，モンゴル文面が碑陰となる．現在碑陰となっているモンゴル文面の碑額には漢字で「聖旨碑」と刻まれている．モンゴル文面はあたかも原文書をそのまま掘り込んだように，各截とも文書の縁を示すような線刻で仕切られている．線刻の外側四方は龍と雲の紋様で飾られる．図２のモンゴル文面の各截の縦のサイズはこの線刻の内側を計ったものである．各截の上下の幅は下のものほど大きくなっており，また碑身自体が末広がりになっているのは，碑をより大きく見せるための視覚的効果を狙ったものと考えられる．一方漢文面はというと，碑額には何も刻まれておらず，そのような仕切りも紋様も存在しない．またモンゴル文面の各截間には筆使い，正書法に相違点が見られるが，漢文面の文字は全截明らかに同一人物の筆になる．以上の特徴は，本来モンゴル文面が碑陽であり漢文面が碑陰であったことを示しているとみて間違いあるまい．恐らくは出土後現地点へ設置する際に，碑陽と碑陰とを入れ替えて亀趺に差し込んでしまったのであろう．碑身の四隅はそれぞれ小さく面取りが施される．碑刻の表面は両面ともにきわめて良好な状態にあり，読みを妨げるような傷やひび割れは全くない．文字の彫りは深く力強く，モンゴル文の翻字，漢文の移録はともに容易である．漢文面の左下隅に小さなひび割れがあり

補修した跡が窺えるが文字には届いていない．亀趺には水平方向にひび割れが見られ上下に割れていた可能性もあるが，きれいに接合されており欠損は全くない．立石時よりすでに七百年近く経っているが，砂岩系と思われる石が用いられているにもかかわらず碑石が立てられた時の姿を忍ばせるほど美しいのは，保存状態がよほど良かったのであろう．

(b) 各截の内訳と年代比定

第1截は，ウシ年冬の最後の月の初（旬の）7日／癸丑年十二月初七日（I 14-15／漢I 24）付け[4]，ウイグル文字モンゴル文・白話風漢文合璧の少林長老福裕宛てモンケ Möngke の jarliγ／聖旨である．jarliγ／聖旨とは，モンゴル皇帝の「おおせ」を意味する術語である．第1截の年次は，ウシ年／癸丑年がモンケの在位期間中（1251－1259年）に1253年のみであることより確定できる．

漢文面の発令年次が干支で記され，また発令者である皇帝名が明記されるのは第1截のみであり，第2截から第4截は，発令年次を十二支のみで記し，現皇帝名を明記しない．そのため，それぞれの年次・発令者の比定にはそれなりの手続きが必要となる．

まず第2截・第3截については，パスパ文字が作られた1269年以降に皇帝の発令文がウイグル文字で記されることはないから[5]，ウイグル文字で記されたこれら二つの発令文の下限は1269年となる．

第2截は，トリ年夏の最後の月の初（旬の）1日／鶏兒年六月初一日（II 38／漢II 32）付け，ウイグル文字モンゴル文・モンゴル文直訳体漢文合璧の少林長老福裕ら宛ての jarliγ／聖旨である．発令地は開平府（II 39／漢II 32）．II 03／漢II 02には，中統元年（1260）5月乙未に設置され中統2年（1261）11月癸酉に廃止された（十路）宣撫司[6]が見えている．このことより，トリ年は1261年（辛酉，

(4) 本稿で少林寺聖旨碑本文を引用する際，截を示すローマ数字，行数を示すアラビア数字，そして／を挟んでそれに対応する漢文の截・行を順に示す．

(5) 『元史』巻202・釋老伝，p. 4518．以下『元史』は中華書局本に依る．

(6) 『元史』巻4・世祖本紀の各条，pp. 65-66, 76.

中統２年）に，発令者はクビライ Qubilai（在位1260－1294）に比定される．

第３截は，タツ年春の最初の月の25日／龍兒年正月二十五日（III 46-47／漢 III 33）付け，ウイグル文字モンゴル文・モンゴル文直訳体漢文合璧の足庵淨肅長老宛ての jarliγ／聖旨である．発令地はコケアグラ Köke aγula／青山兒（III 47／漢 III 33）．発令対象者である足庵淨肅の肅公禪師道行之碑[7]によると，彼は少林寺に住持が居なくなった際，宣授河南府僧尼都提領として少林寺に赴き居ること九祀（＝９年），ついで霊巌寺で八載（＝８年）住持をつとめたあと万寿寺に住持として迎えられている．この足庵淨肅の弟子である古巖普就の行状を記した靈巖禪寺第三十三代古巖就公禪師道行之碑[8]は，足庵淨肅が万寿寺に住持となった年を至元18年（1281）と明記している．単純に逆算すれば，足庵淨肅は至元10年（1273）に霊巌寺，至元元年（1264）に少林寺に赴いたことになる．よって第３截の上限は1264年となり，下限の1269年との間に本截のタツ年を求めると，唯一1268年（戊辰,至元５年）が挙げられる．発令者は第２截と同じくクビライとなる．

第４截は，ネズミ年春の最後の月の13日／鼠兒年三月十三日（IV 29-30／漢 IV 30）付け，パスパ文字モンゴル文・モンゴル文直訳体漢文合璧の jarliγ／聖旨である．発令地は大都（IV 31／漢 IV 30）．漢文面の第２截と第３截の左側にやや大きめの文字で一行「延祐元年孟冬吉日立石」とある[9]．延祐元年は西暦1314年にあたり，孟冬は陰暦の10月である．第１截から第４截の発令文は一括合刻され，日を選んで碑が立てられたことがわかると同時に，これが第４截の下限となる．後述するように発令文には定型として先例となる皇帝名が挙げられるが，第４截はこれが Külüg qān／曲律皇帝（IV 11／漢 IV 11）つまり武宗カイシャン Qaišan（在位1308－1311年）で終わることより，第４截のネズミ年は仁

(7) 『泰山志』巻18・金石記４・元明, 31葉b-33葉b：常盤・関野 1976, pp. 13-15, pl. 9 (1)：北京図書館金石組 1990 (48), pp. 128-129.

(8) 『泰山志』巻18・金石記４・元明, 54葉a-56葉a

(9) 立石年次は普通，立石者名などとともに碑陰に刻まれることが多く，このことはモンゴル文面が本来碑陽であったとする我々の推断を補強してくれる．

宗アユルバルワダ Ayurbarwada の治世期間中（在位1311－1319年）に求められ，1312年（壬子，皇慶元年）となる．

以上の考察をまとめると，少林寺聖旨碑に刻まれた4通の発令文の内訳は以下のようになる．[補註]

第1截＝ウシ年癸丑（1253）12月初7日付け，ウイグル文字モンゴル文・白話風漢文合璧の少林長老福裕宛てモンケ聖旨．

第2截＝トリ年（中統2年辛酉，1261）6月初1日付け，ウイグル文字モンゴル文・モンゴル文直訳体漢文合璧の少林長老福裕ら宛てクビライ聖旨．発令地は開平府．

第3截＝タツ年（至元5年戊辰，1268）1月25日付け，ウイグル文字モンゴル文・モンゴル文直訳体漢文合璧の足庵淨肅宛てクビライ聖旨．発令地はコケアグラ／青山兒．

第4截＝ネズミ年（皇慶元年壬子，1312）3月13日付け，パスパ文字モンゴル文・モンゴル文直訳体漢文合璧のアユルバルワダ聖旨．発令地は大都．

(c) 伝存過程

少林寺に数多く存在する石刻に関する研究は，実地調査を含めて決して少なくない．日本に例を求めれば，1922年11月6日から8日に同寺に滞在し碑や墓塔を精査した常盤大定氏[10]が著した常盤・関野 1975, pp. 52-93 や，また1921年頃に同寺に入り「山中苟且にも文字ある石は悉く手拓し，建築物は朽廃せると否とに拘らず全部撮影し」た増田亀三郎氏[11]が将来した拓本と写真を収めた鷲尾1932などがある．にもかかわらず本碑の録文はなぜ今にいたるまで伝わらなかったのであろうか．先に言及した『中国文物報』によると，本碑を含む4つの碑石は地中より発見されたという．またこれらの碑石が埋められた原因につい

(10) 常盤 1947, p. 220.

(11) 鷲尾 1932, 跋, p. 1.

て，乾隆年間（1736－1795）に御碑を立てた際，その高さを誇示するためにそれより高い碑が地中に埋められたと推測する．試みに本碑を取り巻く情報を整理してみる．

碑の両側面には明の萬曆年間の紀年をもつ漢文の刻文がある．原文は以下の通り．萬曆乙未は1595年，萬曆27年は1599年である．

【右側面】

01　明萬曆乙未佛日東呉兪安期登二室歷五乳

02　遂三宿少林與無言禪師參印宗旨劃然而行

【左側面】

01　大明北天京都内府外荅衙門方巷住居合會五員恭謁名山祝延

02　萬壽報國酬恩保安黎庶至□(12)古刹五員三宿一貢合山菲名後開

03　御用監僉書大監李志惠　舍人徐福　賈奚　李有粮

04　御馬監左少監甲字庫管事三(13)禮　舍人王世連

05　御馬監右少監西安明管郝相　舍人郝　禄

06　皇命　榮官李綸

07　大善

08　居士張志舉

09　萬曆二十七年歲次己亥孟春二月勅右三日仝具刻石

この刻文の存在は，本碑が16世紀末には少林寺のどこかに立っていたことを示している．次に各種の石刻書や石刻目録類を繙いてみると本碑については，呉式芬（1796－1856）『攈古録』巻18, 41葉a(14)と，同治６年（1867）序刊『中州金石

---

(12)　全体的に彫りは浅く，この一字は判読できなかった．

(13)　姓として「三」は考えられず，姓の脱落か，続く「舍人王世連」と同姓とすれば「王」の誤刻と考えられる．

(14)　「少林寺聖旨碑．正書．皇慶二年十二月，鶏兒年六月，龍兒年正月，鼠兒年三月各一道．河南登封．延祐元年十月」とある．モンゴル文の場合は「国書」「蒙古字」などと記される．『攈古録』を地域別に配列しなおした『金石彙目分編』巻九之四，河南四・河南府下・登封縣，36葉bも同じ．呉氏が第１截（癸丑，1253年）を皇慶２年（癸丑，1313）とするのは単純な誤りであり，『中州金石目録』もそれを踏襲している．

目録』巻7, 11葉aに「正書」として漢文面のみが著録されるだけである．後者には「存」の一字が加えられている点注目される．同書は著録した碑石にそれぞれ「存」字あるいは「佚」字を付記する．これら石刻書類は基本的には拓本のリストでしかないが，これが碑石の有無を記したものであるとすれば，19世紀の中葉にも本碑が同寺に立っていたことになる．このほか，確認した限りでは地方志には本碑に関する情報は一切なく[15]，また乾隆13年（1748）に編まれた『少林寺志』[16]にも，1988年発行の『新編少林寺志』（中国旅遊出版社）をはじめとする近年続々と刊行されつつある少林寺関係の小冊子や資料集にも，筆者が知る限り本碑は言及されていない．少林寺聖旨碑に関する情報は，少林寺の他の碑石に比べて極端に少ないということが言える．

『中国文物報』が推測する乾隆年間という時期を鵜呑みにするわけにはいかないが，どうやら少林寺聖旨碑そのもの，特にそのモンゴル文面は長い間人目に付かない状態にあったと考えてよさそうである．碑石の良好な保存状態もあるいはこのことを物語ってくれているのかもしれない．今後中国側から本碑の出現，現地点への設置に関するより詳しい報告がなされることを期待したい．

(2) モンゴル時代の発令文の体系のなかで

少林寺聖旨碑に刻まれたようなモンゴル時代の発令文は，すでに杉山正明氏が分類されているように，使用言語・文字・伝存状況によって以下の14群に類別される[17]．

1. ウイグル文字蒙古語の文書・碑刻・典籍

---

(15) 成化22年（1486）序刊『河南總志』，嘉靖34年（1555）序刊『河南通志』，雍正8年（1730）序刊『河南通志』，乾隆32年（1767）序刊『續河南通志』，隆慶3年（1569）序刊『登封縣志』，康熙20年（1681）序刊『登封縣志』，康熙35年（1696）序刊『登封縣志』，乾隆52年（1787）序刊『登封縣志』を確認した．

(16) 東洋文庫蔵．同書は鷲尾1932の巻末にも収められている．

(17) 杉山1990a, pp. 3-4．杉山氏の一連の論考は，あらゆるタイプの発令文とその研究史を把握したうえで，実例を提示しつつ従来の発令文研究に欠如していた歴史研究への活用をも試みた画期的なものである．

2. ウイグル文字蒙古語とペルシア語との対訳合璧文書
3. ウイグル文字蒙古語とアラビア語との対訳合璧文書
4. パスパ文字蒙古語の文書・碑刻
5. パスパ文字蒙古語と直訳体白話風漢文との対訳合璧碑刻
6. ウイグル文字トルコ語の文書
7. アラビア文字アラビア語の文書・典籍
8. アラビア文字ペルシア語の文書・碑刻・典籍
9. チベット語の文書・碑刻
10. チベット語と直訳体白話風漢文との対訳合璧碑刻
11. 蒙古語直訳体白話風漢文の碑刻・典籍
12. 文語・吏牘漢文の碑刻・典籍・書簡
13. パスパ文字文語漢文の碑刻・典籍
14. ラテン語訳の国書・書簡

これらの発令文には用語やスタイルなどに共通点が認められ，14群全体を「モンゴル時代の発令文」という大きな枠組みのなかで総合的に研究する必要があるが，資料状況が急速によくなりつつある現状のなかでは，それぞれの群類のなかで発令文をひとつずつ研究し，その過程で他の群類の発令文にも目を配るという地道な作業が必要となる．中でも４と５のパスパ文字モンゴル語の発令文の研究については近年，杉山氏や照那斯図氏の一連の論考を中心に進展がみられ，ここを大きな手掛かりとして発令文研究は新しい段階に入ろうとしている．

本碑の４通の発令文のうち第１截から第３截はウイグル文字モンゴル文と漢文との対訳合璧碑刻であり，文字に注目した場合，上掲14群には入らない今までに全く例をみないタイプであることをまず第一に強調しておきたい．本碑の重要性はこの一点に集約されるといっても過言ではない．従来知られる皇帝の発令文聖旨で，モンゴル語のものはクビライ時代(1260-1294年)以降のしかもパスパ文字でしか残っていなかったのである．ここに初めてウイグル文字モンゴル語の聖旨がそれも漢文の対訳をともなって一挙に３通も出現したのである．

発令文に限らなければ，ウイグル文字モンゴル文と漢文との対訳式合璧碑刻としては，張応瑞碑・竹温台碑・忻都公碑などがある．しかしこれらはいずれも14世紀に入ってからの，しかも漢文を原文とした漢蒙対訳碑である．つまり1253年の第１截，1261年の第２截，1268年の第３截は，13世紀の蒙漢完全対訳碑刻としても初めてのものなのである．特に第１截は，クビライ登位以前のものとして確認された初めての，そして唯一最古の蒙漢完全対訳碑刻であることを改めて強調しておく．このように少林寺聖旨碑に刻まれた第１截から第３截の発令文は，発令文として，またウイグル文字モンゴル文と漢文の対訳形式の碑刻として，画期的な意味を持つのである．

第１截から第３截は，ウイグル文字モンゴル文と漢文とを媒介にして，ウイグル文字モンゴル文で記された１・２・３，対訳漢文を持つ５・10など，他の群類の研究に直接裨益するところは大きい．漢文の対訳は紛れもない同時代の「辞書」として，本碑に限らず他の発令文に対しても対応する箇所の語義の確定に大きな助けとなる．逆に漢文面の解読に対してモンゴル文面は「辞書」となるわけであり，発令文のみならず同じく特異な漢文で書かれた『元典章』などの研究にも寄与するところは大きい．また，第２截・第３截のモンゴル文はパスパ文字モンゴル語発令文とよく似た文脈を持つので，両者の対比によってパスパ文字モンゴル語のウイグル文字還元形を同時代資料で直接検証できるのである．一方，第４截のパスパ文字モンゴル文・漢文対訳合璧碑刻はすでに類例が13件報告されている[18]．ここに新たにもう１件出現したことにより，このタイプの発令文は全部で14件に増えたわけである．

モンゴル時代の発令文は，仏教寺院や道教の宮観に碑刻として残るものが多く，免税等の特権付与を内容としたものがほとんどである．ところが本碑第１截は，カラコルムにおける全仏僧の管轄を少林長老福裕に委ねた委任状であり，内容からいっても特異なものなのである．近年，照那斯図氏の研究により，パスパ文字モンゴル文の発令文にも万戸長任命状など様々な内容のものが

(18)　杉山 1990a, pp. 24-28.

チベットに原物として残っていることがわかってきた.[19] 第1截はその内容に注目したときチベットに残された文書原物とともに，本来発令文の内容は，その特殊な伝存状況がもたらすイメージほど画一的ではなく，もっとはばを持ったものであったと考える材料になるのではないだろうか．発令文の伝存状況の偏りは付与された特権を明示する必要が寺観にあったために生まれたのであって，発令文の種類の偏りをそのまま表したものではないと思われる．

モンゴル時代発令文の書式の研究はすでに Kotwicz 1934；海老沢 1976；Григорьев 1978；杉山 1990a：1990b：1991b などで論じられている．中でも飛び抜けて数の多い宗教施設に宛てた特権付与型の発令文については，書式が抽出しやすく，従来の研究によって，冒頭定型句に始まり，宛先，先例となる各皇帝名の列挙とその発令文のうち特権付与に言及した部分の引用，現皇帝の発令内容，威嚇文言，発令年次と発令地，これらを順に記す定型が明かにされている．第2截から第4截はまさにこのタイプの発令文であり，やはりこの定型に乗っ取って記されている．ただしここで注目しておきたいのは，第2截と第3截には発令文として初めて，クビライによって仏教界の頂点に位置付けられたチベット仏教サキャ派の高僧，かのパスパ 'Phags pa の名が挙がっている[20]ということである．すなわち第2截は雪庭福裕を始めとする5人の漢人高僧が漢地の仏僧を，第3截は当時少林寺の住持であった足庵浄粛が河南の仏僧を，それぞれパスパの言葉によって管轄するよう命じた内容を含んでいる（II 23-28, III 29-33）．

碑刻として残る発令文は，文書そのものがどこまで忠実に再現されているかという問題や，文書の発令時期と書丹・刻石・立石の時期とのずれが碑刻にどのように影響するかという問題を常にはらんではいるものの，「準公文書」としての価値は編纂史料とは比べものにならない．しかしこれまでの発令文研究は

---

(19) 照那斯図氏は，1991年10月にラサ市のチベット自治区檔案局を訪れ，4件の聖旨原物を新たに発見し，1992年8月11日から15日にウランバートル市で開催された第6回国際モンゴル学者会議において報告された．ただしいずれも写真・釈読は未公表．

(20) II 12-13, 24, III 30, 43, 44-45／漢 II 11, 20, 漢 III 21, 29, 30.

言語学・文献学的なものが主流で，その一つ一つを解読することに終始していた．寺観に出された発令文の内容は，一見画一化されているようだが，時代差・個体差がある．この差異に着目し，書式の変化を複数の発令文から抽出したり，個々の発令文が持つ固有名詞などを手掛かりにしてその歴史背景を探るといった研究が，近年ようやく見られるようになってきた．少林寺聖旨碑に刻まれた3通のウイグル文字モンゴル文・漢文合璧の発令文は，内容を含めて発令文そのものが歴史史料として大きな価値を有している点，発令文の歴史史料としての利用に一層拍車をかけるものとして注目される．なお，本稿の第一の目的はテキストの紹介にあり，歴史史料としての考察は両人がそれぞれ別稿にて行なうこととする．

(3) モンゴル時代の文書行政

すでにチンギス Činggis 時代より確認されるいくつかの発令文の存在[21]は，モンゴルがかなり早い時期から文書による行政を行なっていたことの傍証となる[22]．1253年の第1截，1261年の第2截，1268年の第3截の出現により，モンケ時代とパスパ文字成立（1269年）以前のクビライ時代においてウイグル文字モンゴル語を原文とする発令文が出されていたことが，編纂史料の分析からではなく「現物」を通して明らかになった．特異な文脈を持つ第1截は，モンケ時代の文書行政の流れを探るうえで，また，クビライ時代初期の発令文である第2截と第3截は，発令文の書式の変化を探るうえで，それぞれ格好の資料となる．

(a) 文書行政の流れ

第1截にみえる aman ǰarliγ（I 02）という一句は，従来知られていなかったものである．我々は aman（意味は「口」）と ǰarliγ とで「口頭のおおせ」という訳

(21) 最も古いものは，1219年5月1日付け陝西盩厔萬壽宮チンギス聖旨［蔡 1955, p. 115；陳 1988, p. 445］である．

(22) オゴデイ時代のモンゴル見聞記『黒韃事略』（蒙古史料四種本, pp. 482-483）の徐霆の疏には，回回方面には回回字を用い，中国方面には漢字を用いて文書行政を行なったと記す．後註 (73) を参照せよ．

を与えた．杉山氏は，皇帝の出す jarliγ や諸王・皇太后・皇后らの出す üge（意味は「言葉」）は「まず口頭で蒙古語によって発せられ，普通にはウイグル文字で書写されたのち[23]，非蒙古語の人間・地域を命令対象とする場合にはしばしば当該地域の言語・文字に訳された」と考えられたが[24]，ウイグル文字の文書碑刻にこの「口頭のおおせ」という一句が現れたことにより，杉山氏の考えは一段と補強された．

第1截は内容上大きくふたつの部分に分かれる．トゥルグタイとブカという二人の使臣に対して，少林長老にこのモンケのおおせを伝えよと命令する部分（I 01-02／漢 I 01-04）と，少林長老に対する命令の部分（I 03-12／漢 I 05-22）である．つまりこの発令文は，少林長老に対する命令であると同時に，使臣に対する命令でもあり，従来の発令文にはみられない命令の二重構造という特徴を持っている．ここで文末の delgebei（I 15：意味は「開いた」）／開（漢 I 24）の解釈が問題になる．発令文末尾に delge- や「開」一字が用いられた例はなく，普通第2截から第4截のように「書いた」bičibei／寫來で締め括られ，その年次は書記が文書を作成した時点を示していると考えられる．ところがモンゴル語の動詞 delge- にも漢語の「開」にも「書く」という意味は確認されないのである．

さて，発令文は，使臣がその文書を携え命令対象者のもとへ赴き目の前で「開読」，つまり文書を開いて口頭で伝えられたと考えられる[25]．1992年夏，松川が現地にて採録したウマの年（至元31年甲午, 1294）6月12日付け，大都路薊州平谷縣瑞屏山興隆寺淨嚴都老ら宛て成宗テムル Temür 聖旨碑碑陰の，聖旨の対訳モンゴル文直訳体漢文本文（未発表）の左側には「開讀使臣」の名が立石関係者のひとりとして挙がる．聖旨が間違いなく使臣によって開読されたことの例証となる．そこで我々は第1截のこの部分を「開読」の方向で解決しようとしている[26]．

---

(23) 1269年以降はウイグル文字を介さず，直接パスパ文字で書写された可能性もあろう．

(24) 杉山 1990a, p. 2.

(25) 例えば『通制条格』巻8・儀制（岡本 1964, p. 385）を見よ．

(26) 発令文に開読された年次が記される例は，1288年無錫免秀才雜泛差役詔碑［蔡 1955, p. 34］に求められる．「至元二十五年十一月日」と書写年次が記された後に「至元二十六年正月十九日到，開讀訖」と記されている．1280年靈仙飛泉觀碑［蔡 1955, p. 28］にも開読年次が本文中に見えている．

まず第一に少林長老に対して開読されたととれる．第二には皇帝モンケのおおせを聞き文書を作成した書記が，二人の使臣に対してそれを読み上げたことを意味するともとれなくはない．後者の場合，末尾の日付は少林長老に対してではなく使臣に対して発令文が読み上げられた時を示すことになる．が，この発令文は，少林寺に立つ碑石に刻されたことをみても原物は少林寺に保管されていたと考えられるし，最終的には少林長老に出されたものであり，日付はやはり少林長老に対して文書が開かれた時点を示していると考えたほうがより妥当であろう．日付については，使臣に文書が渡された時点ですでに書記により，少林長老に「開読」される予定日として書き入れられていたとは考えにくく，使臣が開読を行なった時に書き加えたものであろう．

第1截は，まず皇帝モンケにより二人の使臣に対して口頭でモンゴル語によって発せられ，それが書記によってウイグル文字で書写されたのち，漢語に訳され，使臣がその両文書を携え命令対象者少林長老のもとへ赴き，1253年12月7日にその目の前で文書を開いて口頭で伝えられた，と推定される．我々はここにひとつの案を示しただけであるが，いずれにせよ第1截の出現により，モンケ時代の文書行政の実像が一層具体的なものになったと言える．

(b) モンゴル文発令文の書式の定型化——「大元ウルス書式」の提唱——

近年，杉山・高橋両氏によって，クビライ以後のパスパ文字モンゴル文およびその直訳体漢文で記された発令文は，文体・用語・内容ともに著しい定型化が見られ，それ以前の発令文とは一線を画すことが指摘されている[27]．従来，パスパ文字モンゴル文およびその直訳体漢文の，またそれによって記された発令文の分析が可能であったのも，それ自体著しく定型化されたものであったからなのである．我々はここに1269年のパスパ文字制定に先立つクビライ初期のウイグル文字モンゴル文とその直訳体漢文合璧の発令文である1261年の第2截と1268年の第3截を新たに得た．これら二つの発令文は，クビライ期に発令文が

(27) 杉山 1990b, p. 104；高橋 1991, pp. 421-423.

定型化される過程を知る上で絶好の材料となる．本節では，第２截から第４截と同じくクビライ以後大元ウルス内で発令されたモンゴル文の特権付与型発令文の分析を中心に，適宜漢文発令文をも援用しながら，この問題について述べてみたい．あわせて発令文の書式に関して得られた新知見についても指摘する．

元朝皇帝が発令する聖旨の冒頭は次の３行が定式として知られている．

第１行；とこしえの天の力において möngke tngri-yin küčün-dür ／長生天的氣力裏

第２行；大いなる威福の輝きの加護において yeke suu ǰali-yin ibegen-dür ／大福蔭護助裏

第３行；カァンなる我らがおおせ qaγan ǰarliγ manu ／皇帝聖旨

第３截（III 01-03／漢 III 01-03）・第４截（IV 01-03／漢 IV 01-03）にはこれら３行は全て存在するが，第２截には第２行が見えない．第１行に関してはすでに杉山氏がそのヴァリエーションと定形化の過程をまとめている[28]．杉山氏によるとこの常套句は，1246年ローマ教皇宛てグユク Güyük の国書に捺されたウイグル文字モンゴル文の印璽[29]に初出，モンケ時代より定形化が認められるといい，確かに第２截にも見えている．

第２行については第３截以前のモンゴル文発令文には実例がない．そこで，これに対応する漢訳「大福蔭護助裏」とそのヴァリエーションを，第３截が発令された1268年以前の漢文聖旨に限らず令旨（諸王の発令文），懿旨（皇太后・皇后の発令文）にも求め，最終的に聖旨の定型句となる過程を見る[30]．

(1) 1247年２月某日付け趙州太清觀ソルコクタニ Sorquqtani 懿旨

「長生天的氣力裏，谷裕皇帝福蔭裏，唆魯古唐妃懿旨」

---

(28) 杉山 1990b, pp. 93-98.

(29) Pelliot 1923, p. 22, pl. 2.

(30) (1) は陳 1988, pp. 840-841. (2) は蔡 1955, p. 16；陳 1988, p. 446. (3) は陳 1988, p. 841. (3) は潜邸時代のクビライの発令文である．(4) は蔡 1955, p. 38；陳 1988, p. 855. 蔡氏はこの (4) をテムル時代に繋年しているが，「開平府」で書かれており，クビライ時代の1260年に訂正される，cf. 杉山 1990b, p. 96. (6) は蔡 1955, p. 22. (8) は陳 1988, p. 598；北京図書館 1990 (48), p. 48.

(2) 1250年11月19日付け盤屋萬壽宮メルギデイ Mergidei 令旨

「天地底氣力裏，大福蔭護助裏，彌里杲帶太子令旨」

(3) 1252年９月某日付け汲縣太一廣福萬壽宮クビライ令旨

「長生天底氣力裏，蒙哥皇帝福蔭裏，忽必烈大王令旨」

(4) 1260年６月14日付け彰徳上清正一宮クビライ聖旨

「長生天底氣力裏，皇帝聖旨」

(5)1261年６月初１日付け登封縣少林寺クビライ聖旨（漢 II 01-02）

「長生天底氣力裏，皇帝聖旨」

(6)1261年某月某日付け林縣寶嚴寺クビライ聖旨

「長生天氣力裏，大福蔭護助裏，皇帝聖旨」

(7)1268年１月25日付け登封縣少林寺クビライ聖旨（漢 III 01-02）

「長生天氣力裏，大福蔭護助裏，皇帝聖旨」

(8)1270年３月某日付け掖縣萬壽宮クビライ聖旨

「長生天氣力裏，大福蔭護助裏，皇帝聖旨」

その原型は「谷裕皇帝福蔭裏」としてすでに(1)にみえ，完全な形「大福蔭護助裏」としては(2)が初出であり，(3)で「長生天底氣力裏」とセットになっているが(1)と同じ「蒙哥皇帝福蔭裏」という句作りであって，クビライ時代（1260－1294）以前は「大福蔭護助裏」として定形化していないことがわかる．クビライ時代に入っても最初期の事例である(4)(5)では「大福蔭護助裏」はみえず，(6)を境にして以後聖旨の冒頭は上掲の３行に定形化・固定化される．以上の考察よって，第２行はクビライ時代初期に聖旨の冒頭句として定形化されたことが明かになる．

クビライが発令文の書式を統一し，文書行政を一層推し進めようとしていたことは，編纂史料の分析からも明かである．例えば，『元史』巻7・世祖本紀・至元７年（1270）正月丁卯の条（p. 127）には「定省・院・臺文移體式」とあり，中書省・枢密院・御史台の中央官庁の文書発行の体式を定め，文書行政の整備・確立が図られていることがわかる．また『同』５月乙卯の条（pp. 129-130）には「諸王遣使取索諸物及鋪馬等事，自今並以文移，毋得口傳教令」とあり，諸王は命令を文書によって行なうよう定められ口伝することは禁じられているの

である．1269年に書写用のパスパ文字を新たに創作しウイグル文字に代わって「国字」として制定した裏には，一つにはこれを機に大々的に発令文の書式を定型化・固定化させようとしたクビライの意図があったと考えられる．そしてこのパスパ文字モンゴル文とその直訳体漢文の発令文には著しい定型化の見られることが，従来より指摘されているのである．

再び少林寺聖旨碑に戻って発令文の用語の確定・統一の例を求めれば，まず税に関するモンゴル語の術語が第2截・第3截では後のものと異なっていることが挙げられる．地税が漢語「税」の音写 sui (II 20, III 11, 24) で現れるのは実は本碑のみであり，パスパ文字発令文においてはすべて第4截のように漢語「倉」の音写 cań (IV 23) で現れる[31]．また，パスパ文字モンゴル文の発令文では下の者から上の者に申し上げるときは常に öči- が用いられる[32]のだが，第2截・第3截では jiγa-(II 36, III 43) が用いられている．jiγa- の用例が少なく決定的ではないが，以上の考察を踏まえればパスパ文字成立以前は jiγa-，成立以後は öči- が用いられるようになったと考えても大過あるまい．

パスパ文字モンゴル文の文書原物[33]を見ると，3行の冒頭定型句のあとに発令文を告知する対象者が列挙されるが，その始めの3行は行頭をかなり下げて書き始められる．文末の3行も同じく行頭を同程度下げて書かれる．どちらも文章の繋がりは全く無視され，3行の行頭を揃えて下げることが優先される．そしてこの2ヶ所には例外なく必ず印璽が捺されるのである．印璽はこの2ヶ所以外に，その中間の行頭にもう1ヶ所，文書そのものが相対的に長い場合には2ヶ所に捺される．その際，全体として左右対称になるように配慮されている．この形式は聖旨に限らず令旨・懿旨などでも遵守されている．碑刻の場合，どの程度原文書に忠実であるか問題であるが，本碑第4截の様に各3行ず

(31) cań の初出は1276年正月26日付け龍門禹王廟マンガラ Mangγala 令旨 [cf. 杉山 1990a, p. 24] である．

(32) 1280年陝西盩厔萬壽宮クビライ聖旨 [cf. 杉山 1990a, p. 25]，1314年盩厔萬壽宮アユルバルワダ聖旨 [cf. 杉山 1990a, p. 26] では両者ともパスパ文字で öčidkün (漢訳は奏者) と見えている．なお，『元朝秘史』でも jiγa- の用例はなく，öči- のみである．

(33) 照那斯図 1991に収められた原物の写真を参照されたい．

つ下げているものもあれば，スペースの都合によるのか無視されているものもある．ちなみにウイグル文字モンゴル文の文書碑刻である第２截・第３截では，前半の３行は下げられているが，末尾は第２截が１行のみ，第３截は２行のみが下げられている．従って上述のようなパスパ文字文書に見られる定型も，クビライ時代初期の雛型を経て，パスパ文字成立と共に確立した可能性が高い．印璽については，偽造を防ぐため至元５年（1268）以降碑に刻むことは禁止されており[34]，延祐元年(1314) 立石の本碑にも印璽は刻まれていない．ただし，1268年以降の文書碑刻の中には，本来印璽が捺されていた部分に漢字で「寶」[35]，またはパスパ字でその音写 baw あるいは bao と刻まれたものもある[36]．

大元ウルス内で発令された発令文は，先例皇帝として元朝創始者クビライ以前のチンギス・オゴデイの名も必ず挙げるのだが，グユクとモンケの名は決して挙げることはない[37]．元代には，大都及びその郊外に歴代皇帝ごとにその命令で寺院が建てられ，その皇帝の死後，寺院内に神御殿が建てられ皇后とともにその御容もしくは像が納められた[38]．ところが，その概要を記した『元史』巻75・祭祀志４・神御殿の条 (pp. 1875-1877) をみると，やはりここにもグユクとモンケの名がみえないことに気付く[39]．これはグユク・モンケ即位時のオゴデイ家とトルイ Tolui 家との皇位をめぐる確執，およびモンケ時代のモンケとクビライとの不仲を反映したものであろう．

以上は元代を通じて見受けられる特徴であるが，次第に新しい書式が付加される場合もある．クビライ期の発令文に先例としてオゴデイが挙げられるとき

---

(34) 『元典章』巻33・禮部６・雜例, 15葉ａ，碑上不得鐫寶の条.

(35) 1314年盩厔萬壽宮アユルバルワダ聖旨 [cf. 杉山 1990a, pp. 25-26] など.

(36) 1289年 (or 1277年) 交城縣石壁山玄中寺クビライ聖旨 [cf. 杉山 1990a, p. 25] など.

(37) cf. II 08／漢 II 06, III 10／漢 III 07-08, IV 09-11／漢 IV 07-11. 1280年萊州萬壽宮勢都兒令旨 [蔡 1955, p. 27；陳 1988, pp. 631-632, 図14；北京図書館金石組 1990 (48), p. 80] がモンケを挙げる唯一の例外である.

(38) cf. 大藪 1971, pp. 133-136.

(39) 但し太廟にはグユクもモンケも祀られている，cf.『元史』巻74・祭祀志・宗廟上の条, p. 1832.

は，実名は避けられQaγan／合罕皇帝（III 10／漢 III 08）[40]などと記される．ところが成宗テムル時代以降はÖködeį／月闊台皇帝（IV 09／漢 IV 08）[41]などと実名で記され，決してQaγan／合罕皇帝などとは記されないのである．オゴデイがどのように記されるかはその発令文がクビライ期のものであるか否かを判断する材料の一つとなる．であるから，蔡美彪氏によってテムル時代に繋年される彰徳上清正一宮のサルの年の聖旨とトリの年の聖旨[42]は，いずれも「哈罕皇帝」と記されており，それぞれ1272年壬申あるいは1284年甲申，1273年癸酉あるいは1285年乙酉のクビライ聖旨と訂正されねばならない．

書式の変化の中には，歴代皇帝の政治姿勢が具現化されていることが明確に認められる場合もある．クビライ以降の聖旨中には，免税・免役対象として「仏僧たち・ネストリウス教士たち・道士たち・ムスリム識者たち」（II 08／漢 II 06, III 11／漢 III 08）が原則としてこの順に挙げられるようになるが[43]，このうちムスリム識者dašmad／荅失蠻を挙げるか否かは歴代皇帝ごとに差が認められる[44]．照那斯図1991に収められたパスパ文字モンゴル文聖旨と，蔡1955と陳1988に収められた漢文聖旨とを通覧してみると，世祖クビライ[45]・泰定帝イスン

---

(40) その他，1276年龍門禹王廟マンガラ令旨［cf. 杉山 1990a, pp. 24-25］はQān／匣罕皇帝，1277年あるいは1289年純陽萬壽宮クビライ聖旨［陳 1988, pp. 781-782］は「哈罕皇帝」，1277年あるいは1289年チベットのルンRung地方のラジェセンゲペルlHa rje seng ghe dpa(l)宛てクビライ聖旨原物［Bosson 1985；Süngrüb 1990, pp. 4-10；照那斯図 1991, pp. 11-15］はQān，1293年趙州栢林寺クビライ聖旨［蔡 1955, p. 35］は「皇帝」．本碑第3截は，発令文で先例皇帝としてオゴデイが挙げられる初出である．

(41) 漢文のバリエーションについては，cf. 蔡 1955, p. 40, n. 1．成宗テムルの聖旨の例を挙げると，1295年鄭州滎陽洞林テムル聖旨［蔡 1955, p. 36］と1296年盩厔太清宗聖宮テムル聖旨［蔡 1955, p. 40］は「月古歹皇帝」，1293年趙州栢林寺テムル聖旨［蔡 1955, p. 37］は「月闊歹皇帝」．

(42) 蔡 1955, pp. 39, 41.

(43) 1260年6月14日付け彰徳上清正一宮クビライ聖旨［蔡 1955, p. 38；陳 1988, p. 855］に初出する．ただしそこには仏僧は「脱因」と単数形toyinを音写した形で出ている．

(44) 杉山 1991b, p. 43.

(45) 我々が把握する23件中，彰徳上清正一宮に発令されたサル年（1273 or 1285）クビライ聖旨［蔡 1955, p. 41；陳 1988, p. 856］，1277年あるいは1289年ラジェセンゲペル宛てクビライ聖旨原物［Bosson 1985；Süngrüb 1990, pp. 4-10；照那斯図 1991, pp. 11-15］，1293年趙州栢林寺クビライ聖旨［蔡 1955, p. 35］の3件に見えないのを例外とする．

テムル Yisün temür・文宗トクテムル Toγ temür[46]の聖旨には挙げられ，成宗テムル・武宗カイシャン・仁宗アユルバルワダの聖旨には挙げられないという傾向が看取され，各時代の令旨・懿旨もこれに準拠しているのがわかる[47]．順帝トゴンテムル Toγon temür 時代については杉山氏が指摘しているように一貫した傾向がない．

また，この順帝の聖旨には，至元３年（1337）までは文宗トクテムルが先例として挙げられるが，至正元年（1341）以降は全く見えなくなる．すでに杉山氏が指摘しているように，これは順帝による文宗への忌避に対応する[48]．順帝はこの1341年の６月に太廟から文宗の木主（位牌）を撤去し，文宗の皇后と息子を流刑に処している．その理由は，『元史』巻40・順帝本紀・至元６年（1340）６月丙申の条（pp. 856-857）に載る詔に明記されるように，文宗は順帝の父明宗を暗殺して帝位に就いたのであり，順帝にとって文宗は仇敵であったからである．順帝は，同1340年12月に天暦年間以後つまり文宗時代に増設された官署の廃止を行ない[49]，翌年には元号を「至正」と改めている．文宗体制との決別と新体制の発足を内外に明確に示したのである．顕宗カマラ Kamala の血脈を引く泰定帝イスンテムルとその子天順帝アリギバ Arigiba の名が，順宗ダルマバラ Darmabala の血脈を引く文宗や順帝の発令文に現れないのは，英宗シティバラ Sitibal-a の死後におこった帝位争いに後者が勝ち残ったからである．敗者には廟号すら贈られていない．このように皇帝位をめぐる争いは発令文の書式にも反映されるのである．

少林寺聖旨碑に刻まれた聖旨第２截から第４截を手掛かりに，著しい定型化が見られる元朝期のモンゴル文発令文の書式に関して気が付く限り記してき

(46) 1330年鑿屋太清宗聖宮トクテムル聖旨［蔡 1955, p. 81；陳 1988, p. 685］では「先生」の前に「答失［蠻］」が挙げられる点，注目される．蠻字は欠けている．

(47) 英宗シティバラ（在位1320-1323）の聖旨の存在は確認されないが，1321年発令の濬縣天寧寺クンガロトーゲェンツェン Kun dga' blo gros rgyal mtshan 帝師法旨［cf. 杉山 1990a, p. 27］と同年発令の易縣龍興観ダギ Dagi 皇太后懿旨［cf. 杉山 1990a, p. 27］には挙げられていない．

(48) 杉山 1991b, p. 43.

(49) 『元史』巻40・順帝本紀・至元６年（1340）12月戊子の条，p. 859.

た．以上によって，この書式は，その雛型がクビライ初期に出現し，次いで1269年のパスパ文字制定を一大転機として成立したものであり，以後の歴代皇帝が細部に「個性」を忍び込ませる場合もあったにしろ，基本型はそのまま踏襲されていた，との結論が得られよう．ただし，クビライが確立したこの書式は，パスパ文字の有効範囲と同様に大元ウルス内に限って強制力を有するものであったと考えられる．つまり，大元ウルスの発令文は，それ以前のものとも，さらには本稿では実際に比較検討を行なえなかったがジョチ J̌oči・チャガタイ Čaγatai・フレグ Hülegü の各ウルスのものとも一線を画す一群のもとしてとらえられるのではないだろうか．我々は杉山・高橋両氏の指摘を敷衍させて，この一群の書式を「大元ウルス書式」と呼びたい．これは，同じく元朝期に出されたモンゴル文直訳体漢文やチベット文で記された発令文の研究，さらには他の各ウルスの発令文の書式との比較検討を詳細に行なうことにより，その全体像がより鮮明な姿をもって現れるはずである．（中）

(4) 13～14世紀モンゴル語資料の体系の中で

蒙漢合璧少林寺聖旨碑の発現により，13～14世紀のモンゴル支配時代におけるモンゴル語文献研究は新たな段階を迎えたといっても過言ではない．何よりも特筆に値するのは，これだけのまとまった量の文字資料が新たに発現したために，従来十指に満たなかった13世紀のウイグル文字モンゴル語資料が，量的に倍増したことである[50]．そこで本章では，モンゴル語文字資料として本碑文が持つ意義，特に13～14世紀ウイグル文字モンゴル語資料[51]の体系の中で持つ価値

(50) 現在までに知られているウイグル文字モンゴル語資料で13世紀に繫年されるものは，モンゴリア・中国出土のものが4点，計13行，58語；グユク及びフレグ＝ウルス諸カンの対外文書が4点，計90行，333語であるが，少林寺聖旨碑は第1截が15行87語；第2截が39行249語；第3截が49行253語で，総計103行589語に及ぶ．

(51) モンゴル学者は13～16世紀のモンゴル語を中期モンゴル語 Middle Mongolian と分類し，書写語に注目した場合には先古典期モンゴル文語 Pre-classical Written Mongolian と称する，see Poppe 1974, pp. 1-3. 本稿ではモンゴル帝国という政治的求心力に着目して，時代を13～14世紀のみに限定した．

を考察してみたい.

(a) ウイグル文字モンゴル語資料としての価値

ウイグル文字はモンゴル人が最初に採用した文字であり，次第に改良が加えられて17世紀以降「モンゴル文字 Mongγol üsüg」と呼ばれるようになり[52]，現在にまで伝えられてきたものである．モンゴル帝国の版図を通して最も普及していた文字であり，モンゴル王族の発令文・駅伝用のパイザと駅伝利用特許状・対外文書といった公文書から，紀功碑・手紙・文字の練習・契約文書といった私文書や，チベット語やウイグル語からの翻訳仏典，漢文古典の翻訳，はては仏教寺院に参拝した信者による落書きまで，最も豊富な内容を持っている．これらのモンゴル支配時代のウイグル文字モンゴル語文献は，1972年にハンガリーのリゲティ L. Ligeti 氏によって『先古典期モンゴル語文献 1. 13～14世紀』と題して集成され，簡単に通検できるようになった[53].

さて，クビライが漢地を支配し，中国的行政組織を導入する以前にも，チンギスを始めとする歴代モンゴル皇帝はウイグル文字モンゴル語で文書行政を行なっていたはずであり，それは，『黒韃事略』中の彭大雅 (及び徐霆の疏) の記述[54]や，各皇帝の命令がモンゴル文直訳体漢文で書かれた碑刻で残っていること[55]か

(52) モンゴル人が借用したウイグル起源の文字を自ら「モンゴル文字 Mongγol üsüg」と称するようになったのはずっと後代のことで，史料上は18世紀前半の雍正年間 (1723-1735) に成立したモンゴル語文法の注釈書『ズルヘン＝トルタ』より古くは遡り得ない．これは，18世紀に至るまで，Mongγol üsüg という術語が，チベット語で「パスパ文字」を表す Hor yig「ホル・モンゴルの文字」に対するモンゴル語のカルク calque としても使われていたためと思われる．『ズルヘン＝トルタ』についてはペリオ氏の見解を紹介・追認した石田1930を見よ．

(53) See Ligeti 1972a (texts), 1970 / 1972c (indices). この集成の発刊以来，新たにアラビア文字ペルシア語とウイグル文字モンゴル語の合璧文書 (see Herrman, G. & G. Doerfer 1975a, 1975b) や，敦煌石窟の銘文 (see 敦煌研究院考古研究所・内蒙古師範大学蒙文系 1990)・安西楡林窟の銘文 (see 哈斯額爾敦・巴音巴特爾・嘎日迪 1992) などが発現し，解読が発表されている．

(54) See 後註 (62), (73).

(55) 1223年３月某日付け盌屋重陽萬壽宮チンギス聖旨が最古のものである，See 蔡 1955, p. 1 ; 陳1988, p. 445.

らも，十分に予測できたところであった．ところが，1269年にパスパ字が採用されるより前のウイグル文字モンゴル語資料の残存状況をみると，意外に少ないことに気づく．年代決定が可能な文書や碑刻は13世紀後半以降のものならばまとまって存在しているが，13世紀前半のものとなるとそれは極めて少数である．この時期のウイグル文字モンゴル語資料として，現時点では以下のものが知られている．

1．イスンゲ Yisüngge 紀功碑[56]

俗に「チンギス・カン碑石」と呼ばれる．内容は，チンギスがホラズム遠征からの帰途上，1224年秋にイルティッシュ Iltiš 河畔に宿営し，遠射大会が開催されたときに，チンギスの次弟ジョチ・カサル Joči Qasar の子イスンゲが強弓ぶりを発揮したことを称えるものである．その成立は1224年か，チンギス一行がトーラ河畔のオルドに帰還した1225年とされ，現存する最古のモンゴル語資料と見なされてきた[57]．しかしながら碑石は中央アジアではなく，イスンゲの所領である東モンゴリアのアルグン Aryun 河流域から発見されたのであり，ラケヴィルツ I. de Rachewiltz 氏が指摘したように，その成立時期はイスンゲが歴史の表舞台に登場するモンケ時代からクビライ即位期，さらにはイスンゲ死後の1270年代にまで下る可能性がある[58]．

2．漢文発令文のモンゴル語添書

(1) 河南省濟源市十方大紫微宮 (現存) ネズミの年 (庚子，西暦1240) 懿旨碑添書 (3行)[59]．

(2) 陝西省草堂寺 (現存) 闊端 Köden 太子令旨碑添書：第1截＝癸卯年 (西暦1243)，第4截＝丁未年 (西暦1247) (それぞれ1行ずつ)[60]．

(3) 丁巳年 (西暦1257) 釋迦院碑記添書 (3行)[61]．

---

(56) See Radloff 1892 ; Rinčen 1959, Fig. 6.

(57) See Rachewiltz 1976, p. 487, p. 496, Note 2.

(58) See Rachewiltz 1976, pp. 491-495.

(59) See 蔡 1955, 図 (2), p. 7, (6).

(60) See 杉山 1990b, 図版 1, 2, p. 105.

(61) See Rinčen 1959, Fig. 1 ; Poppe & Kun Chang & Hurvitz 1961 ; 陳 1983. 碑石はモンゴル国立中央博物館に現存する．

これらのモンゴル文は，各々の碑刻の中では漢文の本文に対する「添え書き」としての意味を持っているのであって，モンゴル文のみで完結した内容を持つものではない[62].

3．1246年ローマ教皇宛てグユク Güyüg の国書に捺された印璽[63]

この国書の本文はアラビア文字ペルシア語であり，ウイグル文字モンゴル語の印璽が2ヵ所に捺されている．印璽の内容は，命令文末尾やパイザに書かれる威嚇文言と同類のものなので，この印璽自体を「聖旨」と看做すことはできない．本文冒頭には印璽中のモンゴル語の前半部分がウイグル語訳され，アラビア文字で3行にわたって記される．本書簡は，プラノ＝カルピニのジョヴァンニ修道士の記述によると，本文が「タルタル語」のものと「イスラム教徒の文字」のもの2通が交付され，ジョヴァンニ修道士によるラテン語訳と共に3通が存在していたが[64]，残念ながら「タルタル語」の本文は伝存していない．

これらを通観して感じることは，各々はモンゴル語の言語資料として第一級の価値を持ちながらも，文書学的に見れば他言語で書かれた本文に対してそれを補う機能を果たしているにすぎないということである．唯一モンゴル語のみで完結しているイスンゲ紀功碑にしても，成立年代を特定できないため，成立

---

(62) 例えば(1)のモンゴル文3行は，漢文懿旨本文最終行の「如違要罪過者」という表現と発令年「庚子年」に対応する．碑陰に刻文は存在しないため，モンゴル文はこの3行のみが刻されたと言える．この3行が漢文懿旨の内容をモンゴル語で要約したものであるのか，それとも漢文懿旨に対応するモンゴル文懿旨が元々あってその末尾のみが刻されたのか，知る手だては残されていない．ただし広い目で見れば，令旨・懿旨・鈞旨といった聖旨以外の漢文発令文がモンゴル文との合璧ではなく単行で発令される場合，その末尾にモンゴル文(或いはアラビア文字ペルシア文)を記すという文書形式がモンゴル帝国・元朝期を通して存在していたのかもしれない．例えば曲阜顔子廟大徳11年(1307) 10月中書省傍禁約暁諭碑の末尾には，アラビア文字ペルシア文2行とパスパ文字モンゴル文1行が記される，see Chavennes 1908, No. XXVI, planche 3 ; Pelliot 1913, pp. 185-191 ; Ligeti 1972b, pp. 117-119. そのようなタイプの原型として，『黒韃事略』徐霆の疏に「(漢文文書の)後面の年月の前に鎮海が親ら回回字を写き，『某人に付与す』と云う．」と表現された文書形式を想定することも可能である，see 杉山 1990b, p. 105.

(63) See Pelliot 1923, pl. 2.

(64) See 護(訳) 1965, pp. 83-84.

の背景にまで遡って資料の性格付けを行なうことは困難になっている．

このような資料状況において新たに少林寺聖旨碑が発現した意義は大きい．本聖旨のモンゴル文面は文書として自己完結しており，漢文面との関係は完全に対等である．むしろ先に我々が推論したように，モンゴル語で発令された聖旨が漢文に翻訳されたことと，碑陽がモンゴル文面であったことを考慮すれば，モンゴル文面こそが主であり，漢文面は副であったと言える．しかも文面から発令者・宛先・内容・発令年月日・発令地を読み取ることができ，原文書ではなく碑刻であることを割り引いても文書学的研究の必要条件を一応備えている．

次に重要なのは，本聖旨碑のモンゴル文面第１截～第３截が，モンゴル大皇帝の聖旨 jarliγ の本文をウイグル文字で記した初例となることである．13世紀初頭以来のモンゴル語文章語の形成過程において，唯一求心力を持ち得たのは書記（ビチグチ）を擁するモンゴル大皇帝の官房であった．この官房から発令されたモンゴル語文書は当時未成熟であったモンゴル文章語の規範となり，現在にまで至るモンゴル文語の伝統を形成する核となったはずである．

その官房モンゴル語を表した発令文書のうち最も権威を持っていた「聖旨」は，従来，パスパ文字モンゴル語による文書・碑刻と，『元朝秘史』・『華夷譯語』といった編纂史料 に漢字音写モンゴル語で引用されたものでしか残っておらず，しかも両文字はモンゴル語の口語音を反映したものであった．このうち，明代初期の編纂に係る漢字音写モンゴル語資料は措くとして，第５代皇帝クビライが大元ウルスの確立とともにその支配体制を強化する方策のひとつとして1269年に新たにパスパ文字を導入し，大元ウルスの政治的中枢レヴェルの文書行政においてこれを公用文字として使用するよう義務づけたことは，ウイグル文字によるモンゴル文章語の発展にとって一大転機となるものであった．なぜなら，これ以降1368年に大元ウルスが崩壊するまで，大皇帝の聖旨は口語を記したパスパ文字によって発令され続けたため，官房におけるウイグル文字の用途は半減し，少なくとも以前のようにウイグル文字によるモンゴル文章語

を官房言語として整備・発展させる努力が続いたとは考えにくいからである．

その意味で，本聖旨碑モンゴル文面のうちクビライによってウイグル文字で発令された第2截と第3截は，13世紀モンゴル大皇帝の官房における文章語の一つの完成形態を示していると言えよう．

別の面で興味深いことは，この第2截と第3截が，同じクビライによって後に発令されたパスパ文字モンゴル語・漢文合璧の聖旨[65]と極めて似た文脈を含んでいることである．すなわち，クビライの「おおせ」はウイグル文字でもパスパ文字でも記されたことになり，ここに，我々は今まで共通点を見い出し得なかったウイグル文字モンゴル語とパスパ文字モンゴル語の音韻体系及び文字体系を直接結び付ける資料を手にしたことになる．

パスパ文字モンゴル語資料には他の文字資料や方言には見られない独特な綴字が存在するが，その相違が単に表記上の特徴に依る[66]のか，それとも当時の方言上の差異を表している[67]のかは未だに結論が出ていない．我々は本聖旨碑中のウイグル文字モンゴル語の綴り字をパスパ文字聖旨のそれと比較することにより，この理由の一部を明らかにすることができるだろう[68]．

---

(65) See 杉山 1990a, p. 25, I-2 : タツの年 (至元17年庚辰，西暦1280･･･年代比定は杉山氏) 11月初5日，陝西省盩厔県重陽萬壽宮 (現存) Qubilai 聖旨 (Jarliγ) 碑．発令地は大都．もちろん，この聖旨は道教の宮観に発令されたものなので，少林寺聖旨碑と異なる点も当然存在する．ヘーニッシュ E. Haenisch 氏はこの碑文を含めて重陽万寿宮にある3つの蒙漢合璧碑を学界に初めて紹介した，see Haenisch 1940. 因みに，2つめは1314年アユルバルワダ聖旨碑，3つめは1351年トゴン＝テムル聖旨碑と，発令者は異なるが，どれもその他の聖旨碑には見られない文脈を共通して含んでいる．いずれもクビライ以降の聖旨の形式を追跡するための好材料である．

(66) See 服部 1984.

(67) See 長田 1952.

(68) 例えば，パスパ文字聖旨冒頭の「とこしえの」という意味の単語が *môn-k'a* と後舌母音で綴られる理由は，本聖旨碑において同じ単語が mǫngke (MWNKK') と，やはり第一音節にそれが前舌母音であることを示すyod (Y) 文字を書くことなしに綴られていることから説明できる．なぜならパスパ文字命令文において，前註(65)で引用した至元17年重陽萬壽宮クビライ聖旨碑と，同じ註(65)で「2つめ」とした1314年アユルバルワダ聖旨碑のみに2回ずつ計4回現れ，例外なく *jų-ki-yär* と第一音節のみが後舌母音で綴られる単語 *jų̈k-iyer*「正しく」(> 現代モンゴル文語 jüger「良く」) は，本聖旨碑にお ↗

(b) ウイグル文字モンゴル文面の特徴

文字表記の特徴

第1截～第3截には以下に一覧表として掲げる文字素 grapheme が現れる．括弧内に翻字を示す．

aleph (') beth (β) waw (W) zain (Z) heth (X) yod (Y) kaph (K)

daleth (D) mem (M) nun (N) pe (P) sadhe (C) resh (R) sin (S)

taw (T) hooked resh (L)

識別符号は，左1点が nun に，左2点が heth に，右2点が sin に付けられることがある．それぞれ，Ṅ, Ẋ, Ṡ で翻字する．

句読点は1点だけが使われ，縦2点や4点は見られない．第1截に句読点はなく，第2截に44箇所，第3截には34箇所に1点の句読点が打たれる．特徴的なのは，単語末に aleph の語末形的要素（aleph, nun, taw の3文字素に含まれる）が来る場合，すなわち縦棒が真下に降ろされる場合は，その縦棒の中程左側に句読点が打たれることである[69]．埋め草文字 line-filler は見られない．

第1截から第3截にわたってウイグル文字の字体は微妙に異なっている．特に，waw (W) 文字と yod (Y) 文字がそれぞれ独立形で現れるときの字形が截によって異なっていることは，原文書における字形の差異が刻面に忠実に反映された結果と見なすことができる．

綴り字上の特徴

本聖旨碑のウイグル文字モンゴル語には，いわゆる「先古典期モンゴル文語」に特徴的な正書法が見られる．ここでは，リゲティ氏が『先古典期モンゴル語文献 1.13～14世紀』において示した[70]順番に従って，本聖旨碑に現れるもののみ

↗ いて ǰugiyer (第2截)；ǰugiger (第3截) と，やはり例外なく第一音節にそれが前舌母音であることを示すyod (Y) 文字を書くことなしに綴られていることからである．詳しくは別稿で論じたい．

(69) 類例がフレグ＝ウルス君主アバガ Abaγa の1267年 (或いは1279年) の手紙に見られる，see Mostaert & Cleaves 1952, planche I, lignes 2, 7, 11.

(70) See Ligeti 1972a, pp. 9-12.

を示す.[71]

・語頭の e 音を aleph 2つ ('') で表記：ą̈de, ą̈le, ą̈ne, ą̈regüi, ą̈se.

・第一音節の ö, ü 音を aleph, waw ('W) で表記：ǰ̣ugiger, ǰ̣ugiyer, mo̱ngke, u̱iledbesü, u̱iledtügei, u̱iles.

・nun (N) 文字に対する左一点：čanglau, danǰu, sinete.

・γ 音を表す heth (X) 文字に対する左二点：noyad-luγa.

・š 音を表す sin (S) 文字 (識別符号なし)：dašmad, Šagimuni, Šeülim, Šing, Šuui.

・š 音を表す sin (S) 文字に対する右二点：Šeülim.

t 音と d 音を表す taw (T) 文字と daleth (D) 文字については，以下のような原則が見られる.

・語頭および接尾字頭には，音価にかかわらず必ず taw 文字が使われる.

・語末においては，少数の例外 (ked, singsingüd) のみを除いて taw 文字が使われる.

・語中の位置においては，t, d という音価と taw, daleth という文字の間に何ら定まった使い分けを見い出すことができない.

その他，語末の s 音は zain (Z) 文字で，語中の č, ǰ 音は共に sadhe (C) 文字で

---

(71) モンゴル文字はウイグル文字をそのまま借用したために，モンゴル語の複数の音素を1つの文字で表記せざるをえないという正書法上の制約を当初から持っており，またモンゴル人がウイグル文字を借用した13世紀における，ウイグル文字自体が持っていた正書法上の混乱をそのまま受け継いできた．こうした正書法上の混乱がモンゴル人文法学者の手によって整備され，新たな統一的正書法が確立されていったのは16～18世紀のことで，このころにモンゴル語のいわゆる「古典的正書法」が成立した背景には，チベット新仏教（ゲールクパ）のモンゴル流入に伴う仏教言語学（声明）の体系化があった．それまではモンゴル語内部における正書法の目立った改変は見られない.

モンゴル文語の歴史を総体として捉えれば，この古典的正書法に基づく「古典期モンゴル文語」こそが文語のひとつの完成形態を示していると見なせよう．従って，これに先立つ13～14世紀の「先古典期モンゴル文語」をローマ字表記する際に，古典的正書法から逸脱する要素を識別符号付きで示すという一見歴史的には逆行するリゲティ式の転写方法も，先古典期正書法の中に古典的正書法へと収斂する要素を見い出すという意味においては有効である.

表される．

ウイグル的要素

本聖旨碑のモンゴル文面には多くのウイグル的要素が見られる．先古典期モンゴル語におけるウイグル的要素に関しては従来より指摘されてきているが[72]，ここで特筆に値するのは，第2截の発令年の表示 (II-38) に taqïγu「トリ」というウイグル語がモンゴル語の takiya「トリ」を押し退けて使われていることである．モンゴル語命令文書の発令年表示にウイグル語の十二支名が使われた例は今まで知られていない．

次に綴り字におけるウイグル的要素を列挙しよう．第一に，使われている文字素全てがウイグル文字[73]からの借用であることが挙げられる．この段階では，語頭の j 音と y 音を区別する文字も，語中の j 音と č 音を区別する文字も作られていなかった．

第二に，正書法的にもウイグル文字ウイグル語のそれを踏襲している．例えば，前舌母音 ö, ü を第一音節に持つ単語が語頭に yod 文字を持つ場合 (Uig. yuz「百」; Mong. jügiger「正しく」)，母音 ö, ü は yod 文字を伴わず waw 文字だけで表される．またモンゴル語において，tngri, jrlγ といった母音を省いた綴り字がウイグル語と共通する単語のみに見られるという事実は，これらの単語がウイグル語からモンゴル語に借用されたことを示している．

さらに，モンゴル語の語末の s 音をウイグル文字 zain (Z) で表記するのも先古典期モンゴル文語が持つウイグル的伝統である．それに加えて本碑では，

---

(72) See Kapa 1972, pp. 15-27, 49; Kapa 1981; 庄垣内 1990.

(73) 13世紀当時のウイグル字母に関して従来学界で問題にされてきたのは，『黒韃事略』の徐霆の疏に見える「回回字は只二十一箇の字母有り」という有名な記述である（蒙古史料四種本, pp. 482-483）．この「回回字」がウイグル文字を指すとの見解は，古くからペリオ氏，クリーブス氏によって主張されてきたが，ウイグル字母をどのように数えれば21字になるのかという問題は解決されていない，see Cleaves 1951b, pp. 493-501．最近杉山氏は，この「回回字」については，加えてペルシア語を表すアラビア文字であるという可能性をも考慮すべきだと指摘された，see 杉山 1990b, p. 103.

しかしながら筆者らは森安孝夫大阪大学助教授より，トゥルファン文書及びベゼクリク千仏洞の壁画上に書かれた10～14世紀のウイグル文字アルファベット表による↗

dabus-un (T'PWZ-WN)「塩」のように，語中のs音の表示にもzain (Z)文字の中絶末位形が使われる例が一度だけある(74)（ウイグル語では語中のzain文字は必ず中絶末位形で書かれる）.

taw文字とdaleth文字の使用に関しては，ウイグル語の影響が一層顕著である．すでにウラジーミルツォフ氏によって指摘されているとおり，ウイグル語の単語はほとんどが語頭と語末に（d音ではなく）t音を持つためにそれらの表記にはtaw文字が使われていたが，モンゴル人はこれを正書法として受け入れ，語頭と語末においてはt, dの音価に関係なくtaw文字を用いることにした(75).

本聖旨碑では，分ち書きされる単語頭のt, d音はそれが接尾辞頭であっても全てtaw文字で書かれており，そこでは，分ち書きされる接尾辞頭の音価がtであるかdであるかが，直前に位置する単語末の音価によって決定されるという「語幹末音決定原理」(76)は文字上に反映されていない.

このように，文字素と綴り字の面から見ると，本聖旨碑のモンゴル文面第1截～第3截は「ウイグル文字」の特徴に満ちている．本聖旨碑のモンゴル語が，13世紀モンゴル大皇帝の官房におけるモンゴル文章語の完成度を示しつつも，そこに「モンゴル文字」(77)としての独自性を見出し得ないことは，この文字の借用がそれほど古くないことを示す根拠となる．（松）

↗と，ウイグル文字は明らかに21文字と数えられているので，上の回回字はウイグル文字と断定してよい，とのご教示を得た，see 森安1991, p. 33, n. 105, p. 172, n. 138. なお，その詳細は近く発表される箚記で述べられるとのことである.

(74) 本聖旨碑第3截において，q-anu (X-'NW)「お上の」という，heth (X)文字で中絶する例外的な綴り字が現れるのも，heth文字をaleph + zainの如く考えれば，zain文字による中絶として許容できる.

(75) See Владимирцов 1929, pp. 82-84.

(76) See 村山 1961, pp. 129-127 (逆頁).

(77) これに関連して，『元史』を始めとする漢文史料及び13～14世紀のモンゴル語資料において「蒙古字」という表現でモンゴル語を記すウイグル文字を指し示した例は見つかっていない．これは，クビライによってパスパ文字が「蒙古新字」・「蒙古字」或いは「国字」と称されるようになってからは当然のことだが，従来用いられていたウイグル文字の方は「畏兀兒字（或いは畏吾兒字）」と称され，その際その文字がウイグル語を表すかモンゴル語を表すかは特に区別されなかった．そこで，パスパ文字採用以前に，モンゴル語を表記したウイグル文字を「畏兀兒字」という以外に特別な名称で呼んでいたか否かが問題となるが，残念ながらそれを判断する史料は見つかっていない.

2．少林寺聖旨碑のテキストと翻訳

(1) 第1截のテキストと翻訳

I－1．モンゴル文面の翻字・転写と逐語訳

01

TWRWXT'Y PWK-' XWR'XWL'
Turuγtai Buk-a qoyaγula
トゥルグタイ ブカ は 二人して

02 MWNKK' X'N ''M'N YRLX-YY'R Š'WLYM C'ANKL'W-T' 'WYKWL'YW 'WYKDWK'Y
Mǫngke qan aman ǰrlγ-iyar Šeülim čanglau-ta ügüleǰü ögtügei
モンケ カンの 口頭のおおせによって 少 林 長 老 に 言って 与えよ．

03 P' CYM'YY TW SYNPSYNK N'R' PWLX'N 'YLYP' Y'WXWDWN
ba čimayi Du singsing nere bolγan aliba J̌auqudun
我らは お前を 都 僧 省 の 名と なして あらゆる ジャウクドの

04 TWYYT-T'C' M'RTKW PWSY T'XY P' 'WYXWR TWYPWN T'NKXW
toyid-tača metekü busi taqi ba Uiγur Töbün Tangγu
トインたちから 知ることのほか さらにぞ ウイグル トゥブン タングゥ の

05 ''L' 'YR'KS'N TWYYT-Y X'MWX M'T'KS'N-W TWL' TW
ąle iregsen toyid-i qamuγ metegsen-ü tula Du
およそ 来たところの トインたちを すべて 知ったことの ために 都

06 SYNKSYNK N'R' N'R'YYTP' X'P X'MYX'C' 'YR'PS'N PWP'SW
singsing nere nereyidbe qab qamiγača iregsen bųgesü
僧 省 の 名前を 名付けた．いったいどこから 来た者 であっても

07 PYT'N-' 'YR'KWLT'KW-YY 'WYLWKW-YY TW SYNPSYNK C'NKL'W M'T'DWK'Y
bitan-a iregültekü-yi ülükü-yi Du singsing čanglau metetügei
我々に 来させられる者を そうでない者を 都 僧 省 たる 長 老 が 知 れ．

08 'YR'KWLT'KW-YY TW SYNPSYNK C'NKL'W PYCYK 'WYKDWK'Y X'R-'
iregültekü-yi Du singsing čanglau bičig ögtügei Qar-a
来させられる者をば 都 僧 省 たる 長 老 が 文書を 与えよ ． カラ

09 XWRWM-TWR ''XWN TWYYT-Y PYT'N-TWR N'R'YYTCW 'WRYXD'P'SW
qorum-tur aqun toyid-i bitan-tur nereyidčü uriγdabasu
コルムに い る トインたちを 我々に対して 呼んで 招かれれば

10 'YR'TWK'Y ''S' 'WRYXD'P'SW PWW 'YR'TWK'Y
iretügei ąse uriγdabasu buu iretügei
来 い ． 招かれなければ 来 る な ．

11 S'KYMWNY-YYN MWYR-YY'R TWYYT-T' M'D'LWN ''S' CYD'P'SW TW
Šagimuni-yin mör-iyer toyid-ta medelün ąse čidabasu Du
シャカムニの 道によって トインたちに対して 知って 出来なければ 都

12 SYNKSYNK N'R' Y'XWN K'R'K
singsing nere yaγun kereg
僧省の 名は 何の 必要ぞ.

13 YRLX PWLP'
jrlγ bolba
おおせになった.

14 'WYK'R YYL 'WYPWL-WN 'CWS S'R'-YYN
üker jil übül-ün ečüs sara-yin
ウシ 年 冬の 最後の 月の

15 TWLWX'N SYN'T' T'LK'P'Y
doluγan sinete delgebei
七日 ← 初に 開いた.

I－2．モンゴル文面総訳

01 トゥルグタイとブカは二人して,
02 モンケ＝カンの口頭のおおせに依って，少林長老に言って与えよ.
03 「我らは，お前を都僧省と名付けて，あらゆる漢地の
04 仏僧たちを管轄するだけでなく，さらにウイグル・チベット・タングトの
05 およそやって来た仏僧たちをすべて管轄したので，都
06 僧省と名付けた．たとえどこから来た者であっても，
07 我々によって呼ばれるべき者を，そうでない者を，都僧省たる長老が管轄せよ.
08 呼ばれるべき者に対しては，都僧省たる長老が文書を与えよ．カラ＝
09 コルムにいる仏僧たちを，我々に対して名を提(あ)げて，招かれれば
10 やって来い．招かれなければやって来るな.
11 釈迦牟尼の道によって，仏僧たちに対して管轄出来なければ都
12 僧省の名は何の必要があろうか.」
13 とおおせになった.
14 ウシ年，冬の最後の月の
15 初(旬の)七日に開いた.

I－3．漢文面の移録と日本語訳

01 禿魯黒台不花兩箇 禿魯黒台・不花の二人が
02 傳奉
03 蒙哥皇帝聖旨道與少 蒙哥皇帝の聖旨を伝奉して少
04 林長老 林長老に道与す.
05 俺與你都僧省名字去 俺(われ)らは你(なんじ)に都僧省の名字を与えた

06	也則不是管漢兒和	のだ．漢兒の和尚を管するだけでなく，
07	尚不揀畏兀兒西番	畏兀兒・西番・河西を
08	河西但是來底和尚	揀ばず，およそ来るところの和尚
09	每都管底上頭喚都	らは都て管するのだから，都
10	僧省不揀那裏來底	僧省と喚ぶのである．どこから来た者で
11	呵	あろうと，
12	咱毎根底來的不合來	咱らのところに来る者は，来るべきでない
13	底都僧省少林長老	者は，都僧省の少林長老が
14	識者合來底都僧省	識れ．来るべき者は都僧省の
15	少林長老與文書者	少林長老が文書を与えよ．
16	和林裏有底和尚毎	和林にいるところの和尚らは，
17	俺毎根底提名字喚着	俺らのところで名字を提て，喚んで
18	呵教來者不喚呵休	いれば来させよ．喚ばなければ
19	教來者依着	来させるな．
20	釋迦牟尼佛法裏和尚	釈迦牟尼仏の法に依りつつ，和尚
21	毎根底管不得呵都	らを管することができなければ，都
22	僧省小名要做甚麼	僧省の小名は要めて何になる．
23	聖旨了也	聖旨なるぞ．
24	癸丑年十二月初七日開	癸丑年十二月初七日に開く．

(2) 第2截のテキストと翻訳

II－1．モンゴル文面の翻字・転写と逐語訳

01 MWNKK' TNKRY-YYN KWYCWNDWR ·
mǫngke tngri-yin küčündür ·
とこしえの 天 の 力 に

02 X'X'N YRLX M'NW ·
qaγan ǰrlγ manu ·
カアンなる おおせ ← 我らが

03 SWYNβWZ-T' P'L'X'T-WN SYLT'K'DWN
sünvüs-te balaγad-un siltegedün
宣撫たちに 諸城 の 諸集落の

04 T'RWX'Z-T' NWY'T-T'· YWRCYXWN
daruγas-ta noyad-ta· yorčiqun
ダルガたちに ノヤンたちに 行 き

05 Y'PWXWN YYLCYN-' C'RYKWT-WN
yabuqun yilčin-e čerigüd-ün
往く 使臣たちに 諸軍 の

06 NWY'T-T'· C'RYK ''R'N-' TWYYT-T' 'YRK'N-' TWXWLX'XWY
noyad-ta· čerig aran-a toyid-ta irgen-e duγulγaqui
ノヤンたちに 軍 人 に トインたちに 人々に 聞かしめる

07 YRLX ·
ǰrlγ ·
おおせ.

08 CYNKKYZ X'N-W YRLX-TWR TWYYT 'RK'KWT SYNKSYNKWT T'SM'T·
Činggis qan-u ǰrlγ-tur toyid erkegüd singsingüd dašmad·
チンギス カンの おおせに トインたち エルケウンたち 先生たち ダシュマンたちは

09 ''LYP' ''LP' XWPCYRY· 'WYLW 'WYC'N TNKRY-YY Y'LP'RYCW
aliba alba qubčiri· ülü üǰen tngri-yi ǰalbariǰu
すべてのアルバ クブチリ を 見 ず 天 を 祈って

10 PYT'N-' 'YRWK'R 'WYKWN ''TWX'Y K'M'KS'N
bi̲tan-a irüger ögün a̲tuγai kemegsen
我々に 祝福 を 与え あらしめよ と言った

11 YRLX-WN YWSWX'R· ''T' Š'WLYM C'ŃKL'W· P'βSW T'ŃCW· KWY ''MCW·
ǰrlγ-un yosuγar· a̲te Šeülim čanglau· Bavsu danǰu· Gü amǰu·
おおせの 決まり通り これら 少 林 長 老 寶 積 壇 主 姫 庵 主

12 ŠYNK ''N C'NKL'W· KYM T'NK C'NKL'W KYK'T T'PWN ''R'NY P'XYSP
Šing an čanglau· Gim deng čanglau kiged tabun arani Baγisba
聖 安 長 老 金 燈 長 老 など 五 人が バギスバ

13 P'XSY-YYN TWR' Y'WXWDWN ''L' X'C'R-' ''XWN 'WL'N TWYYT-Y·
baγsi-yin dora J̌auqudun a̲le γaǰar-a aqun olan toyid-i·
バクシの もと ジャウクドのおよそ 地 に いるところの 多くの トインたちを

14 'WYTWKWL'CW · S'KYMWNY-YYN MWYR-YY'R· TNKRY-YY Y'LP'RYCW·
öt̲ügüleǰü · Šagimuni-yin mör-iyer · tngri-yi ǰalbariǰu·
率いて シャカムニ の 道によって 天 を 祈って

15 PYT'N-' YRWK'R 'WYKWN ''TWX'Y K'M'N· ''N' S'WLYM C'NKL'W-T'
bi̲tan-a yrüger ögün a̲tuγai kemen· a̲ne Šeülim čanglau-t̲a
我々に 祝福を 与え あらしめよと言って これら 少 林 長老(たち)に

16 P'RYJW Y'PW'YY
bariǰu yabuayi
保 持 す べ き

17 YRLX 'WYKP'Y · ''T'N-W SWYM'Z-TWR · K'YYT-TWR ''NW 'YLCYN
jrlγ ögbei · aten-ü sümes-tür · keyid-tür anu ilčin
おおせを 与えた. これらの 寺々に 家々に ←彼らの 使臣たちは

18 PWW P'XWDWX'Y · K'T K'T P'R PWLCW KWYCWD'CW PWW S'XWTWX'Y · X'N-
buu baγutuγai · ked ked ber bolǰu küčüdeǰü buu saγutuγai · qan-
泊まるな . 誰々で あって(も) 力づくで 滞在するな . お上

19 -W S'NK ''MW · PWW CYTXWDWX'Y · Y'XW K' PWW T'LPYDWX'Y · SWYM'Z-TWR
-u sang amu · buu čidquγai · yaγu ke buu talbiγai · sümes-tür
の 倉 糧は 注ぐな . 如何なる物をも 置くな . 寺々で

20 ''R'N PWW Y'RXWL'DWX'Y · 'WL'X-' SYKWSW PWW P'RYTWX'Y · SWY T'MX'
aran buu ǰaryulatuγai · ulaγ-a sigüsü buu barituγai · sui tamγa
人々を 裁くな . 駅伝馬 糧食を つかむな . 地税タムガ税は

21 PWW 'WYKDWK'Y · SWYM'Z-TWR X'RYY'T'N X'C'R 'WSWN XWLWZ-WN
buu ögtügei · sümes-tür qariyatan γaǰar usun qulus-un
与えるな . 寺々に 属する 耕地 竹葦

22 T'KYRM'T· P'X K'YT'NKWW X'L'XWN 'WSWN TWR K'PYT-T'C'· SYRK'
tegirmed· baγ geitenküü qalaγun usun TWR kebid-teče· sirge
ひきうす 園林 解典庫 温水 宿屋(?) 店より 酢

23 KWYNWRK'-T'C' ''LYP' ''LP' XWPCYRY PWW 'WKDWX'Y · P'S' TWYYT-
könürge-teče aliba alba qubčiri buu ogtuγei · basa toyid-
こうじより すべてのアルバ クブチリは 与えるな . またトインたち

24 -WN ''LY P'R 'WYYL'Z ''NW PWYK'SW · P'XYSP' P'XSY-YYN 'WYK'P'R
-un ali ber üiles anu bügesü · Baγisba baγsi-yin ügeber
の 如何なる 事々←(彼らの)が あっても バギスバ バクシの言葉によって

25 NWM-WN YWSWX'R S'WLYM C'NKL'W PWβSW T'NCW KYK'T T'PWN 'WYTWKWZ
nom-un yosuγar Šeülim čanglau Bovsu danǰu kiged tabun ötügüs
経の 決まり通り 少林長老 寶積壇主 など 五人の 長たちが

26 YWKYY'R X'X'LCW 'WYKDWK'Y · T' P'R 'WL'N TWYYT ''T'
ǰugiyer qaγalǰu ögtügei · ta ber olan toyid ate
正しく 解決して やれ . お前たち こそ 多くのトインたちは これら

27 T'PWN 'WYTWKWZ-WN 'WYK'P'R · NWM-WM YWSWN PWSY 'WYLW PWLX'N
tabun ötügüs-ün ügeber · nom-un yosun busi ülü bolγan
五人の 長たちの 言葉によって 経の 決まりを 違えず

28 YWKYY'R Y'PWDXWN· P'S' 'YKYL ''R'N TWYYT-Y PWW Y'RXWL'DWX'Y
ǰugiyer yabudqun· basa igil aran toyid-i buu ǰaryulatuγai
正しく 行なえ . また 俗 人たちはトインたちを 裁くな .

29 TWYYT-WN 'YKYL ''R'N-LWX-' 'WYKWL'LTWKWN 'WYK'Z ''NW PWYK'SW ·
toyid-un igil aran-luγ-a ügülelt̲ükün üges anu bügesü ·
トインたちが 俗 人たちと 言い合うべき 言葉が← 彼らのあれば

30 TWYSYKD'KS'T TWYYT-WN 'WYTWKWZ · P'L'X'T-WN NWY'T-LWX̄'
tüsigdegsed toyid-un öt̲ügüs · balaγad-un noyad-luγ̄a
任命された者たる トインたちの 長たち は 諸城 の ノヤンたちと

31 X'MTW Y'RXWL'CW X'X'LTWX'Y · TWYYT-WN YWSWX'R 'WYLW Y'PWXWN
qamtu ǰaryulaǰu qaγaltuγai · toyid-un yosuγar ülü yabuqun
共に 裁いて 解決せよ . トインたちの 決まり通り 行なわないところの

32 M'XWY 'WYYL'Z 'WYYL'TKWN· XWT'L XWL'X'Y KYKWN TWYYT-Y P'L'X'T-
maγui üiles üiledkün· qut̲al qulaγai kikün toyid-i balaγad-
悪い 事々を 行なうところの 虚偽 盗みをするところのトインたちを 諸城

33 -WN T'RWX'Z-T' NWY'T-T' T'X'XWLCW 'WYKDWK'Y · ''T' P'S'
-un daruγas-ta noyad-ta taqaγulǰu ögtügei · at̲e basa
の ダルガたちに ノヤンたちに 付して 与えよ . これら また

34 S'WLYM T'NCW KYK'T T'PWN WYTWKWZ TWYSYKD'P' ''L' K'M'CW
Šeülim danǰu kiged tabun öt̲ügüs tüsigdebe a̲le kemeǰü
少 林 壇 主 など 五人の 長たち は 任命された とぞ 言って

35 YWSW 'WYK'KWN 'WYYL'Z PWW 'WYYL'TDWK'Y · 'WYYL'TP'SW ·
yosu ügegün üiles buu üiledtügei · üiledbesü ·
道理の無い 事々を す る な . すれば

36 PYT'N-' YYX'TWX'Y · K'R P' K'M'R-P' ·
bit̲an-a ǰiγat̲uγai · ker be kemer-ün ·
我々に 示 せ . どのようにとぞ 言っても

37 PYT' 'WX'T Y-'
bit̲a uqad ǰ-e
我々は わかるの だぞ.

38 YRLX M'NW T'XYXW YYL YWNW 'CWZ S'R'-YYN NYK'N SYŃ'T'
ǰrlγ manu taqiγu ǰil ǰunu ečüs sara-yin nigen sin̲et̲e
おおせ←我らがはトリ 年 夏の 最後の 月 の 一 ← 初に

39 K'YPYNKVW-T' PWYKWY-TWR PYCYP'Y ·
Keibingvü-t̲e büküi-t̲ür bičibei ·
開平府 に 居る時に 書いた.

II－２．モンゴル文面総訳

01　とこしえの天の力に，
02　カアンなる我らがおおせ．
03　　宣撫たちに，諸城の・諸集落の
04　　ダルガたちに・ノヤンたちに，行き
05　　往く使臣たちに，諸軍の
06　ノヤンたちに・軍人に，仏僧たちに，人々に，聞かしめる
07　おおせ．
08　チンギス＝カンのおおせに「仏僧たち・ネストリウス教士たち・道士たち・ムスリム識者たちは，
09　すべての貢納・畜税を見ず，天を祈って
10　我々に祝福を与えあらしめよ」と言った
11　おおせの先例に従って，これら少林長老・寶積壇主・姫庵主・
12　聖安長老・金燈長老など五人が，パスパ＝
13　バクシのもとに，およそ漢地にいる多くの仏僧たちを
14　率いて，釈迦牟尼の道によって天を祈って
15　我々に祝福を与えあらしめよと言って，これら少林長老たちに
16　保持すべき
17　おおせを与えた．これらの寺々に，彼らの家々に使臣たちは
18　泊まるな．誰であっても力づくで滞在するな．お上
19　の倉糧は置くな．如何なる物をも置くな．寺々で
20　人々を裁くな．駅伝馬・糧食をとるな．地税・商税は
21　差し出すな．寺々に属する耕地・竹葦・
22　ひきうす・園林・質屋・浴堂・宿屋(?)・店より，酢・
23　こうじより，すべての貢納・畜税は差し出すな．また仏僧たち
24　にかかわる如何なる彼らの事々があっても，パスパ＝バクシの言葉によって，
25　経の決まり通り，少林長老・寶積壇主など五人の長たちが
26　正しく解決せよ．お前たち多くの仏僧たちは，これら
27　五人の長たちの言葉によって，経の決まりを違えず，
28　正しく行なえ．また俗人たちは仏僧たちを裁くな．
29　仏僧たちが俗人たちと言い合うべき彼らの言葉があれば，
30　任命された仏僧たちの長たちが，諸城のノヤンたちと
31　共に裁いて解決せよ．仏僧たちで，決まり通りに行なわなかったり，
32　悪事を行なったり，虚偽・盗みをする仏僧たちを，諸城
33　のダルガたちに・ノヤンたちに，付して与えよ．これらまた
34　少林[長老]・[寶積]壇主など五人の長たちは「任命されたのだ」と言って，
35　道理なき事々をするな．すれば，
36　我々に示せ．どの様に言っても
37　我々はわかるのだぞ．
38　我らがおおせは，トリ年夏の最後の月の初(旬の)一日に，

39　　開平府に居る時に書いた.

II－3．漢文面の移録

長生天的氣力裏
皇帝聖旨宣撫司每根底城子裏村子裏達魯花赤每根底官人每根底經過的使臣每根底軍官每根底軍人每根底和尚每根底民戶每根底宣諭的
聖旨
成吉思皇帝聖旨裏和尚也里可温先生荅失蠻不揀甚麽差發稞程休着告
天俺每根底祝壽與者麽道
聖旨體例裏這少林長老寶積壇主姬庵主聖安長老金燈長老等五箇人
拔合思巴八合赤已下但属漢兒田地裏住坐底衆和尚每根底管領依着
釋迦牟尼佛的道子裏告
天俺每根底祝壽與者麽道這少林長老根底把着行踏的
聖旨與來這的每寺院裏房舍裏使臣休安下者不揀是誰倚氣力休住坐者倉粮休頓放者揀那甚麽休放者寺院裏休斷公事者鋪馬祇應休拿者地稅商稅休與者但属寺院裏的田地水土竹葦園林碾磨解典庫浴房店鋪席等内醋麴酵揀那甚麽差發稞程休要者又和尚每不揀有是何公事呵
拔合思巴八合赤的言語裏經的體例裏少林壇主等五箇頭兒依理歸斷與者你每衆和尚每這五箇頭兒的言語經的體例休別了依理行踏者又俗人和尚每根底休歸斷者和尚每俗人一處折證的言語有呵委付來的僧官城子裏官人一處同共歸斷者和尚每體例裏不行的歹公事做的説謊做賊的和尚每城子裏達魯花赤官人每根底分付與者又這少林壇主等五箇頭兒特委付來麽道無體例的公事休行者行呵
俺每根底奏説者怎麽般道底
俺每識也者
聖旨

鷄兒年六月初一日開平府有時分寫來

II－４．漢文面の日本語訳

長生の天の気力に，
皇帝の聖旨．宣撫司らに，城子のうちの・村子のうちの達魯花赤らに・官人らに，経過する使臣らに，軍官らに，軍人らに，和尚
　らに，民戸らに宣諭する
聖旨．
成吉思皇帝の聖旨に「和尚・也里可温・先生・荅失蛮はいかなる差発・
　稞程も着けず
天に告し俺らに祝寿を与えよ」という
聖旨の先例にならって，この少林長老・宝積壇主・姫庵主・聖安長老・金燈長老
　等の五人は
拔合思巴八合赤以下のすべての漢児の田地に住坐するおおくの和尚らに
　対して管領し
釈迦牟尼佛の道に依りつつ
天を告し俺らに祝寿を与えよ，といってこの少林長老に持ちながら行く
聖旨を与えた．これらの寺院に房舎に使臣は安下するな．誰であろうと
　気力に倚って住坐するな．倉粮は置くな．いかなるものも置くな．寺院にて
　公事を断ずるな．鋪馬・祇応はとるな．地税・商税は与えるな．およそ寺院に属する
　田地・水土・竹葦・園林・碾磨・解典庫・浴房・店・鋪席などから，醋・麹酵(から，)
　いかなる差発・稞程ももとめるな．また和尚らはどのような公事があろうとも
拔合思巴八合赤の言語のうちに，経の決まりによって少林・壇主ら五人の頭
　目は理に依って帰断せよ．お前たちおおくの和尚らは，この五人の頭目の言語(に，)経
　の決まりにそむくな．理に依って踏み行なえ．また俗人は和尚らを帰断するな．和
　尚らは俗人と一処に折證する言語があれば，委付された僧官は城子のうちの官
　人と一処に共同して帰断せよ．和尚らで決まり通りに行なわない，悪事を行なう，
　嘘を言い，こそ泥をする和尚らは，城子のうちの達魯花赤・官人らに分付して与えよ．
　またこの少林・壇主ら五人の頭目は特に委付されたと言って，決まりに無いことを
　行なうな．行なえば
俺らに奏上して言え．どのように言っても
俺らが知るぞ．
聖旨．

　　トリ年六月初一日，開平府にいる時に書いた．

(3) 第3截のテキストと翻訳

III－1．モンゴル文面の翻字・転写と逐語訳

01 MWNKK' TNKRY-YYN KWYCWNDWR ·
mo̱ngke tngri-yin küčündür ·
とこしえの 天 の 力 に

02 Y'K' SWW Y'LY-YYN 'YP'K'NDWR ·
yeke suu ǰali-yin ibegendür ·
大いなる 威福の 輝き の 加 護 に

03 X'X'N YRLX M'NW ·
qaγan ǰrlγ manu ·
カアンなる おおせ←我らが .

04 P'L'X'TWN SYLT'K'DWN T'RWX'Z-
balaγadun silṯegedün daruγas-
諸城の 諸集落の ダルガたち

05 -T' NWY'T-T' YWRCYXWN
-ta noyad-ta yorčiqun
に ノヤンたちに 行 き

06 Y'PWXWN 'YLCYN-' ·
yabuqun ilčin-e ·
往 く 使臣たちに

07 C'RYKWDWN NWY'T-T' C'RYK ''R'N-' TWYYT-
čerigüdün noyad-ta čerig aran-a toyid-
諸軍の ノヤンたちに 軍 人 に トインたち

08 -T' 'YRK'N-' TWXWLX'XWY
-ta irgen-e duγulγaqui
に 人々に 聞かしめる

09 YRLX ·
ǰrlγ ·
おおせ .

10 CYNKKYZ X'NW P' X'X'N-W P' YRLX-TWR TWYYT
Činggis qanu ba Qaγan-u ba ǰrlγ-tur toyid
チンギス カンの また カアンの また おおせに トインたち

11 'RK'KWT SYNKSYNKWD T'SM'T SWY T'MX'-T'C' PWSY
erkegüd singsingüd dašmad sui tamγa-ṯača busi
エルケウンたち 先生たち ダシュマンたちは 地税 タムガ税より ほか

12 ''LYP' ''LP' XWPCYRY 'WYLW 'WYC'N TNKRY-YY Y'LP'RYCW ·
aliba alba qubčiri ülü üǰen tngri-yi ǰalbariǰu ·
すべての アルバ クブチリ を 見 ず 天 を 祈って

13 PYT'N-' 'YRWK'R 'WYKWN ''DWX'Y K'M'KD'KS'T ''CWXWY
bi̱tan-a irüger ögün atuγai kemegdegsed aǰuγui
我々に 祝福 を 与え あらしめよ と言われたの であった .

14 'DWK' P'R PWYK'SW · 'WRYD'N-W ·
edüge ber bügesü · uridan-u ·
今 で あっても 以前 の

15 YRLX-WN YWSWX'R · ''N' SWWY C'NKL'W-Y X'N'MPWW-T'
ǰrlγ-un yosuγar · a̱ne Šuui čanglau-i Qanambuu-ta̱
おおせの 決まり通り この 粛 長 老 が 河 南 府 に

16 ''L' X'RYX'T'N 'WL'N TWYYT-T' TYLYNK PWLCW
a̱le qariγatan olan toyid-ta tiling bolǰu
ぞ 属する 多くの トインたちに 提 領 となって

17 S'KYMWNY-YYN MWYR-YY'R TNKRY-YY Y'LP'RYCW ·
Šagimuni-yin mör-iyer tngri-yi ǰalbariǰu ·
シャカムニの 道 によって 天 を 祈って

18 PYT'N-' 'YRWK'R 'WYKWN ''DWX'Y K'M'N ''N' SWWY
bi̱tan-a irüger ögün atuγai kemen a̱ne Šuui
我々に 祝福 を 与え あらしめよ と言って この 粛

19 C'NKL'W TYLYNK-' P'RYCW Y'PWX'Y
čanglau tiling-e bariǰu yabuγai
長 老 提 領 に 保 持 す べ き

20 YRLX 'WYKP'Y · 'D'NW SWYM'Z-TWR K'YYT-TWR ''NW 'YLCYN
ǰrlγ ögbei · edenü sümes-tür keyid-tür anu ilčin
おおせを 与えた . これらの 寺 々 に 家々 に ← 彼らの 使臣たちは

21 PWW P'XWDWX'Y · K'D K'D P'R PWLCW KWYCWD'CW PWW
buu baγutuγai · ke̱d ke̱d ber bolǰu küčüdeǰü buu
泊 ま る な . 誰 々 で あって(も) 力づくで 滞

22 S'XWDWX'Y · X-'NW S'NK ''MW PWW CYTXWDWX'Y · Y'XW
saγutuγai · q-anu sang amu buu čidqutuγai · yaγu
在 す る な . お上の 倉 糧 は 注 ぐ な . 如何なる

23 K' PWW T'LPYDWX'Y · SWYM'Z-TWR ''R'N PWW Y'RXWL'DWX'Y
ke buu talbituγai · sümes-tür aran buu ǰarγulatuγai
物をも 置 く な . 寺々 で 人々を 裁 く な .

24 'WL'X-' SYKWSW PWW P'RYDWX'Y · SWY T'MX'-T'C'
ulaγ-a sigüsü buu barituγai · sui tamγa-dača
駅伝馬 糧食を つかむな . 地税 タムガ税より

25 PWSWT SWYM'Z-TWR X'RYY'D'N X'C'R 'WSWN XWLWT P'X
busud sümes-tür qariyatan γaǰar usun qulud baγ
ほか 寺々に 属する 耕地 竹葦 園林

26 T'KYRM'T K'YDYNKWW X'L'XWN 'WSWN TYM K'PYT-T'C'
tegirmed geidinküü qalaγun usun dim kebid-teče
ひきうす 解典庫 温水 宿屋 店より

27 T'PWZ-WN SYRK' KWYNWRK'-T'C' ''LYP' ''LP' XWPCYRY
dabus-un sirge könürge-teče aliba alba qubčiri
塩 酢 こうじより すべての アルバ クブチリ を

28 PWW 'WYKDWK'Y · Y'XW K' ''NW PWLYCW T'D'CW PWW 'WPDWX'Y
buu ögtügei · yaγu ke anu buliǰu tataǰu buu abtuγai
与えるな . 如何なる物をも←彼らの 奪い 引っ張って とるな .

29 P'S' TWYYT-WN ''LY P'R 'WYL'Z ''NW PWYK'SW ·
basa toyid-un ali ber u̱iles anu bügesü ·
また トインたちの 如何なる 事々 ←彼らのが あっても

30 P'XYSP' P'XSY-YYN 'WYK'P'R NWM-WN YWSWX'R SWWY
Baγisba baγsi-yin ügeber nom-un yosuγar Šuui
バギスバ バクシの 言葉によって 経の 決まり通り 粛

31 C'NKL'W TYLYNK YWKYK'R X'X'LCW 'WYKDWK'Y · T' P'R 'WL'N
čanglau tiling ǰu̱giger qaγalǰu ögtügei · ta ber olan
長老 提領は 正しく 解決して やれ . お前たちぞ 多くの

32 TWYYT · SWWY C'NKL'W TYLYNK-WN 'WYK'P'R NWM-WN ·
toyid · Šuui čanglau tiling-ün ügeber nom-un ·
トインたちは 粛 長老 提領の 言葉によって 経の

33 YWSWN PWSY 'WYLW PWLX'N YWKYK'R Y'PWDXWN · P'S'
yosun busi ülü bolγan ǰu̱giger yabud̲qun · basa
決まりを 違え ず 正しく 行なえ . また

34 'YKYL ''R'N TWYYT-Y PWW Y'RXWL'DWX'Y · TWYYT-
igil aran toyid-i buu ǰarγulatuγai · toyid-
俗 人たちは トインたちを 裁く な . トインたち

35 -WN 'YKYL ''R'N-LWX-' 'WYKWL'LDWKWN 'WYK'Z ''NW
-un igil aran-luγ-a ügüleldükün üges anu
の 俗 人たちと 言い合うべき 言葉が←彼らの

36 PWYK'SW TWYSYKD'KS'T TWYYT-WN 'WYD'KWZ P'L'X'T-
bügesü tüsigdegsed toyid-un ötegüs balaγad-
あれば 任命された者たる トインたちの 長たちが 諸 城

37 -WN NWY'T-LWX-' X'MTW Y'RXWL'CW X'X'LDWX'Y ·
-un noyad-luγ-a qamtu ǰaryulaǰu qaγaltuγai ·
の ノヤンたち と 共 に 裁 い て 解決せよ .

38 TWYYT-WN YWSWX'R 'WYLW Y'PWXWN M'XWY 'WYL'Z
toyid-un yosuγar ülü yabuqun maγui ụ̈iles
トインたちの 決まり通り 行なわないところの 悪 い 事々 を

39 'WYL'TKWN XWD'L XWL'X'Y KYKWN TWYYT-Y P'L'X'T-
ụ̈iledkün qudal qulaγai kikün toyid-i balaγad-
行なうところの 虚偽 盗 み を するところの トインたちを 諸 城

40 -WN T'RWX'Z-T' NWY'T-T' T'X'XWLCW 'WYKDWK'Y ·
-un daruγas-ta noyad-ta taqaγulǰu ögtügei ·
の ダルガたち に ノヤンたちに 付して 与えよ .

41 P'S' SWWY C'NKL'W TYLYNK TWYSYKD'P' ''L'
basa Šuui čanglau tiling tüsigdebe ạ̈le
また 粛 長 老 提 領 は 任命された とぞ

42 K'M'CW · YWSW 'WYK'KWN 'WYL'Z PWW · 'WYL'TDWK'Y ·
kemeǰü · yosu ügegün ụ̈iles buu · ụ̈iledtügei ·
言って 道理 の 無 い 事々 を す る な .

43 'WYL'TP'SW · P'XYSP' P'XSY-T' YYX'DWX'Y · ''NY
ụ̈iledbesü · Baγisba baγsi-ṭa ǰiγatuγai · ani
すれば バギスバ バクシ に 示 せ . 彼らを

44 P'RYLTWXWLCW K'R P'R ''R'KWY 'LKWR-WN· P'XYSP'
barilṭuγulǰu ker ber ạ̈regüi elgür-ün· Baγisba
争わせて どのように ぞ 間違い を 言うにしても(?) バギスバ

45 P'XSY M'T'DWK'Y ·
baγsi meṭetügei ·
バクシ が 知 れ .

46 YRLX M'NW LWW YYL X'PWR-WN T'RYKWN S'R'-
ǰrlγ manu luu ǰil qabur-un terigün sara-
おおせ ← 我らが は タツ 年 春 の 最初の 月

47 -YYN XWRYN T'PWN-' KWYK' ''XWL'-T'
-yin qorin tabun-a Köke aγula-ṭa
の 二十 五 に コケ アグラ に

48 PWYKWY-TWR ·
büküi-tür ·
居る時に

49 PYCYP'Y ·
bičibei ·
書いた .

III－2．モンゴル文面総訳

01 とこしえの天の力に,
02 大いなる威福の輝きの加護に,
03 カアンなる我らがおおせ.
04 諸城の・諸集落の，ダルガたち
05 に・ノヤンたちに，行き
06 往く使臣たちに,
07 諸軍のノヤンたちに・軍人に，仏僧たち
08 に，人々に，聞かしめる
09 おおせ.
10 チンギス＝カン並びに[オゴデイ]カアンのおおせに「仏僧たち・
11 ネストリウス教士たち・道士たち・ムスリム識者たちは，地税・商税よりほか
12 すべての貢納・畜税を見ず，天を祈って
13 我々に祝福を与えあらしめよ」と言われたのであった.
14 今であっても以前の
15 おおせに従って，この粛長老が，河南府に
16 属する多くの仏僧たちに提領となって,
17 釈迦牟尼の道によって天を祈って
18 我らに祝福を与えあらしめよと言って，この粛
19 長老提領に保持すべき
20 おおせを与えた．これらの寺々に，彼らの家々に使臣たちは
21 泊まるな．誰であっても力づくで
22 滞在するな．お上の倉糧は置くな．如何なる
23 物をも置くな．寺々で人々を裁くな.
24 駅伝馬・糧食をとるな．地税・商税より
25 ほか，寺々に属する耕地・竹葦・園林・
26 ひきうす・質屋・浴堂・宿屋・店より,
27 塩・酢・こうじより，すべての貢納・畜税を
28 差し出すな．彼らの如何なる物をも奪い引っ張ってとるな.
29 また仏僧たちにかかわる如何なる彼らの事々があっても,
30 パスパ＝バクシの言葉によって，経の決まり通り，粛

31 長老提領が正しく解決せよ．お前たち多くの
32 仏僧たちは，肅長老提領の言葉によって，経の
33 決まりを違えず，正しく行なえ．また
34 俗人たちは仏僧たちを裁くな．仏僧たち
35 が俗人たちと言い合うべき彼らの言葉が
36 あれば，任命された仏僧たちの長たちが，諸城
37 のノヤンたちと共に裁いて解決せよ．
38 仏僧たちで，決まり通り行なわなかったり，悪事を
39 行なったり，虚偽・盗みをする仏僧たちを，諸城
40 のダルガたちに・ノヤンたちに，付して与えよ．
41 また肅長老提領は「任命されたのだ」と
42 言って，道理なき事々をするな．
43 すれば，パスパ＝バクシに示せ．彼らを
44 争わせてどの様に間違いを言うにしても(？)パスパ＝
45 バクシが知る様にせよ．
46 我らがおおせは，タツ年春の最初の月
47 の二十五日にコケ＝アグラに
48 居る時に
49 書いた．

III－３．漢文面の移録

01 長生天底氣力裏
02 大福廕護助裏
03 皇帝聖旨城子裏村子裏達魯花赤毎根底官人毎根底過往
04 使臣毎根底軍官毎根底軍人毎根底和尚毎根底民戸
05 毎根底宣諭底
06 聖旨
07 成吉思皇帝
08 合罕皇帝聖旨裏和尚也里可温先生荅失蠻除地稅商稅外
09 不揀甚麽差發休着者告
10 天俺毎根底祝壽者麽道來如今依着先前
11 聖旨體例裏這肅長老但属河南府路底衆多和尚毎根底做
12 提領依着
13 釋迦牟尼佛道子裏告
14 天俺毎根底舉(*)寺祝壽麽道這肅長老提領底把着行踏底
15 聖旨與來這底毎底寺院裏房舍裏使臣休安下者不揀是誰

(*) 「與」と刻まれているが，文脈上「舉」の誤刻と見做し改めた．p. 80 の語註を見よ．

16 倚氣力休住坐者倉粮休頓放者不揀甚麼休放者寺院
17 裏休斷公事者鋪馬祇應休拿者除地稅商稅外但属寺
18 院底田地水土竹葦園林碾磨解典庫浴房店鋪席每根
19 底塩醋麴酵每根底揀那甚麼差發稞程休與者揀那甚
20 麼休刁奪扯拽要者又和尚每不揀有是何公事呵
21 拔合思巴八合失底言語裏經底體例裏肅長老提領依理
22 歸斷者你每衆多和尚每這肅長老提領底言語裏經底
23 體例裏休別了依理行踏者又俗人和尚每根底休歸斷
24 者和尚共俗人一處折證底言語有呵委付來底和尚每
25 底頭兒城子裏底官人每一處同共理問歸斷者和尚體
26 例裏不行底歹公事做底説謊做賊底和尚每城子達魯
27 花赤官人每根底分付與者又這肅長老提領特委付來
28 麼道没體例底公事休行者行呵
29 拔合思把八合失根底説者怎生間當道不是
30 拔合思把八合失識者
31 聖旨俺每底
32
33 龍兒年正月二十五日青山兒裏有時分寫來

III－4．漢文面の日本語訳

01 長生の天の気力に，
02 大なる福廕の護助に，
03 皇帝の聖旨．城子のうちの村子のうちの達魯花赤らに・官人らに，過往する
04 使臣らに，軍官らに，軍人らに，和尚らに，民戸
05 らに宣諭する
06 聖旨．
07 成吉思皇帝の，
08 合罕皇帝の聖旨に「和尚・也里可温・先生・荅失蛮は地税・商税を除くの外
09 いかなる差発も着けるな．
10 天に告し俺らのために祝寿せよ」と言った．今は先前の
11 聖旨の先例にならって，この肅長老がおよそ河南府路に属する多くの和尚らに
12 提領を倣して，
13 釈迦牟尼佛の道に依りつつ
14 天に告し俺らのために寺を挙げ祝寿せよと言うので，この粛長老提領の持ちながら行く
15 聖旨を与えた．これらの寺院に房舎に使臣は安下するな．誰であろうと
16 気力に倚って住坐するな．倉粮は置くな．いかなるものも置くな．寺院
17 にて公事を断ずるな．鋪馬・祇応はとるな．地税・商税を除くの外およそ
18 寺院に属する田地・水土・竹葦・園林・碾磨・解典庫・浴房・店・鋪席など

19 から，塩・醋・麹酵などから，いかなる差発・稞程も与えるな．いかなる
20 ものもだまし奪って引っ張ってもとめるな．また和尚らはどのような公事があろうとも
21 拔合思巴八合失の言語のうちに，経の決まりによって粛長老提領は理に依って
22 帰断せよ．お前たち多くの和尚らは，この粛長老提領の言語に，経の
23 決まりにそむくな．理に依って踏み行なえ．また俗人は和尚らを帰
24 断するな．和尚は俗人と共に一処に折證する言語があれば，委付された和尚ら
25 の頭目が城子のうちの官人らと一処に共同して問い正して帰断せよ．和尚で決
26 まり通りに行なわない，悪事を行なう，嘘を言いこそ泥をする和尚らは，城子の達魯
27 花赤・官人らに対して分付して与えよ．またこの粛長老提領は特に委付された
28 と言って，決まりにないことを行なうな．行なえば
29 拔合思把八合失に説え．何とか問い正して間違いを言えば，
30 拔合思把八合失が識れ．
31 俺らが聖旨は
32
33 タツ年正月二十五日，青山兒にいる時に書いた．

(4) 第4截のテキストと翻訳

IV－1．モンゴル文面の翻字・転写と逐語訳

01 mȏṅ-k'a deṅ-ri-yin k'u-č'un-dur
mǫ̇ṅkạ dėṅri-yin kụčün-dür
とこしえの 天 の 力 に

02 ye-kä su ǰa-li-yin ·i-h·än-dur
yėk̲e su ǰali-yin 'ihēn-dür
大いなる 威福 の 輝き の 加護 に

03 q·an ǰar-liq ma-nu
qān ǰarliq manu
カアンなる おおせ ← 我らが .

04 č'ä-ri-·u-dun no-yad-da
čeri'üd-ün noyad-da
諸軍 の ノヤンたち に

05 č'ä-rig ha-ra-na pa-la-qa-
čerig haran-a b̲alaqa-
軍 人 に 諸 城

06

			-dun	da-ru-qas-da	no-yad-
			-d-un	daruqas-da	noyad-
			の	ダルガたちに	ノヤンたち

07

-da	yôr-č'i-qun	ya-bu-qun	'el-č'i-nä	d·ul-qa-quę
-da	yorčiqun	yabuqun	élčin-e	dūlqaquį
に	行 き	往 く	使臣たちに	聞かしめる

08

ǰar-liq
ǰarliq
おおせ .

09

ǰiń-gis	qa-nu	ba	"ö-k'ö-däę	q·a-nu	ba
J̌iŋgis	qan-u	ba	Öködeį	qān-u	ba
ジンギス	カンの	また	オコデイ	カアンの	また

10

sä-č'än	q·a-nu	ba	"ôl-ǰäę-t'u	q·a-nu	ba
Sečen	qān-u	ba	Ôlǰeįtü	qān-u	ba
セチェン	カアンの	また	オルジェイトゥ	カアンの	また

11

k'ü-lug	q·a-nu	ba	ǰar-liq-dur	do-yid	'er-k'ä-·ud	sän-šhi-
Külüg	qān-u	ba	ǰarliq-dur	doyid	érke'üd	senšï-
クルグ	カアンの	また	おおせ に	トインたち	エルケウンたち	先生

12

-ńud	"a-li-ba	"al-ba	qub-č'i-ri	"ü-lu	"ü-ǰän	deń-ri-yi	ǰal-
-ńüd	aliba	alba	qubčiri	ülü	üǰen	déńri-yi	ǰal-
たちは	すべての	アルバ	クブチリ を	見	ず	天 を	祈

13

-ba-ri-ǰu	hi-ru-·är	"ö-gun	"a-t'u-qayi	g·äk'-däg-säd	"a-
-bariǰu	hirü'er	ögün	atuqayi	gēkdegsed	a-
って	祝福 を	与え	あらしめよ	と言われた	ので

14

-ǰu-·uę	'e-du-·ä	bär	bö-·ä-su	'u-ri-da-nu
-ǰu'uį	édü'e	ber	bö'esü	uridan-u
あった .	今	で	あっても	以前 の

15

ǰar-li-qun	yo-su-·ar	"a-li-ba	"al-ba	qub-č'i-ri	"ü-lu	"ü-ǰän
ǰarliq-un	yosu'ar	aliba	alba	qubčiri	ülü	üǰen
おおせの	決まり通り	すべての	アルバ	クブチリ を	見	ず

16

deń-ri-yi	ǰal-ba-ri-ǰu	hi-ru-·är	"ö-gun	"a-t'u-qayi	g·än
déńri-yi	ǰalbariǰu	hirü'er	ögün	atuqayi	gēn
天 を	祈って	祝福 を	与え	あらしめよ	と言って

17 γo-nam-fu-da bu-k'un zün-šan ʒu-tiṅ šew-lim šen-zhi k'uṅ-
Γo-nam-fu-da bu̯kün Zün-šan ʒu-ṯiṅ Šew-lim šen-zï Kuṅ-
河 南 府 に ある 嵩 山 祖 庭 少 林 禪 寺 空

18 -zäṅ zhi baw-·iṅ zhi t'en-k'iṅ zhi k'i-mo zhi sü-mäs-
-zeṅ zï Baw-'iṅ zï Tėn-kiṅ zï Ki-mo zï sümes-
相 寺 寶 應 寺 天 慶 寺 維 摩 寺 の 寺々

19 -dur "a-qun ǰaṅ-law ti-dem gäm-zhi t'ä-ri-·u-t'än do-yid-
-dür aqun ǰaṅ-law ṭi-dėm gem-zï teri'üten doyid-
に いる 長 老 提 點 監 寺を 長とする トインたち

20 -da ba-ri-ǰu ya-bu-·ayi
-da bariǰu yabu'ayi
に 保 持 す べ き

21 ǰar-liq "ôg-bäe̯ 'e-dä-nu sü-mäs-dur gä-yid-dur "a-nu
ǰarliq ôgbei̯ ėden-ü sümes-dür geyid-dür anu
おおせを 与えた． これらの 寺々に 家々 に ← 彼らの

22 'el-č'in bu ba·u-t'u-qayi 'u-l·a ši-·u-su bu ba-ri-t'u-qayi
ėlčin bu ba'utuqayi ulā ši'üsü bu barituqayi
使臣たちは 泊 ま る な． 駅伝馬 糧食 を つ か む な ．

23 c'aṅ t'am-qa bu "ôg-t'u-gäe̯ sü-mäs-dä 'e-lä qari-ya-t'an qa-ǰar
caṅ tamqa bu ôgtügei̯ sümes-de ėle qariyatan qaǰar
地税 タムガ税を 与 え る な． 寺々 に およそ 属する 耕

24 'u-sun baq t'ä-gir-mäd dem k'ä-bid qa-la-·un 'u-sun gäy-den-
usun baq tegirmed dėm kebid qala'un usun gey-dėn-
地 園林 ひきうす 宿屋 店 温 水 解 典

25 -k'u ya-·ud k'ä-di "a-nu k'äd k'äd bär bôl-ǰu bu-li-ǰu t'a-t'a-
-ku ya'ud kedi anu ked ked ber bolǰu buliǰu tata-
庫 如何なる 物を ← 彼らの 誰 々 で あっても 奪い 引っ張っ

26 -ǰu bu "ab-t'u-qayi k'u-č'u bu k'ur-gä-t'u-gäe̯ 'e-dä ba-sa do-yid
-ǰu bu abtuqayi kụčü bu kụrgetügei̯ ėde basa doyid
て と る な． 力 を 及 ぼ す な． これら またトインたちは

27 ǰar-liq-t'an g·ä-ǰu yo-su "ü-gä-·ue̯ "üe̯-läs bu "üe̯-
ǰarliq-tan gējü yosu üge'üi̯ üi̯les bu üi̯-
おおせがある者たち と言って 道理 の な い 事々を す る

28 -läd-t'u-gäę̈ ”üę̈-lä-du-·ä-su ”ü-lu-·u ”a-yu-qun mud
-ledtügeį̈ üį̈ledü'esü ülü'ü ayuqun mụd
な . す れ ば 恐れないのであるか 彼ら .

29 ǰar-liq ma-nu qu-lu-qa-na ǰil qa-bu-run hä-č'us za-ra-yin har-
ǰarliq manu quluqana ǰil qabur-un hečüs zara-yin har-
おおせ ← 我らが は ネ ズ ミ 年 春 の 最後の 月 の 十

30 -ban qur-ba-na
-ban qurban-a
三日 に

31 tay-du-da bu-guę̈-
Taydu-da bụgüį̈-
大 都 に 居る

32 -dur bi-č'i-bäę̈
-dür bičibeį̈
時に 書いた .

IV－2．モンゴル文面総訳

01 とこしえの天の力に，
02 大いなる威福の輝きの加護に，
03 カアンなる我らがおおせ.
04 諸軍のノヤンたちに・
05 軍人に，諸城
06 のダルガたちに・ノヤンたち
07 に，行き往く使臣たちに，聞かしめる
08 おおせ.
09 チンギス＝カンの並びにオゴデイ＝カアンの並びに
10 セチェン＝カアンの並びにオルジェイトゥ＝カアンの並びに
11 クルグ＝カアンのおおせに「仏僧たち・ネストリウス教士たち・道士
12 たちは，すべての貢納・畜税を見ず，天を祈
13 って祝福を与えあらしめよ」と言われたので
14 あった．今であっても以前の
15 おおせに従って，すべての貢納・畜税を見ず，
16 天を祈って祝福を与えあらしめよと言って，
17 河南府にある嵩山祖庭少林禪寺・空
18 相寺・寶應寺・天慶寺・維摩寺の寺々
19 にいる長老・提點・監寺を長とする仏僧たち

に保持すべき
おおせを与えた．これらの寺々に，彼らの家々に
使臣たちは泊まるな．駅伝馬・糧食をつかむな．
地税・商税を与えるな．寺々におよそ属する耕
地・園林・ひきうす・宿屋・店・浴堂・質
屋，彼らの如何なる物を誰であっても奪い引っ張っ
てとるな．力を及ぼすな．これらまた仏僧たちは
「おおせがある者たちだ」と言って，道理なき事々をする
な．すれば，恐れないのであるか，彼ら．
我らがおおせは，ネズミ年春の最後の月の十
三日に，
大都に居る時
に書いた．

IV－3．漢文面の移録

長生天氣力裏
大福廕護助裏
皇帝聖旨軍官每根底軍人每根底城子
裏達魯花赤官人每根底往來使臣
每根底宣諭的
聖旨
成吉思皇帝
月闊台皇帝
薛禪皇帝
完者篤皇帝
曲律皇帝聖旨裏和尚也里可温先生
不揀甚麽差發休着告
天祝壽者麽道有來如今依着在先
聖旨體例裏不揀甚麽差發休着告
天祝壽者麽道河南府路裏有的嵩山祖
庭大少林禪寺空相禪寺寶應禪寺
天慶禪寺維摩禪寺這寺院裏住持
長老提點監寺為頭目和尚每根底
執把行的
聖旨與了也這的每寺院裏房舍裏使臣
休安下者鋪馬祇應休拿者商税地
税休與者但属寺家的田地水土園
林竹葦碾磨店鋪席浴堂解典庫不

24　　揀甚麼他的不以是誰休倚氣力奪
25　　要者更這和尚每道有
26　聖旨麼道没體例的勾當休做者做呵他
27　　每不怕那甚麼
28　聖旨俺的
29
30　　鼠兒年三月十三日大都有時分寫來

IV－4．漢文面の日本語訳

01　長生の天の気力に，
02　大なる福廕の護助に，
03　皇帝の聖旨．軍官らに，軍人らに，城子
04　　のうちの達魯花赤・官人らに，往来する使臣
05　　らに宣諭する
06　聖旨．
07　成吉思皇帝，
08　月闊台皇帝，
09　薛禪皇帝，
10　完者篤皇帝，
11　曲律皇帝の聖旨に「和尚・也里可温・先生は
12　　いかなる差発も着けず
13　天に告し祝寿せよ」と言った．今は在先の
14　聖旨の決まりに依りつつ，いかなる差発も着けず
15　天に告して祝寿せよと言って，河南府路にある嵩山祖
16　　庭大少林禅寺・空相禅寺・宝応禅寺・
17　　天慶禅寺・維摩禅寺のこの寺院に住持する
18　　長老・提点・監寺を頭目と為す和尚らに
19　　持ちながら行く
20　聖旨を与えたのだ．これらの寺院に房舎に使臣は
21　　安下するな．鋪馬・祇応はとるな．商税・地
22　　税は与えるな．およそ寺家に属する田地・水土・園
23　　林・竹葦・碾磨・店・鋪席・浴堂・解典庫は，
24　　いかなる彼のものも誰であろうと気力に倚りて奪
25　　要するな．さらに和尚らは
26　聖旨があると言って道理のないことを做すな．做せば彼
27　　らは恐れないだろうか．
28　俺らが聖旨．
29
30　　ネズミ年三月十三日，大都にいる時に書いた．

(5) 語彙索引

少林寺聖旨碑モンゴル文面第1截～第4截の総索引である．見出し語はモンゴル文語形で掲げ，続いてその変化形を列挙した．パスパ文字でしか現れないものも，対応するモンゴル文語形が13～14世紀の資料で在証されているものは文語還元形をもって見出し語とした．それ以外はパスパ文字の転写形をそのまま見出しにたてた．パスパ文字形で語頭子音がモンゴル文語形と異なる場合は，前後参照 cross-reference を付してある．

ウイグル文字モンゴル語は正体，パスパ文字モンゴル語は斜体で表記した．数字は截数＋行数の3桁から成る．

抽出語彙は全て転写 transcription 形で示す．抽出は接辞を含めた単語単位で行なった．漢語の音写語については，ウイグル文字では分ち書きされる最小単位を1単語と看做し，パスパ文字では1音節毎に分ち書きされる特徴を踏まえて，見出し語は意味のある単語単位でたて，別に単漢字毎の前後参照を付した．

a-
aǰuγui 313
aǰu'uį 413
aqun 109
aqun 213
aqun 419
aṯuγai 210
aṯuγai 215
atuγai 313
atuγai 318
atuqayi 413
atuqayi 416

ab-
abtuγai 328
abtuqayi 426

aγula
aγula-ṯa 347

alba
alba 209
alba 223
alba 312
alba 327
alba 412
alba 415

ali
ali 224
ali 329

aliba
aliba 103
aliba 209
aliba 223
aliba 312
aliba 327
aliba 412
aliba 415

aman
aman 102

amǰu 庵主
amǰu 211

amu
amu 219
amu 322

an 安
an 212

an+
ani 343
anu 217
anu 224
anu 229
anu 320
anu 328
anu 329
anu 335
anu 421
anu 425

aran
aran 220
aran 228
aran 323
aran 334
arani 212
aran-a 206
aran-a 307
haran-a 405
aran-luγ-a 229
aran-luγ-a 335

arban
harban 429

ayu-
ayuqun 428

ba
ba 103
ba 104
ba 310
ba 310
ba 409
ba 409
ba 410
ba 410
ba 411

baγ
baγ 222
baγ 325
baq 424

Baγisba
Baγisba 212
Baγisba 224
Baγisba 330
Baγisba 343
Baγisba 344

baγsi
baγsi 345
baγsi-ṯa 343
baγsi-yin 213

baγsi-yin 224
baγsi-yin 330

baγu-
baγutuγai 218
baγutuγai 321
ba'utuqayi 422

balaγad
balaγadun 304
balaγad-un 203
balaγad-un 230
balaγad-un 232
balaγad-un 336
balaγad-un 339
balaqad-un 405

bari-
bariǰu 216
bariǰu 319
bariǰu 420
barilṯuγulǰu 344
barituγai 220
barituγai 324
barituqayi 422

basa
basa 223
basa 228
basa 233
basa 329
basa 333
basa 341
basa 426

Bavsu 寶積
Bavsu 211
Bovsu 225

baw
→ ***Baw-'iṅ***

Baw-'iṅ 寶應
Baw-'iṅ 418

be
be 236

ber
ber 218
ber 224
ber 226
ber 314
ber 321
ber 329
ber 331
ber 344
ber 414
ber 425

bičі-
bičibei 239
bičibei 349
bičibeị 432
bičig 108

bida
biṯa 237
biṯan-a 107
biṯan-a 210
biṯan-a 215
biṯan-a 236
biṯan-a 313
biṯan-a 318
biṯan-ṯur 109

bol-
bolba 113
bolγan 103
bolγan 227
bolγan 333
bolǰu 218
bolǰu 316
bolǰu 321
bolǰu 425

Buk-a
Buk-a 101

buli-
buliǰu 328
buliǰu 425

busi
busi 104
busi 227
busi 311
busi 333

busud
busud 325

buu
buu 110
buu 218
buu 218
buu 219
buu 219
buu 220
buu 220
buu 221
buu 223
buu 228
buu 235
buu 321
buu 321
buu 322
buu 323
buu 323
buu 324
buu 328
buu 328
buu 334
buu 342
bu 422
bu 422
bu 423
bu 426
bu 426
bu 427

bü-
bụgesü 106
bügesü 224
bügesü 229
bügesü 314
bügesü 329
bügesü 336
bö'esü 414
büküi-ṯür 239
büküi-tür 348
bụgüị-dür 431
bụkün 417

caṅ 倉(?)
caṅ 423

čanglau 長老
čaṉglau 211
čanglau 107
čanglau 108
čanglau 212
čanglau 212
čanglau 225
čanglau 319
čanglau 331
čanglau 332
čanglau 341
čanglau-i 315
čanglau-ṯa 102
čanglau-ṯa 215
ǰaṅ-law 419

čerig
čerig 206
čerig 307
čerig 405
čerigüdün 307
čerigüd-ün 205
čeri'üd-ün 404

čida-
čidabasu 111

čidqu-
čidqutuγai 219

čidqutuɣai 322

či
čimayi 103

Činggis
Činggis 208
Činggis 310
Jiṅgis 409

dabus
dabus-un 327

Daidu 大都
Taydu-da 431

danǰu 壇主
danǰu 211
danǰu 225
danǰu 234

daruɣa
daruɣas-ta 304
daruɣas-ta 204
daruɣas-ta 233
daruɣas-ta 340
daruqas-da 406

dašmad
dašmad 311
dašmad 208

delge-
delgebei 115

dėm
→ **tidem**
→ **dim**

dėn
→ **geidinküü**

deng 燈
deng 212

dim 店
TWR 222
dim 326
dėm 424

doluɣan
doluɣan 115

dora
dora 213

Du 都
Du 103
Du 105
Du 107
Du 108
Du 111

du
→ **Daidu**

duɣulɣa-
duɣulɣaqui 206
duɣulɣaqui 308
dūlqaquį 407

ečüs
ečüs 114
ečüs 238
hečüs 429

ede
ạte 211
ạte 226
ạte 233
ėde 426
ạten-ü 217
edenü 320
ėden-ü 421

edüge
edüge 314
ėdü'e 414

ele
ạle 105
ạle 213
ạle 234
ạle 316
ạle 341
ėle 423

elgü- (?)
elgür-ün 344

ene
ạne 215
ạne 315
ạne 318

eregüi
ạregüi 344

erkegüd
erkegüd 208
erkegüd 311
ėrke'üd 411

ese
ạse 110
ạse 111

fu
→ **Qanambuu**

ɣaǰar
ɣaǰar 221
ɣaǰar 325
qaǰar 423
ɣaǰar-a 213

ɣo
→ **Qanambuu**

ɣurban
qurban-a 430

gey
→ **geidinküü**

geidinküü 解典庫
geidinküü 326
geiṭenküü 222
gey-dėn-ku 424

gem
→ ***gem-zï***

gem-zï 監寺
gem-zï 419

Gim 金
Gim 212

Gü 姬
Gü 211

haran-a
→ **aran**

harban
→ **arban**

hirü'er
→ **irüger**

hečüs
→ **ečüs**

ibegen
ibegendür 302
'ihēn-dür 402

igil
igil 228
igil 229
igil 334
igil 335

ilčin
ilčin 217

ilčin 320
élčin 422
ilčin-e 306
yilčin-e 205
élčin-e 407

ire-
iregsen 105
iregsen 106
iregültekü-yi 107
iregültekü-yi 108
iretügei 110
iretügei 110

irgen
irgen-e 206
irgen-e 308

irüger
irüger 210
irüger 313
irüger 318
yrüger 215
hirü'er 413
hirü'er 416

ǰarliq
→ **ǰrlγ**

ǰ-e
ǰ-e 237

ǰalbari-
ǰalbariǰu 209
ǰalbariǰu 214
ǰalbariǰu 312
ǰalbariǰu 317
ǰalbariǰu 412
ǰalbariǰu 416

ǰali
ǰali-yin 302
ǰali-yin 402

ǰaṅ
→ **čanglau**

ǰaṅ-law
→ **čanglau**

ǰaryula-
ǰaryulaǰu 231
ǰaryulaǰu 337
ǰaryulatuγai 220
ǰaryulatuγai 228
ǰaryulatuγai 323
ǰaryulatuγai 334

J̌auqud
J̌auqudun 103
J̌auqudun 213

ǰiγa-
ǰiγatuγai 236
ǰiγatuγai 343

ǰil
ǰil 114
ǰil 238
ǰil 346
ǰil 429

J̌iṅgis
→ **Činggis**

ǰrlγ
ǰrlγ 113
ǰrlγ 202
ǰrlγ 207
ǰrlγ 217
ǰrlγ 238
ǰrlγ 303
ǰrlγ 309
ǰrlγ 320
ǰrlγ 346
ǰarliq 403
ǰarliq 408
ǰarliq 421
ǰarliq 429
ǰrlγ-iyar 102
ǰarliq-tan 427
ǰrlγ-tur 208
ǰrlγ-tur 310
ǰarliq-dur 411
ǰrlγ-un 211
ǰrlγ-un 315
ǰarliq-un 415

ǰun
ǰunu 238

ǰüg
ǰügiger 331
ǰügiger 333
ǰügiyer 226
ǰügiyer 228

ke
ke 219
ke 323
ke 328
ked 218
ked 218
ked 321
ked 321
ked 425
ked 425
kedi 425

kebid
kebid 424
kebid-teče 326
kebid-teče 222

Keibingvü 開平府
Keibingvü-te 239

keme-
kemegdegsed 313
gēkdegsed 413
kemegsen 210
kemeǰü 234
kemeǰü 342
gēǰü 427
kemen 318
kemen 215
gēn 416
kemer-ün 236

ker
ker 236
ker 344

kereg
kereg 112

keyid
keyid-tür 217
keyid-tür 320
geyid-dür 421

ki
→ ***Ki-mo***

Ki-mo 維摩
Ki-mo 418

ki-
kiged 212
kiged 225
kiged 234
kikün 232
kikün 339

kiṅ
→ ***Tėn-kiṅ***

Köke
Köke 347

könürge
könürge-teče 223
könürge-teče 327

ku
→ **geidinküü**

kuṅ
→ ***Kuṅ-zeṅ***

Kuṅ-zeṅ 空相
Kuṅ-zeṅ 417

küčü
kụčü 426
küčündür 201
küčündür 301
kụčün-dür 401

küčüde-
küčüdeǰü 218
küčüdeǰü 321

Külüg
Külüg 411

kürge-
kụrgetügeị 426

law
→ **čanglau**

lim
→ **Šeülim**

luu
luu 346

maγui
maγui 232
maγui 338

manu
manu 202
manu 238
manu 303
manu 346
manu 403
manu 429

mede-
meṭegsen-ü 105
meṭekü 104
meṭetügei 107
meṭetügei 345

medel-
medelün 111

mo
→ ***Ki-mo***

möngke
Mọngke 102
mọngke 201
mọngke 301
mộṅkạ 401

mör
mör-iyer 111
mör-iyer 214
mör-iyer 317

müd
mụd 428

nam
→ **Qanambuu**

nere
nere 103
nere 106
nere 112

nereyid-
nereyidbe 106
nereyidčü 109

nigen
nigen 238

nom
nom-un 225
nom-un 227
nom-un 330
nom-un 332

noyad
noyad-luγ-a 337
noyad-luγ̃a 230
noyad-ta 233
noyad-ta 305
noyad-ta 307
noyad-ta 340
noyad-da 404
noyad-da 406
noyad-ta 204
noyad-ta 206

olan
olan 213
olan 226
olan 316
olan 331

ög-
ögbei 217
ögbei 320
ộgbeị 421
ögtügei 102
ögtügei 108
ögtügei 221
ọgtụγei 223
ögtügei 226
ögtügei 233
ögtügei 328
ögtügei 331
ögtügei 340
ộgtügeị 423
ögün 210
ögün 215
ögün 313
ögün 318
ögün 413
ögün 416

Öködeị
Öködeị 409

Ộlǰeịtü
Ộlǰeịtü 410

ötügüle-
ötụgüleǰü 214

ötügüs
ötụgüs 225
ötụgüs 230
ötụgüs 234
ötụgüs-ün 227
ötegüs 336

qab
qab 106

qabur
qabur-un 346
qabur-un 429

qaγal-
qaγalǰu 226
qaγalǰu 331
qaγaltuγai 231
qaγaltuγai 337

qaγan
qaγan 202
qaγan 303
qān 403
qān-u 409
qān-u 410
qān-u 410
qān-u 411

Qaγan
Qaγan-u 310

qaǰar
→ **γaǰar**

qalaγun
qalaγun 222
qalaγun 326
qala'un 424

qamiγa
qamiγača 106

qamtu
qamtu 231
qamtu 337

qamuγ
qamuγ 105

qan (1)
qan 102
qanu 310
qan-u 208
qan-u 409

qan (2)
qan-u 218
q-anu 322

Qanambuu 河南府
Qanambuu-ta 315
Го-nam-fu-da 417

Qar-a
Qar-a 108

qariyatan
qariγatan 316
qariyatan 221
qariyatan 325
qariyatan 423

qorin
qorin 347

qorum
qorum-tur 109

qoya(r)
qoyaγula 101

qubčiri
qubčiri 209
qubčiri 223
qubčiri 312
qubčiri 327
qubčiri 412
qubčiri 415

qudal
qutal 232
qudal 339

qulaγai
qulaγai 232
qulaγai 339

qulu+ ＜葫蘆
qulus-un 221
qulud 325

quluγana
quluqana 429

qurban-a
→ **γurban**

saγu-
saγutuγai 218
saγutuγai 322

sang ＜倉
sang 219
sang 322

sara
sara-yin 114
sara-yin 238
sara-yin 346
zara-yin 429

Sečen
Sečen 410

sigüsü
sigüsü 220
sigüsü 324
ši'üsü 422

sildeged
siltegedün 203
siltegedün 304

sine
sinete 238
sinete 115

singsing (1) 僧省
singsing 103
singsing 106
singsing 107
singsing 108
singsing 112

singsing (2) 先生
singsingüd 208
singsingüd 311
senši-nüd 411

sirge
sirge 222
sirge 327

süme
sümes-de 423
sümes-tür 217
sümes-tür 219
sümes-tür 221
sümes-tür 320
sümes-tür 323
sümes-tür 325
sümes-dür 418
sümes-dür 421

sünvü+ 宣撫
sünvüs-te 203

sui 税
sui 220
sui 311
sui 324

suu
suu 302
su 402

šan
→ *Zün-šan*

Šagimuni
Šagimuni-yin 111
Šagimuni-yin 214
Šagimuni-yin 317

šen
→ ***šen-zï***

šen-zï 禪寺
šen-zï 417

Šeülim 少林
Šeülim 102
Šeülim 211
Šeülim 215
Šeülim 225
Šeülim 234
Šew-lim 417

šew
→ **Šeülim**

Šing 聖
Šing 212

ši'üsü
→ **sigüsü**

Šuui 肅
Šuui 315
Šuui 318
Šuui 330
Šuui 332
Šuui 341

ta
ta 226
ta 331

tabun
tabun 212
tabun 225
tabun 227
tabun 234
tabun-a 347

talbi-
talbituγai 219
talbituγai 323

tamγa
tamγa 220
tamqa 423
tamγa-ţača 311
tamγa-dača 324

Tangγu
Tangγu 104

taqaγul-
taqaγulǰu 233
taqaγulǰu 340

taqi
taqi 104

taqiγu
taqiγu 238

tata-
tataǰu 328
tataǰu 425

ţay
→ **Daidu**

tegirmed
tegirmed 326
tegirmed 222
tegirmed 424

tėn
→ ***Tėn-kiń***

Tėn-kiń 天慶
Tėn-kiń 418

terigü+
terigün 346
teri'üten 419

ţi
→ **tidem**

tidem 提點
ţi-dėm 419

tiling 提領
tiling 316
tiling 331
tiling 341
tiling-e 319
tiling-ün 332

ţiń
→ *ɜu-ţiń*

tngri
tngri-yi 209
tngri-yi 214
tngri-yi 312
tngri-yi 317
dėńri-yi 412
dėńri-yi 416
tngri-yin 201
tngri-yin 301
dėńri-yin 401

toyid
toyid 208
toyid 226
toyid 310
toyid 332
doyid 411
doyid 426
toyid-i 105
toyid-i 109
toyid-i 213
toyid-i 228
toyid-i 232
toyid-i 334
toyid-i 339
toyid-ta 111
toyid-ta 206
toyid-ta 307
toyid-ta 316
doyid-da 419
toyid-tača 104
toyid-un 223
toyid-un 229
toyid-un 230
toyid-un 231
toyid-un 329
toyid-un 334
toyid-un 336
toyid-un 338

Töbün
Töbün 104

tula
tula 105

Turuγdai
Turuγţai 101

tüsigde-
tüsigdebe 234
tüsigdebe 341
tüsigdegsed 230
tüsigdegsed 336

Uiγur
Uiγur 104

ulaγ-a
ulaγ-a 220
ulaγ-a 324
ulā 422

uqa-
uqad 237

urida
uridan-u 314
uridan-u 414

uriγda-
uriγdabasu 109
uriγdabasu 110

usun
usun 221
usun 222
usun 325
usun 326
usun 424
usun 424

übül
übül-ün 114

üge
ügeber 224
ügeber 227
ügeber 330
ügeber 332
üges 229
üges 335

ügegü+
üge'üi 427
ügegün 235
ügegün 342

ügüle-
ügüleǰü 102
ügüleldükün 335
ügülelṯükün 229

üiled-
üiledbesü 235
u̯iledbesü 343
üi̯ledü'esü 428
üiledkün 232
u̯iledkün 339
üiledtügei 235
u̯iledtügei 342
üi̯ledtügei̯ 427

üiles
üiles 224
üiles 232
üiles 235
u̯iles 329
u̯iles 338
u̯iles 342
üi̯les 427

üje-
üǰen 209
üǰen 312
üǰen 412
üǰen 415

üker
üker 114

ülü
ülü 209
ülü 227
ülü 231
ülü 312
ülü 333
ülü 338
ülü 412
ülü 415
ülü'ü 428

ülü-
ülükü-yi 107

yabu-
yabuayi 216
yabuγai 319
yabu'ayi 420
yabudqun 333
yabudqun 228
yabuqun 205
yabuqun 231
yabuqun 306
yabuqun 338
yabuqun 407

yaγu
yaγu 219
yaγu 322
yaγu 328
ya'ud 425
yaγun 112

yeke
yeke 302
yeke 402

yilčin-e
→ **ilčin**

yorči-
yorčiqun 204
yorčiqun 305
yorčiqun 407

yosu
yosu 235
yosu 342
yosu 427
yosun 227
yosun 333
yosuγar 211
yosuγar 225
yosuγar 231
yosuγar 315
yosuγar 330
yosuγar 338
yosu'ar 415

yrüger
→ **irüger**

zara
→ **sara**

zeṅ
→ ***Kuṅ-zeṅ***

zï 寺
zï 418
zï 418
zï 418
zï 418
→ ***šen-zï***
→ ***gem-zï***

züṅ
→ ***Züṅ-šan***

Züṅ-šan 蒿山
Züṅ-šan 417

ʒu
→ ***ʒu-ṯiṅ***

ʒu-ṯiṅ 祖庭
ʒu-ṯiṅ 417

'iṅ
→ ***Baw-'iṅ***

(6) 語註

◆I 01：Turuγtai Buk-a qoyaγula／漢I 01：禿魯黒台不花兩箇

turuγtai は turuγ + -tai（人名形成の接辞）と分解できる．turuγ は『元朝秘史』167節（巻5, 42葉b4）にみえる禿𠯿魯黑turuq（傍訳は倚杖，寄り掛かれるものの意）[78]と同じ単語かと思われる．

Buk-a (PWK-') の綴りには問題がある．「花」の字は多くの場合後舌音 qa を表わすから漢文面の「不花」からは牡牛を意味する buq-a という後舌形の単語が期待される．一方モンゴル文面の PWK-' の綴りには前舌形の母音を要求する kaph (K) 文字が現れているが，第1音節の母音字は後舌音を示している．さらに kaph と語末の aleph が分ち書きされており，全体として不規則な綴りとなっている．ここでは暫定的に，PWX-' となるべきところがなんらかの理由で PWK-' と綴られたと考えたい．語末に aleph がくる時に直前の heth と分ち書きされる例は珍しくない[79]．

両者はモンケの聖旨を伝奉していることからみて恐らくはモンケの側近であったと思われる．彼らに関する詳細な事蹟を記した史料はないが，モンケ時代に行なわれた道仏論争[80]を詳細に伝える『至元辯偽録』巻3（『大正新修大蔵経』No. 2036, p. 768a）にみえる「土魯及乞台普華」は一見「土魯及び乞台普華」と読めるが[81]，「及」の字を除くと「土魯乞台・普華」とも読め Turuγtai Buk-a に近付く．『辯偽録』の記事は，1255年にカラコルムで行なわれた第1回道仏論争の直前の部分であり時期も場所も一致し，本截にみえる両者と同一人物のように思われる．が，同じ『至元辯偽録』巻3（同, p. 769c）には「乞台普華」が単独で現れており，『辯偽録』の記事を「土魯及」と「乞台普華」と読み本截にみえる「禿

(78) See 小澤 1986, pp. 324-325. レッシングの蒙英辞書には turuγ は "size, breadth, height, quantity, limit ; big, huge (of animals)" とある, Lessing 1982, p. 844a.

(79) 例えば1362年西寧王ヒンドゥ碑モンゴル文面の37行目に Buq-a [Cleaves 1949, p. 66]，敦煌石窟第144窟テムルブカ題記の2行目に Temür buq-a [敦煌研究院考古研究所・内蒙古師範大学蒙文系 1990, pp. 11-12] など．

(80) 岩井 1921/22 ; 野上 1943 ; 窪 1992.

(81) See 岩井 1921, p. 92.

魯黒台」「不花」に近付けるのも一案である．「乞台」は当時北中国を示したカタイあるいはキタイを写したものと考えられ，ブカという名のこの人物は北中国で生まれたかあるいは親に漢人をもっていたのかもしれない．（中）

qo(')yaγula は「余分な」aleph を読むと qoraγula とも読めるが，このような形は在証されておらず誤刻と見做す．-γula(n) は集合数詞をつくる接辞[82]．（松）

◆I 02：Mǫngke qan aman ǰrlγ-iyar ／漢 I 02-03：傳奉蒙哥皇帝聖旨

mǫngke の綴りは発令文冒頭の定形句第1行「永久の天の力に mǫngke tngri-yin küčün-dür 」(cf. II 01, III 01, IV 01) の「永久の」を意味するモンゴル語 mǫngke と同じ単語であり，第1音節が後舌形で綴られる点もまた同じである．パスパ文字でも moṅk'a / moṅqa とあたかも後舌形の単語のように綴られる．なお mem 文字は語頭，語中において中心線の左に resh 文字状の歯が二本現れるのが本碑ウイグル文字モンゴル文面全体にわたる特徴である．（松）

ここにモンゴル帝国第4代皇帝モンケが qaγan 号ではなく qan 号をともなった形で現れたことに注目したい．モンゴル時代，モンゴル皇帝に対して qaγan と qan の二つの称号が用いられたことが知られている．qaγan 号は周知のごとく第2代のオゴデイが自己の専称として採用したものであるといわれている．ペルシア語文献ではオゴデイ，モンケ，及びクビライ以下の元帝にのみ qān (qaγan に対応) が使用され，それ以外は hān (qan に対応) として明確に区別される[84]．一方，1257年の紀年を持つ釋迦院碑記にもモンケは Mǫngke qaγan としてみえている[85]．しかし釋迦院碑のモンゴル文は宮廷より直接送られた公文書ではなく，モンケに対する賛辞を刻んだものである．これに対して本截はモンケの聖旨を直接刻んだものと考えられ，この点に関してより根本的な資料と言える．ペルシア語文献との矛盾は残るが，1253年の時点でモンケが qan 号を称えていたことは揺るがない．あるいはモンケ時代においては qaγan 号と qan 号と

(82) cf. Poppe 1974, p. 55.
(83) cf. Poppe 1957, pp. 70-72.
(84) 杉山 1987, p. 28, n. 6；杉山 1990a, pp. 13-14.
(85) Rinčen 1959, p. 136；胡・白 1985, pp. 6-7.

は明確に意識して使い分けられてはいなかったのかもしれない．（中）

aman ǰrlγ という形はすでに述べたように初出である．本碑で ǰrlγ はすべて Y'RLYX ではなく YRLX と母音を省略したウイグル語からの借用形で現れる．この他 tngri もウイグル語からの借用形が用いられ，語末の s 音が例外なくウイグル式の zain (Z) 文字で現れることとあわせて，書写言語としてウイグル文字を採用して間もない初期のモンゴル語を考えるうえで興味深い事例である．なお -iyar に対応する漢訳は「依着～裏」が期待されるがここでは「傳奉」がそれにあたるか（cf. I 11／漢 I 19-20）．（松）

◆I 02：Šeülim čanglau-da ügülejü ögtügei／漢 I 03-04：道與少林長老

sin 文字の右側には Š 音を指定する 2 点が付されている．第 4 截17行目にパスパ文字で Šew-lim と綴られるのにあわせて前舌形で転写した．少林長老は曹洞宗の高僧雪庭福裕のことである．福裕には延祐元年（1314）立石の大元贈大司空開府儀同三司追封晉國公少林開山光宗正法大禪師裕公之碑（以下裕公碑と略す）がある[86]．同碑によると，諱は福裕，字は好問，自ら雪庭と号す．山西太原文水の張氏の子．曹洞宗の高僧で『從容録』（『大正新修大蔵経』No. 2004）の著者として知られるかの万松行秀に師事したあと，乙巳年（1245）クビライの命により少林寺に住し荒廃した寺を復興し，戊申年（1248）グユクの命によりカラコルムの興国寺に住す．至元12年（1275）7 月20日73歳で死去．皇慶元年（1312）に大司空開府儀同三司追封晉國公に追封される．（中）

本碑においては，分ち書きされる与位格の -da／-de, -dur／-dür が daleth 文字をもって現れることはない．また ügülejü ögtügei は ög- を補助動詞にとって「言ってやるようにせよ」と訳すことも可能である．漢文面「道與」の「與」それ自体に意味はない[87]．「道與」は比較的初期の発令文によく用いられ，至元年間の中期まで用例が確認される．それ以降のそれも特にモンゴル文直訳体漢文の発令文では「宣諭」（対応するモンゴル文は duγulγa-；cf. II 06／漢 II 04, III 08／

(86) 『程雪樓集』巻 8，元代珍本文集彙刊本，6 葉b - 8 葉b；鷲尾 1932, pl. 33-36, pp. 51-59；常盤・関野 1975, pl. 92, pp. 68-71；陳 1988, pp. 1146-1147.

(87) 龍 1985, pp. 40b-41a.

漢 III 05, IV 07／漢 IV 05）が用いられるようになる[88]．（松）

◆I 03：ba／漢I 05：俺

ba は相手を含めない一人称複数形の主格．I 07：bitan-a（／漢 I 12：咱毎根底），I 09：bitan-dur（／漢 I 17：俺毎根底）の bita(n) は相手を含めて言う場合に用いられる一人称複数形である．「咱」も「俺」も単独で複数を意味する場合があるが[89]，bita(n) に対する漢文には複数形であることを強調した「毎」が付されている．第 2 截・第 3 截も同様（II 10, 15, 36, 37／漢 II 08, 14：俺毎，III 13, 18／漢 III 10, 14：俺毎）．ba という複数形をもって皇帝一人を表しているのだろうか．第 2 截から第 4 截にみえる manu（II 02, 38／漢 II：ナシ，III 03, 46／漢 III 03, 31：ナシ，俺毎底，IV 03, 29／漢 IV 03, 28：ナシ，俺的）は ba の属格である．ba と bita(n) に使い分けがあるのか，モンゴル語文献における使用例を広く蒐集して検討する必要がある．（松）

◆I 03：čimayi／你

第 1 截では語末の yod と waw の字形にゆれがある．例えば，01：Turuγtai, 07：medetügei, 10：iretügei, 15：delgebei は平仮名の「つ」状の明らかな yod である．また，03：Tu, 07：čanglau は平仮名の「の」状の明らかな waw である．その他の yod と waw は「つ」と「の」の中間形，「の」の字の左部分が丸くなくとがった字形をしており，左側の角の部分が比較的鋭く空間が狭いのが yod で広いのが waw であるが，その差は微妙である．特にこの čimayi の場合，字形は waw に近く čimanu（お前の）とも読める．最後の子音文字は nun とも yod とも読めるが，どちらかといえば yod に近いという程度である．（松）

◆I 03, 05-06, 07, 08, 11-12：Du singsing／漢I 05, 09-10, 13, 14, 21-22：都僧省

Du singsing は「都僧省」の音写．一見「僧省」に「都」を冠した称号のように思えるが「僧省」という称号は確認されていない．意味は「都（すべ）ての僧を省（み）る」であり，語順がモンゴル語風の漢字称号である．singsing の最初の kaph は一見 pe とも読める字形で現れている．語中の kaph が pe の字形で現れる例は I 06 ：

(88) 海老沢 1976, pp. 215-218；高橋 1991, pp. 412-413.

(89) 龍 1985, pp. 637b, 753b.

iregsen, bügesü ；I 07, 08, 12 ： singsing がある（cf. II 23 ／ III 28 ： 'WKTWX'Y の項）．裕公碑には，福裕が戊申年（1248）グユクに招かれカラコルムの興国寺に住して，「未だ朞月ならずして」モンケに招かれ釈教を総領し都僧省の符を授けられたとある．「朞月」とは「一周年・満一ヵ年」の意であるから，文面をそのまま素直に受けとると，これは1248年ないしは1249年のこととなる．I 05-06 でも「…仏僧たちをすべて管轄したので，都僧省と名付けた」と過去形で表現されており，この部分は1248年ないし1249年のことを述べているとみて大過あるまい．少林寺の塔林に現存する福裕の墓塔には「宣授都僧省少林長老特賜光宗正法大禅師裕公塔」と刻まれた額がはめ込まれている(90)．（中）

◆I 03：'YLYB' ／漢I 06：則不是

語頭の aleph と yod の歯の根元の部分が接しており素直に読むと iliba となるが，他に例を見ないので今は aliba の誤刻と見做す．漢文面の「則不」は「不則」（あるいは不但・不只など）と同じであり，「則不是」で「～だけでなく」の意となる(91)．モンゴル文面を無視すれば，05：去 で切って漢I 05-06 は「都僧省の名字を與えに去(い)ったのか，也則(それとも)そうでないのか」とも訳せる(92)．この場合「與えに去ったのだ」という強調の意味になる．（中）

◆I 03, II 13：Y'WXWDWN ／漢兒

J̌auqud に属格の -un が付いた形．J̌auqud は起源不明の単語であり(93)，ウイグル文字で在証されたのは本碑が初めてである．ペリオはラシード『集史』の「キタイの地域はモンゴル人の間では J̌āūqūt の名で知られる」という説明記事をめぐる諸説を紹介，批判したあと，『元朝秘史』251節（続1, 11葉b1, 11葉b5）にみえる 趙官 J̌auγon（傍訳は宋）に着目しここにその解決の糸口を求めようしてい

---

(90) 常盤・関野 1975, pl. 104.

(91) 『中日大辞典増訂版』大修館書店, 1986, p. 2340b；cf. 龍 1985, p. 311,「則是」の項.

(92) cf. 龍 1985, p. 89b,「也則」の項.

(93) 遼金元の軍制で問題とされる「乣」あるいは「乣軍」と結びつける説もあるが，「乣」字については音義を含めて諸説いまだ定案を見ていない．研究史については，cf. 蔡 1983；愛宕 1990, p. 281, n. 1など.

る[94]．本来，宋を意味する「趙官」という漢語がまず遼に入り，それが北中国の隣人つまり宋を指すようになる．やがて複数形のJauqudが一般的となりその形でモンゴルに入った．ラシードは漢語からではなくモンゴル語に入った複数形の形を写した，と考えるのである．ところが秘史の「趙官」は明らかに南宋を指しており，『集史』がキタイ（カタイ）つまり北中国の別称とする説明と矛盾すること，モンゴル時代に成立した秘史になぜ「単数形」をもって現れているのかなどは，ペリオの考えでは説明がつかない．ペリオも引用する『元朝秘史』281節には同時に，札中忽敦 亦舌児堅 Jauqud-un irgen（続2, 55葉 a 1-2, 傍訳は金人毎百姓），札中忽湯 亦舌児堅 Jauqud irgen（続2 55葉 a 2, 傍訳は同じ）とペリオのいう「複数形」でも現れている．このJauqudこそは本碑にみえるそれと同じであろう．『事林廣記』所収「至元譯語」人事門には「女直は主十歹（Jürčetei），漢兒は札忽歹（Jauqudtai），蛮子は囊家歹（Nankiyatai）」とあり，女直以外の北中国の意と解せる．ラシードはまた「Jāūqūt は Khatāī と Tangqūt と Jūrche と Sūlangqā から成っていて，その地方をモンゴル人は Jāūqūt と呼ぶ」とも説明する[95]．Jauqudの語源は依然不明であるが，時にタングト・女真・高麗（Sūlangā）の民をも含む北中国を指した単語と思われる．『元史』巻4・世祖本紀には，モンケ時代のクビライの冬営地として「爪忽都」つまりこのJauqudの地が挙げられている[96]．（中）

◆I 04：M'RTKW／漢I 06：管

漢文面の「管」の字に対応する単語である．本截漢文面にはこの他に09, 21に「管」の字が見え，それに対応するモンゴル語はいずれも mede-「知る」（05, 11）である．それゆえここの M'RTKW は medekü の誤刻と見做した．（松）

◆I 04：taqi／漢I：？

『元朝秘史』190節（巻7, 16葉a）に塔乞（傍訳は也），蒙漢合璧『孝経』孝治章

---

(94) Pelliot 1963, pp. 227-229.

(95) Rashīd al-Dīn, Jāmi' al-Tawārīh, MSS. Topkapı Sarayı Müzesi, Kütüphanesi, Revan 1518, 193b；Boyle, 1971, p. 225.

(96) cf. 杉山 1984, pp. 490-491 & n. 7, n. 8.

にT'XYと在証される[97]．ウイグル語taqïの用法を借用したものであろう[98]．（松）

◆I 04：Uiγur Töbün Tangγu／漢I 07-08：畏兀兒西番河西

Töbünは「西番」に対応しチベットを表す語と思われるが，このような形は在証されていない．ペルシア語文献ではTBTあるいはTWBWTと記され[99]，漢文文献では，吐蕃・土蕃・土番・西蕃・西番・土鉢・土波・土播思・鐵不得と記され[100]，時代を遡るとカラバルガスン碑文ソグド文面ではtwp'yt[101]，オルホン碑文ほかトルコ語碑文ではTöpüt[102]，アラビア語文献ではTubbat / Tibbat / Tubbit[103]と記される．ここでは解決案として，期待されるTöböd ～ Tübüdがモンゴル語としては複数表記であることに着目し，その単数表記Töbünが現れたと考えたい．並記されるUiγurもTangγuもモンゴル語ではいわば単数表記である．両者は『元朝秘史』においては例えば152節（巻5, 14葉b1）に 委兀敦 唐兀敦 Uiγud-un Tangγud-unとあるように複数形で記されるのが普通である．『元朝秘史』260節（続1, 47葉a1）には 脱孛都$_{揚}$（傍訳は西番毎）とTöbödの複数形Töbödüdという形で現れている[104]．

本截の内容は1253年当時カラコルムに中国・ウイグル・チベット・タングトの仏僧が来ていたことを明確に示すとともに，裕公碑との関連によってこの状況が1248年あるいは1249年にまで遡れることがわかる．この時期モンゴリアの中枢にチベット仏教が伝わっていたであろうことは，すでに1239年オゴデイ時代に中央チベットにモンゴル軍が進出し1244年にはコデンKödenとサキャパンディタSa skya panditaとの会見が成立しており[105]，予想は出来た．だからといっ

---

(97) *Xiaojing* 1978, p. 185.
(98) cf. Clauson 1972, p. 466.
(99) 杉山 1987, pp. 42-43.
(100) cf. 那珂 1907, pp. 449-450；箭内 1916, pp. 278-279.
(101) 吉田 1988, p. 47.
(102) cf. 森安 1987, p. 48, n. 9.
(103) Yule 1903, pp. 917-918；森安 1987, p. 48, n. 10.
(104) ただしこれを「チベット」ではなく「猟犬」の意にとり傍訳を誤りとする見解もある，『蒙古秘史詞匯選釈』内蒙古人民出版社, 1980, pp. 268-269；小澤 1989, pp. 360-361, n. 10.
(105) cf. 岡田 1962；杉山 1991a.

て本截が語るチベット仏僧をサキャ派に限定する必要はない．西夏国が漢文・チベット文合璧の西夏黒水橋碑を立てたり[106]，チベット文の経典を有していたりと[107]，チベット仏教を含む仏教を崇拝していたことは事実として認められる．チンギスは1205年から1226年にわたり西夏に5回の遠征を行ない1227年にこれを滅ぼしており，この後あるいはこの間に，すでに河西地方で活動していたチベット仏僧がモンゴルに入り込んだという状況は十分考えられる[108]．（中）

◆I 06, 09：nereyid-／漢I 09：喚, 17：提名字

nereyid- に対して漢文面では異なる訳が与えられている．『元朝秘史』には，40節（巻1，23葉b 2）に 捏舌列亦㾗罷 nereyidbe（傍訳は名字与了），203節（巻8，27葉b 1）に 捏舌列[亦]都克薛㾗 nereyidügsed（傍訳は提名了的）とみえる．「提名（字）」は「名前を口に出す」の意．（松）

◆I 07, 09：bidan-a, bidan-dur／漢I 12, 17：咱每根底, 俺每根底

bidan に対して同じ与位格が異なる格語尾で表されている点注目される．これを受ける動詞をみてみると，07では受動態の iregülde- であり，09では能動態の nereyid- である．モンゴル語では受け身の意味上の主語は与位格で示される．前者が受け身の主語であることを示すために -a／-e 系の与位格をもって表記してその意味の違いを表したのではないだろうか．漢訳がどちらも「根底」であるのはモンゴル語の与位格を機械的に置き換えたものと考えられる．（松）

◆I 07：bidan-a iregüldekü-yi ülükü-yi／漢I 12-13：來的不合來底

ülü- という動詞語幹が13世紀において存在していたことを示す最初の例．これまで，動詞としての用例は確認されてこなかった．（松）

◆I 08-09：Qar-a qorum-dur aqun toyid／漢I 16：和林裏有底和尚每

カラコルムはチンギスカンの1220年にモンゴル帝国の本拠地として選定され，1235年にはオゴデイによりそこに万安宮と城壁が作られた．オゴデイ時代

---

(106) 王堯 1978.
(107) cf. 史 1988, pp. 103-105.
(108) 西夏国内で活躍したチベット仏僧については，cf. Sperling 1987.
(109) cf. 小澤 1979, p. 194, n. 1.

すでにこの地は帝国の行政・国際貿易の中心地に発展し，農耕や手工業も行なわれていたようである．チンギスカンと同時代のものとみられる持仏堂の遺物も発見されている[110]．（中）

◆I 11, II 14, III 17：Šagimuni／漢I 20, II 13, III 13：釋迦牟尼佛

「釋迦牟尼佛」は漢文面ではすべて抬頭され，モンゴル文面は第1截では明らかに抬頭されているが第2截は抬頭されず，第3截ではちょうど行頭にきている．（中）

◆I 11：medel-／漢I 21：管

すでにM'D'LWNとして在証されている[111]．クリーヴス氏同様mede-に反復動詞を形成する-l-が付いた形[112]と解釈する．（松）

◆I 12：yaγun kereg／漢I 22：要做甚麽

モンゴル文面の綴りには問題がある．まずyaγunの第1音節のY'の綴りがはっきりしない．またkeregと読んだ単語には本截にのみ現れる特殊な綴りが2ヵ所含まれる．単純にはaleph 2つを意味する文字らしく，例えば語末のK（I 03：singsing），語末の'N（I 03：bolγan）もこれ「1文字」であらわされる．ここではK'R'Kの'R'がこの特殊文字2つで表されていることになる，つまりaleph文字4つが示されているわけであり，最初のalephがeを，次の二つがrを，最後のalephがeを表していると解釈した．yaγun keregは『入菩提行疏 Bodistv-a čary-a avatar-un tayilburi』(156 b 11)にすでに在証されている[113]．（松）

◆I 15：delgebei／漢I 24：開

すでに14～15頁でも述べたようにdelgebei／開の意味を「開読」の方向で考えたい．ただ「開」一字で使用された例は確認されておらず，「開読」と同義とするのもひとつの案でしかない．最近出版された『黒城出土文書（漢文文書巻）』（李 1991）に収められた漢文公文書には，「開」の用例が多数見られ[114]，この問題

(110) cf. 村上 1975, pp. 1-21.

(111) Cleaves 1953, p.486, n. 11；Hambis 1962, p. 145 (plate)；Ligeti 1972b, pp. 268-269.

(112) cf. Poppe 1974, p. 64.

(113) cf. Weller 1957 / 58, pp. 24-25；Poppe 1962, pp. 43-44；Lessing 1982, p. 456a.

(114) F116:W191, F116W193, F197:W33, F116:W470, F135:W77, F116:W419,↗

を解く手掛かりとなるかもしれないが，十分な準備はなく今後の課題としておく．同書は，1983年から84年に行なわれた発掘調査で得られた大量の漢文文書群2200余件のうち極小断片をのぞく760余件を整理収録したものである．内容は公文書・私文書・仏教経典など多岐にわたる．河西地域はモンゴル時代の二大資料群である漢文文献・ペルシア語文献の光りが届かない影の部分であり，ここに大量の原文書群が出現した意義は計り知れないほど大きい．しかも黒城からは，西夏文・ウイグル文字モンゴル文・パスパ字・チベット文・ペルシア文・アラビア文など各種言語で記された文書も同時に出土している．[115] また同書下篇の各文書の録文に付された注記によれば，漢文文書にはウイグル文字あるいはパスパ文字のモンゴル文との合璧のものもあるらしい．（中）

◆ II 01, III 01, IV 01：mǫngke tngri-yin küčündür・／漢 II 01, 漢 III 01, 漢 IV 01：長生天的氣力裏, 長生天底氣力裏, 長生天氣力裏

この一句に関しては16頁を参照せよ．küčündür は第３截においても分ち書きされないし，1246年のローマ教皇宛てグユクの国書に捺された印璽でも KWYCWNTWR とやはり分ち書きされない形で出ている．[116] 1340年昆明筇竹寺雲南王蔵経碑では KWYCWN-TWR とみえている．[117] 分ち書きの有無が時代差を反映したものなのかは用例があまりに少なく現段階では不明である．なお，第２截と第３截には句末，文末に適宜句読点が付されるという特徴がみられる．本稿ではこれを「・」で示した．（松）

◆ II 03：sönvüs ／漢 II 02：宣撫司毎

モンゴル文面 SWYNβWS の最後の sin 文字は「司」の字を写したものではなく複数形 -s を表したものであり，訳は「宣撫たち」となる．漢文面の「毎」がこれに対応する．beth (β) と読んだ文字は yod 文字の先がやや斜め上にはねてお

↗ F116:W83, F116:W554, F26:W101, F74:W2, F116:W546, F116:W380, F116:W593, F116:W568, F116:W598, F116:W73, F116:W65, F116:W349, Y1:W117 など.

(115) 李 1986, pp. 94-95；李 1991, p. 5.

(116) Pelliot 1923, p. 22, pl. 2.

(117) Cleaves 1964 / 65, pp. 43-49；Kara 1964, p. 150；Ligeti 1972b, p. 59；包祥 1980, pp. 45-46；道布 1981, pp. 201, 203.

りyodと区別しようとする意図が読み取れる．宣撫司は中統元年（1260）５月乙未に設置され中統２年（1261）11月癸酉に廃止された十路宣撫司のこと[118]．発令文に宣撫司がみえるのは，1261年林県寶厳寺クビライ聖旨[119]，『至元辯偽録』巻２（p. 765a-b）所収の1261年クビライ聖旨[120]など例は少ないが，年代比定の材料となる重要な術語の一つである．（中）

◆ II 03-04, III 04-05：balaγad-un siltegedün daruγas-ta noyad-ta ／漢 II 02-03, 漢 III 03：城子裏村子裏達魯花赤毎根底官人毎根底

ダルガたち・ノヤンたちを修飾する語として balaγad-un ／城子裏 以外に siltegedün ／村子裏 が現れるのはクビライ時代の発令文の特徴であり，発令文の年次比定の材料となるものである．最も古いものは1260年安陽大上正一宮クビライ聖旨[121]であり，新しいものとしては1280年蔚県靈仙飛泉觀クビライ聖旨[122]が挙げられる．モンゴル文面に siltegedün がみえるのは，本碑第２截・第３截以外には1276年韓城龍門禹王廟マンガラ令旨碑[123]のみである．（中）

◆ II 06, III 08：irgen ／漢 II 04, 漢 III 04-05：民戸毎

発令対象者として irgen が記される例は極めて珍しく，蒙漢合璧碑では本碑の他，1314年安陽善應儲祥宮アユルバルワダ聖旨碑[124]にみえるのみである（漢訳は百姓毎）．（松）

◆ II 08, III 11：singsingüd／漢 II 06, 漢 III, 08：先生

モンゴル文は「先生」の音写で道士を意味する．「先」は n 音，「生」は ṅ 音でおわるのだが，本碑ウイグル文字モンゴル面では他の漢字音写の際，n 音と ṅ 音は明確に区別されているがここではどちらも ṅ 音で写されている．モンゴル語には n 音と ṅ 音との区別がないことから，singsing はすでにこの時点で漢語か

（118） 『元史』巻４・世祖本紀の各条, pp. 65-66, 76.
（119） 蔡 1955, p. 22.
（120） 蔡 1955, p. 104.
（121） 蔡 1955, p. 38；陳 1988, p. 855.
（122） 蔡 1955, p. 27.
（123） cf. 杉山 1990a, pp. 24-25.
（124） cf. 杉山 1990a, p. 26.

らの借用語という意識が薄れていたのではないだろうか．パスパ文字発令文で senšïṅüd (cf. IV 11-12) と正しく綴られるのは，パスパ文字それ自体に公的性格が強く行政文書用の創作文字であったことに由来するのであろう．(中)

◆ II 11：Šeülim čanglau ／漢 II 09：少林長老

š 音であることを指定する二点が sin 文字の右に，n 音を指定する一点が nun 文字の左にそれぞれ付される．II 11：壇の音写 dan-，II 12：聖の音写 Šing にもそれぞれ同様に識別符号が付される．すなわち，本截においては，初出の漢字の音写にはその音価を明確にするための識別符号が付される傾向が見受けられる．II 25 に再び現れる「少・長・壇」の音写に際しては付点はない．(松)

◆ II 12：Gim deng čanglau ／漢 II 09：金燈長老

少林長老福裕とともに道仏論争に関与した重要人物の一人である[125]が伝記資料は今のところ捜し出せていない．(中)

◆ II 12：tabun arani ／漢 II 10：五箇人

ここに対格が現れたのは，「五人」が従属節の主語であるためである[126]．III 15～(／漢 III 14～) と文の構造は一致する．(松)

◆ II 12-13, 24, III 30, 43, 44-45：Baγisba baγsi ／漢 II 11, 20, 漢 III 21, 29, 30：拔合思巴八合赤，拔合思巴八合失，拔合思把八合失

パスパの名は，トゥルファン出土の密教関係のウイグル語写本の352行目と355行目に P'XYSP' P'XSY (Paγïspa baxšï)と全く同じ形で現れている[127]．漢籍では逐字転写に近い系統 (八合斯巴・八合思八・八哈思巴・巴吉思八・拔合斯八など) と，g 音が写されない系統 (八思巴・八思馬・八思八・巴思巴・巴思八・發思巴など) とがある．チベット語の発音を忠実に写したのであればむしろ s 音が省略されるべきであるが，そのような形は存証されない．実録を基とした『元史』本紀には両系統，合計10例みられるが，時代順にみてみると，はじめの4例 (うち3例はパスパ生存中の記事) はすべて「八合思八」(pp. 68, 154, 228,

(125) 『至元辯偽録』巻3, pp. 769c, 770c, 巻4, 772a.

(126) cf. Poppe 1974, pp. 148-149.

(127) Kara & Zieme 1976, p. 46, Tafel XII.

249)，後の6例（すべて死亡後の記事）は「八思巴」(pp. 607, 611, 628, 650)「巴思八」(pp. 586, 804) となっている．なお本碑においてパスパは漢文面では5ヵ所すべてで抬頭されるが，モンゴル文面での抬頭はみられない．

陶宗儀『南村輟耕録』巻12・帝師の条（中華書局本, p. 154）には「巴思八帝師法號曰皇天下之下一人之上開教宣文輔治大聖至徳普覺眞智祐國如意大寶法王西天佛子大元帝師板的達巴思八八合失」とありパスパがバクシ（八合失）の称をともなってみえる．ただし『元史』巻202・釋老伝 (p. 4518) は同じパスパの称号に対して「開教」の2字とともに「板的達巴思八八合失 (paṇḍita 'Phags-pa baγsi)」の9字を欠く．paṇḍita はサンスクリット語で「智慧ある人」「聖人」の意でチベット語でも pandita とそのまま綴られる．モンゴル語の baγsi が，漢語「博士」を写したウイグル語の baxšï に由来することはラウファーが詳しく論じている[128]．元代の人々もこの語がもとは漢語の「博士」であったことは認識していたようである[129]．

モンゴル時代にバクシの称をもって呼ばれた人物は以下に示す通り．盩厔萬壽宮1235年7月初9日付けオゴデイ聖旨[130]ならびに『析津志輯佚』學校の条に「仙孔八合識李志常」とある李志常は，道教の一派全真教の道士である．『程雪樓集』巻8・秦國先墓碑（14葉a）に「八哈室」と呼ばれた大乗都はビシュバリクの人で，クビライの孫アナンダ Ananda の師であった．『元史』巻11・世祖本紀・至元18年（1281）3月丙申朔の条 (p. 230) に「丹八八合赤」，『通制条格』巻29・僧道・詞訟の条 (p. 623) にみえる「贍八八哈赤」は，サキャパンディタの弟子でパスパとともに至元7年（1270）に入朝した仏僧[131]．『元史』巻13・世祖本紀・至元22年（1285）是歳の条 (p. 283) には「帝師也憐八合失甲自羅二思八」とみえ

(128) Laufer 1916, pp. 565-567.

(129) 『程雪樓集』巻8・秦國先墓碑（14葉a）に「八哈室者，漢云博士也」とある．このほか熊夢祥『析津志輯佚』學校の条（北京図書館善本組輯，北京古籍出版社，1983, p. 199）には「八哈赤，師父之稱」，『佛祖歷代通載』巻22 (p. 734c)「北人之稱八哈石，猶漢人之稱師也」と説明される．

(130) 蔡 1955, p. 4；陳 1988, p. 446．これと山東玉清宮1235年7月初9日付けオゴデイ聖旨［陳 1988, p. 447；北京図書館金石組 1990 (50), p. 106］は同文．

(131) cf. 稲葉 1963；故宮博物館 1985；竺沙 1987；仁慶扎西 1989.

る．当時の帝師は第３代ダルマパーララクシタ Dharma pha' la rakshi ta であり，本条は「帝師・也憐八合失・甲自羅二思八」と３人の名前を並記したものであろう[132]．也憐八合失については未詳．『元史』巻99・兵志２・看守軍・至治元年（1321）４月の条（p. 2537）に「搠思吉斡節兒八哈失」，『元代畫塑記』至大3年（1310）正月21日の条（学術叢編所収本，8葉b）に「搠思哥斡節兒八哈失」とみえるチョーキオーセル Chos kyi 'od zer については関連資料は少なくないが詳細は不明である[133]．『佛祖歷代通載』巻22（p. 734b）にみえる「大都妙善寺比丘尼舍藍藍八哈石」は高昌出身の高僧で歴代皇后に仕えた[134]．『至正集』巻47・碑志4・勅賜故光祿大夫司徒釋源宗主洪公碑銘（四庫全集珍本８集，69葉b）にみえる「砂囉迦八哈失」については未詳．チベット年代記『紅史』カルマ派の章（民族出版社 1981, p. 87）に伝があるカルマパクシ Karma pakshi はカルマ派初祖トゥスムキェンパ Dus gsum mkhyen pa の転生者として同派２代活仏とされた高僧．以上のように漢人で道士であった李志常を除くと，バクシと呼ばれた人物はすべて非漢人の高位の仏僧（男女を問わない）である．パスパは当時国師の地位にありバクシの称はそれを意味すると思われる．マルコポーロは，上都にいる各種の妖術に長けた仏僧がバクシと呼ばれており，また彼らがチベットとかケスムール（カシミール）とか称せられていたと伝える[135]．（中）

◆II 13：toyid ／漢 II 11：和尚

本碑では語末の aleph, nun, kaph, taw の各文字は真っすぐ下にはらわれるが，唯一この箇所だけは taw 文字が珍しく右にはらわれる．（松）

◆II 15：YRWK'R ／漢 II 14：祝壽

resh 文字 の前には yod が一つあるのみである．'YRWK'R = irüger あるいは YYRWK'R＝yirüger の誤刻と見做す（cf. II 10, III 13, 18：irüger）．（松）

◆II 16-17：bariju yabuayi ǰrlγ ／漢 II 14-15：把着行踏的聖旨

Y'PWX'Y ＝ yabuγai（cf. III 19）が期待される個所であるが虚心に読むと

(132) cf. 稲葉 1965, p. 120.
(133) cf. Cleaves 1954；福田 1986, pp. 73-76；Cleaves 1988.
(134) cf. 藤島 1963.
(135) 愛宕 1970, pp. 172-175.

Y'PW'YY = yabuayi である．yabuγai の誤刻と見做すには，yod を aleph に読みかえその上さらに aleph を補わねばならずやや無理がある．当時の口語のモンゴル語を反映したと言われるパスパ字では普通 yabu'ayi (cf. IV 20) と表記され，両者は一致した形となる．口語の影響がウイグル文字表記に現れたとの解釈もできようが，なぜこのような正書法上の「ゆれ」がここにのみ生じたのかは依然として説明がつかない．

-γai / -gei は先古典期モンゴル語文献にのみ現れる形動詞であり，その意味の決定には文脈，およびチベット語・ウイグル語など他言語の並行する文脈との比較が必要となる[136]．チベット文・直訳体白話風漢文合璧のヘビの年(1341 or 1353 or 1365) 3 月23日付け山東靈巖寺大元國師法旨碑[137]では「保持すべき文書 'dzin rgyu'i yi ge ／執把行的法旨」とあり，中央チベットのシャルゥ Zha lu 寺に出されたチベット文の発令文原文書，いわゆるシャルゥ文書[138]でも同じ表現がなされる．またトゥルファン出土ウイグル文字トルコ語文書をみると，10～11世紀のものと考えられる TIII M 205c (U5319) では「保持すべき文書 tuta turγu bitig」，13世紀前後のものと考えられるヒツジの年12月28日付け TIII M 205 (U5327)＝USp 88 では「保持すべき詔書 tuta turγu bitig yrlγ」とある[139]．さらにティムル＝クトルク Timür qutlγ の聖旨 yrlγ[140]や，ジョチ＝ウルスのトクタミシュ Toqtamïš 1392 / 93年発令のウイグル文字トルコ語文書[141]でも同様の表現が用いられる．そこでこれらを根拠としてこの部分を「保持すべきおおせ」と，ポッペとほぼ同じ訳を与えることとした．モンゴル語の yabu- は字義どおりには「行く」とか「やっていく」という意味の動詞語幹である．(松)

◆ II 18-19, III 22：qan-u sang amu, q-anu sang amu ／漢 II 16, 漢 III 16：倉粮

(136) cf. Poppe 1957, pp. 40-41, 86.

(137) Chavannes 1908, pp. 418-421, pl. 28, pl. 29 (Lévi, S. による移録)；寺本 1931；蔡 1955, p. 52；王堯 1981；常 1984；北京図書館 1990 (50), p. 143；京大 1990, 図27, p. 25.

(138) Tucci 1949, pp. 670-706.

(139) Zieme 1981, pp. 254-258, pl. 22, pp. 243-253, pl. 20-21；森安 1991, pp. 134-136.

(140) Lewicki 1937, p. 19.

(141) Оболенский 1850.

『元朝秘史』249節（続巻1, 9葉b1）には 中合 qa（傍訳は係官）と，nが脱落した形で現れる．第3截では不規則な綴りとなっているが，1348年カラコルムのウイグル文字モンゴル文碑でもq-anとやはり同じ不規則な分ち書きで現れている．[142] 次第に，皇帝を意味するqanと語形上区別されるようになったのであろうか．（松）

sang は漢語「倉」に由来する．モンゴル時代のモンゴル文では，同じ「倉」の音写形がウイグル文字ではsang，パスパ文字ではcaṅで現れるという特徴が指摘できる．ウイグル文字の例は，戊寅至元4年（1338）5月立石，漢文・ウイグル文字モンゴル文合璧，大元敕賜故諸色人匠府達魯花赤竹公神道碑銘，[143] トゥルファン出土ウイグル文字モンゴル文『入菩提行疏』（1312年印刻）[144] などが挙げられ，意味はすべて「くら」である．一方，パスパ文字の例は，1280年付けパスパ文字モンゴル文・漢文合璧盌屋萬壽宮クビライ聖旨[145] に同じ文脈で qa-nu caṅ amu ／官粮と見えるほか，トゥルファン出土パスパ文字モンゴル文『スバシドSubhāšitaratnanidh』[146] には「くら」の意味で現れている．また，パスパ字発令文では次註に示すように地税を表すのにやはり「倉」の音写caṅを用いる．（中）

◆ II 20, III 11, 24；sui tamγa ／漢 II 17, 漢 III 08, 17：地税商税

第2截(1261年)では免除が許された地税・商税は，第3截（1268年）では課税されている．これは『元史』巻5・世祖本紀・至元元年（1264）正月癸卯の条(p. 95)「儒・釋・道・也里可温・達失蠻等の戸は，舊は租税を免ずるも，今は並びにこれを徴す」とあるのに一致する．モンゴル時代の税体系はいまだ十分には解明されておらず，また筆者の能力をこえるので詳しくは扱わない．18頁で述べたように，地税が漢語「税」の音写suiで現れるのは本碑のみであり，他の全ての発令文においては漢語「倉」の音写caṅで現れる．なぜ地税を表す術語としてsuiが捨てられcaṅが採用されたのか，積極的理由は見出せない．第2

(142) Radloff 1892.
(143) Cleaves 1951a, pp. 21, 54, 68；Ligeti 1970, pp. 52-53.
(144) Cleaves 1954, pp. 43-44, 73-74；Ligeti 1972b, pp. 115-116.
(145) cf. 杉山 1990a, p. 25.
(146) Ligeti 1972a, p. 102.

截は tamγa／商税 の初出の例でもある．（中）

◆ II 21：qulus-un ／漢 II 18：竹葦

発令文で普通に見られる qulud の単数形（cf. III 25：qulud ／漢 III 18）．qulud 自体は漢語「葫蘆」の音写 qulu(n) の複数形と考えられる[147]．つまり発令文にみえる qulud はモンゴル語ではすでに qulun の複数形という意識がなくなっており，機械的にその単数形が作られたと考えられまいか（葫蘆 → qulun → qulud → qulusun）．s 音はウイグル文字 zain の字形で現れ，その直後が分ち書きされており，ウイグル語の正書法を受け継いでおり興味深い．第 4 截では漢文面に「竹葦」（漢 IV 23）とあるのに，モンゴル文面には対応する単語はない．（中）

◆ II 22：tegirmed baγ ／漢 II 18：園林碾磨

モンゴル文と漢文との語順が異なる．（中）

◆ II 23, III 28：buu 'WPDWX'Y ／漢 II 19, III 19：休要者；休～要者

両截ともにモンゴル文の綴り，対応する漢訳が同じであり，モンゴル文面の単語は同一の語句であるように思われるが，第 2 截では buu 'WYKDWK'Y = ögtügei（III 28 ／漢 III 19：休與者）が，第 3 截では buu ''PDWX'Y =abtuγai がそれぞれ文脈上より期待される個所である．語中の kaph 文字が pe の字形で現れる例は65～66頁ですでに述べた．第 2 截の場合，pe を kaph に置き換えれば ogtuγai となり ögtügei に近付くが，後舌形の単語であることを示す heth が存在する．第 1 音節が後舌形を示していることに着目し，それに呼応して -tuγai が現れたと解釈し ögtügei の後舌形 ogtugai を想定すれば第 2 截は一応解決する．一方，第 3 截の文脈に ögtügei が現れる例はなく意味もなさない．第 3 截については単純に abtuγai の誤刻とするか，さもなくば当時 'WPDWX'Y が ogtuγai とも abtuγai とも読めたとでも仮定しなければ説明がつかない．ここで漢文面を見ると両截とも ab- に対応する権力者側の収奪行為を示す「要」が用いられている．第 2 截の場合，文脈上から言っても ög- に対応して，寺観側の納税行為を示す「與·着·納」といった漢語が用いられるべき箇所である．すなわち，漢訳者

(147) cf. Lessing 1982, p. 984b.

は確かに 'WPDWX'Y を2箇所とも abtuγai と読んだのである．ただし，第2截においても21行目には ögtügei と「正しい」綴りで出ている個所もあり 'WPDWX'Y を ögtügei の後舌形とするのも，またそれが abtuγai とも読めたとするのも，他に類例がない以上どちらも現段階では試案に過ぎない．（中）

◆ II 25：PWβ- ／漢 II：ナシ

「寶」の音写であるが前出 II 11：P'β と綴りが異なる．（中）

◆ II 30：-luγ̄a

heth 文字には γ 音を示す2点が左に付される．II 29, III 35, 37 では付点はみられず，また heth と aleph は分ち書きされている．（松）

◆ II 36, III 43：ǰiγaturγai ／漢 II 28, 漢 III 29：奏説者, 説者

18頁も参照のこと．第3截漢訳では「奏」の字がないが，第2截は「示す」対象がモンゴル為政者であり，第3截は国師とはいえ皇族ではない一僧侶パスパであることに起因するのであろう．漢文面では「俺毎」が2字抬頭されるのに対して，パスパは1字の抬頭であり，漢文面内部には整然とした秩序が存在し，神経質なまでにそれを表現しようとする意志が見える．（中）

◆ II 37：bida uqad ǰ-e ／漢 II 29：俺毎識也者

発令文末尾の威嚇表現の一つ．蒙漢合璧碑では，前出の1280年盩厔萬壽宮クビライ聖旨，1314年盩厔萬壽宮アユルバルワダ聖旨の2例が確認される．対応する漢訳はそれぞれ「俺毎識也者」「咱毎識也者」．別稿にて詳論したい．（松）

◆ II 38：taqiγu ǰil ／漢 II 32：鶏兒年

taqiγu はウイグル語 taqïγu である．本来のモンゴル語は takiya(n)．なぜここにウイグル語が現れたのかをうまく説明することはできないが，ウイグル語表記が散見される本碑にあってまた一つ注目される事例である．ラシード『集史』は十二支をモンゴル語ではなくウイグル語で表し，かつ「年」もモンゴル語 ǰil ではなくウイグル語の yïl を写した yīl で表す．ǰil も yïl もウイグル文字表記は同じである．ここもウイグル語でそのまま taqïγu yïl とも読めるのである．（松）

◆ II 39：Keibingvü ／漢 II 32：開平府

開平府（のちの上都）の築城，命名の年代に関する諸文献の記載[148]は混乱しているが，岩井氏は諸史料を比較検討し，丙辰年（1256）3月に起工し，全て滞りなく完成するまで3年を要したと考えた[149]．『元史』巻58・地理志1・上都路の条(pp. 1349-50）には中統元年（1260）に開平府としたとあるが，これを命名の記事と捉えてはならない．城郭を持った一都市が何年もの間無名であったのは誠に不自然である．創建開平府祭告濟瀆記碑[150]は，丙辰年（1256）7月の年次を有し，クビライが「皇太弟忽必烈」として現れていることからもモンケ時代のものに間違いなく，碑の存在自体がモンケ時代にすでに開平府と呼ばれていたことを示している．同じく地理志には憲宗5年（1255）にモンケが開平府の地をクビライの居所とした様に記されるが，『元史』巻4・世祖本紀・歳壬子（1252年）の条（p. 58）に「帝（クビライ）は桓・撫の間に駐す」とあるように，すでに1252年には開平府が築城される一帯にオルド（幕営）を置いていたと考えられる[151]．（中）

◆III 02, IV 02：yeke suu ǰali-yin ibegen-dür ／漢 III 02, 漢 IV 02：大福蔭護助裏

16～17頁を参照のこと．

◆III 10：Qaγan ／漢 III 08：合罕皇帝

19～20頁参照のこと．

◆漢 III 14：與寺

「寺に與えて」では文脈上意味が通らず，一応「與」は「擧」の誤刻と見做しておく．但し，これに対応するモンゴル語原文はない．（中）

◆III 15, 18-19, 30-31, 32, 41：Šuui čanglau (tiling) ／漢 III 11, 14, 21, 22, 27：肅長老（提領）

肅は『蒙古字韻』では sü,[152] 至治ブタの年（至治3年癸亥，1323年）7月23日の

(148) 『元史』巻4・世祖本紀・歳丙辰（1256年）春3月の条, p. 60,『元史』巻58・地理志1・上都路の条, pp. 1349-50,『元史』巻157・劉秉忠伝, pp. 3693-3694,『佛祖統記』（『大正新修大蔵経』No. 2035）巻48・法運通塞志17の5, p. 433c.

(149) 岩井 1922, pp. 114-115.

(150) 北京図書館金石組 1990 (48), p. 19.

(151) cf. 杉山 1984, pp. 490-491.

(152) 照那斯図・楊 1987, p. 71, 上30a.

記年を持つ敦煌144窟トゥレクトグス Tüleg tögüs 題記では sügと[153]，どちらも前舌系で表されている．本截でSWWYと綴られるのはsü (SWY) の長母音を表すためであろうか．

粛長老提領は裕公碑碑陰の宗派図にみえる福裕の嗣法居士の一人「宣授河南兩路釋教都提領足庵肅禪師」のこと．彼には粛公禪師道行碑が，やはり五岳の一つに数えられる東岳泰山にある霊巌寺に存在する[154]．道行碑に，足庵粛長老は少林寺に住持が居なくなった際，宣授河南府僧尼都提領として少林寺に赴いたとある．(中)

◆ III 43：'''Y ／漢 III 29：怎生

モンゴル文面はqaiまたはaniとよめる．qaiは『元朝秘史』197節（巻7, 47葉b 3）に 𠯿孩（傍訳は不知）と発語の辞として1ヵ所在証されるが，ここでは三人称複数を表す代名詞 an- の対格形である．(松)

◆ III 47：Köke aγula ／漢 III 33：青山兒

『廟學典禮』(四庫全書珍本初集本, 巻1, 2葉 a-b；元代史料叢刊本, pp. 10-11) 所収のヒツジの年（至元8年, 1271）2月26日付けクビライ聖旨の発令地「青山子」は同じ地を記したものであろう[155]．その位置は不明．(中)

◆ IV 17-18：Kuṅ-zeṅ-zï Baw-'in-zï Teṅ-kiṅ-zï Ki-mo-zï ／漢 IV 16-17：空相禪寺 寶應禪寺 天慶禪寺 維摩禪寺

パスパ文字面ではすべて「禪」の字が省かれる．裕公碑碑陰の宗派図にはこのうち空相寺・寶應寺・天慶寺の名を冠した僧がみえる．これらの4寺は少林寺と同じく河南の曹洞宗の寺であろう．そして嵩山祖庭大少林寺はそれらのトップに位置付けられていたと考えられる．(中)

---

(153) 敦煌研究院考古研究所・内蒙古師範大学蒙文系 1990, p. 11, pl. 6.

(154) 常盤・関野 1976, pp. 13-15, pl. VII-9 (1)；北京図書館金石組1990 (48), pp. 128-129；『泰山志』(京都大学桑原文庫本) 巻18, 31b-33b.

(155) cf. 杉山 1991c.

(7) 語註索引

'dzin rgyu'i yi ge 76
'WPDWX'Y 78
'YLYB' 66
abtuγai 78
aliba 66
aman ǰrlγ 63
ani 81
ba 65
Baγisba baγsi 73
bariǰu yabuayi ǰrlγ 75
bida 65, 69
bida uqad ǰ-e 79
Buk-a 62
čimayi 65
delgebei 70
Du singsing 65
duγulγa- 64
Gim deng čanglau 73
irgen 72
irüger 75
J̌auqud 66
ǰiγatuγai 79
ǰrlγ 64, 76
See also aman ǰrlγ
Keibingvü 79
Köke aγula 81
mǫngke tngri-yin küčündür 71
M'RTKW 67
mede- 67
medel- 70
Mǫngke qan 63
nereyid- 69
ögtügei 78
qaγan 63
qan 63
qan-u sang amu 76
Qar-a qorum 69
qoyaγula 62
qulus-un 78
sang 77
siltegedün 72
singsingüd 72
sönvüs 71
sui tamγa 77
Šagimuni 70
Šeülim čanglau 64, 73
Šuui čanglau 80
taqi 67
taqiγu ǰil 79
tngri 64
Töbün 68
toyid 75
Turuγtai 62
tuta turγu bitig yrlγ 76
ügüleǰü ögtügei 64
ülü- 69
uqad ǰ-e 79
yaγun kereg 70
yeke suu ǰali-yin ibegen-dür 80
YRWK'R 75

(8) 少林寺聖旨碑にウイグル文字・パスパ文字で現れた漢字の一覧

	漢字	第1截・第2截・第3截（ウイグル文字）			パスパ文字（含第4截）	
		翻字	転写	出現箇所（截-行）	転写	出典
アン	安	''N	an	II 12	'an	中 08 I 004
アン	庵	''M-	am-	II 11	'am	蒙（下）22a
イ	維				ki	少 IV 18
オウ	應				'iṅ	少 IV 18
カ	河	X'-	qa-	III 15	γo	少 IV 17
					γo	中 12 II 019
カイ	解	K'Y-	gei-	II 22, III 26	fay	蒙（上）33b
					gey	少 IV 24
カイ	開	K'Y-	kei-	II 39	kay	蒙（上）31a
カン	監				gem	少 IV 19
キ	姬	KWY	gü	II 11	gi	中 04 I 001
キン	金	KYM	gim	II 12	gim	中 17 I 002
クウ	空				kuṅ	少 IV 17
ケイ	慶				kiṅ	少 IV 18
コ	庫	-KWW	-küü	II 22, III 26	ku	少 IV 25
サン	山				šan	少 IV 17
ジ	寺				zï	少 IV 17, 18 (×4), 19
シュ	主	-CW	-ǰu	II 11 (×2), 25, 34	ǰü	中 05 IV 053
シュク	肅	SWWY	šuui (šüü)	III 15, 18, 30, 32, 41	sü	蒙（上）30a
ショウ	少	Š'W-	šeü-	I 02, II 11	šew	少 IV 17
		Š'W-	šeü-	II 15, 25, 34	šiu̯	中 11 VI 126
ショウ	省	-SYNK	-sing	I 03, 06, 07, 08, 12	šiṅ	中 15 III 057 : 059
ショウ	相				zeṅ	少 IV 18
シン	聖	ŠYNK	šing	II 12		
スウ	嵩				züṅ	少 IV 17
セキ	積	-SW	-su	II 11, 25	ʒi	蒙（上）20b
					ʒï	蒙（上）22b
セン	宣	SWYN-	-sün	II 03	su̯en	中 10 I 018
ゼン	禪				šen	少 IV 17
ソ	祖				ʒu	少 IV 17
ソウ	僧	SYNK-	-sing	I 03, 06, 07, 08, 12	sï	蒙（上）13a
ダイ	大				tay	少 IV 31

ダン	壇	T'N-	tan-	II 11	tạn	蒙（下）6a
		T'N-	tan-	II 25, 34		
チョウ	長	C'NK-	čang-	II 11	ǰaṅ	少 IV 19
		C'NK-	čang-	I 02, 07, 08, II 12 (×2), 15, 25, III 15, 19, 31, 32, 41	čaṅ *or* ǰaṅ	中 02 II 039, III 068
テイ	提	TY-	ti-	III 16, 19, 31, 32, 41	ṭi	少 IV 19
					ṭi	中 04 II 039
テイ	庭				ṭiṅ	少 IV 17
テン	天				tėn	少 IV 18
テン	典	-T'N-	-den-	II 22	dėn	少 IV 24
		-DYN-	-din-	III 26	den	中 10 III 057
テン	點				dėm	少 IV 19
ト	都	TW	du	I 03, 05, 07, 08, 11	du	少 IV 31
					du	中 05 I 021
トウ	燈	T'NK	deng	II 12	dïṅ	蒙（上）12b
ナン	南	-N'M-	-nam-	III 15	nam	少 IV 17
					n'an	中 18 II 018
フ	府	-PWW	-buu	III 15	fu	少 IV 17
		-βW	-vü	II 39	fu	中 05 IV 069
ブ	撫	-βW-	-vü	II 03	fu	中 05 IV 069
ヘイ	平	-PYNK-	-bing-	II 39	biṅ	中 15 II 029
ホウ	寶	P'β-	-bav	II 11	baw	少 IV 18
		PWY-	boi-	II 25	baụ	中 11 IV 069
マ	摩				mo	少 IV 18
リョウ	領	-LYNK	-ling	III 16, 19, 31, 32, 41	li	中 15 III 066
リン	林	-LYM	-lim	I 02, II 11, 15, 25, 34	lim	少 IV 17
					lim	中 17 II 013
ロウ	老	-L'W	-lau	II 02, 07, 08, II 11, 12	law	少 IV 19
				II 12, 15, 25, III 15, 19, 31, 32, 41	laụ	中 11 IV 072

略号：

少：少林寺聖旨碑

中：鴛淵一　「「中原音韻」中にパスパ文字にて写されたる漢字音について」『小川博士還暦祝賀史学地理学論叢』弘文堂, 1930, pp. 601-641.

蒙：照那斯図・楊耐思　『蒙古字韻校本』民族出版社, 1987.

参照文献リスト

石田　幹之助

1930 「蒙古文字の起源と沿革」『東亜』3-12, pp. 84-92.（再録：『石田幹之助著作集 第三巻　東洋学雑鈔』, 六興出版, 東京, pp. 16-28）

稲葉　正就

1965 「元の帝師に関する研究 — 系統と年次を中心として —」『大谷大学研究年報』17, pp. 81-155.

稲葉　正枝

1963 「元のラマ僧膽巴について」『印度学仏教学研究』11-1, pp. 180-182.

岩井(圀下)　大慧

1921 / 22 「元初に於ける帝室と禅僧との関係について (上) (下)」『東洋学報』11-4 / 12-1, pp. 87-117 / 89-124 / 99-103.

海老沢　哲雄

1976 「『元典章』の聖旨に関する一問題」『木村正雄先生退官記念東洋史論集』汲古書院, 東京, 1976, pp. 209-222.

大藪　正哉

1971 「元の大禧宗禋院について」同著『元代の法制と宗教』秀英出版, 東京, 1983, pp. 127-142.（原載：『社会文化史学』7, 1971）

岡田　英弘

1962 「蒙古史料に見える初期の蒙蔵関係」『東方学』23, pp. 95-108.

岡本　敬二

1964 / 75 / 76　同編『通制条格の研究訳註』全３冊, 国書刊行会, 東京.

長田　夏樹

1952 「十二世紀に於ける蒙古諸部族の言語 — Mongolo-Turcica II —」『東方学』5, pp. 42-55.

小澤　重男

1979 『中世蒙古語諸形態の研究』開明書院, 東京.

1984 / 85 / 86 『元朝秘史全釈』全３巻, 風間書房, 東京.

1987 / 88 / 89 『元朝秘史全釈続攷』全３巻, 風間書房, 東京.

愛宕　松男

1970 / 71 同訳註『マルコ・ポーロ 東方見聞録』全２巻, 平凡社, 東京.

1990 「乞軍名義考」同著『東洋史学論集』第３巻, 三一書房, 東京, pp. 263-282.

京都大学文学部博物館

1990 『平成２年春季企画展「中国石刻拓本展」出品図録』

窪　徳忠

1992 『モンゴル朝の道教と仏教 — 二教の論争を中心に —』平河出版社, 東京.

庄垣内　正弘
1990「モンゴル語仏典中のウイグル語仏教用語について」『アジアの言語と一般言語学』東京, pp. 157-174.
杉山　正明
1984「クビライと大都」梅原郁編『中国近世の都市と文化』同朋舎, 京都, pp. 485-518.
1987「西暦1314年前後大元ウルス西境をめぐる小札記」『西アジア研究』27, pp. 24-56.
1990a「元代蒙漢合璧命令文の研究 (1)」『内陸アジア言語の研究』5, pp. 1-31 + 2 pls.
1990b「草堂寺闍端太子令旨碑の訳註」『史窓』47, pp. 87-106 + 2 pls.
1991a「東西文献によるコデン王家の系譜」『史窓』48, pp. 181-202 + 3 pls.
1991b「元代蒙漢合璧命令文の研究 (2)」『内陸アジア言語の研究』6, pp. 35-55 + 2 pls.
1991c「西夏人儒者高智耀の実像」河内良弘編『清朝治下の民族問題と国際関係』(平成２年度科学研究費補助金　総合研究 (A) 研究成果報告書), pp. 71-82.
高橋　文治
1991「太宗オゴデイ癸巳年皇帝聖旨訳註」『追手門学院大学文学部紀要』25, pp. 422-405.
竺沙　雅章
1987「帝師膽巴碑」『中国書道全集』第６巻 (宋II・金・元), 平凡社, 東京, pp. 193-194.
寺本　婉雅
1931「大元国師霊巖寺蔵漢対照碑文」『宗教研究』新8-1, pp. 117-125.
常盤　大定
1928「日本僧邵元の撰文せる嵩山少林寺の碑」『東洋学報』17-2, pp. 86-110.
1947『支那佛教史蹟踏査記』龍吟社, 東京, 1938.
常盤　大定・関野　貞
1974 / 75 / 76『中国文化史蹟』上 / 中 / 下, 法蔵館, 京都.
礪波　護
1987「嵩岳少林寺碑考」川勝義雄・礪波護編『中国貴族制社会の研究』同朋舎, 京都, pp. 717-755.
那珂　通世
1907『成吉思汗實録』筑摩書房, 東京.
野上　俊静
1943「元代道・仏二教の確執」『大谷大学研究年報』2, pp. 213-275.（再録：同著『元史釈老伝の研究』野上俊静博士頌寿記念刊行会, 1978, pp. 142-202）
服部　四郎
1939「蒙古語文語の起源について」『言語研究』3, pp. 1-27.（再録：『服部四郎論文集第一巻　アルタイ諸言語の研究 I 』三省堂, 東京, pp. 125-157）
1941「蒙古語の口語と文語」『蒙古学報』2, pp. 134-191.(再録：『服部四郎論文集 第

一巻　アルタイ諸言語の研究Ⅰ』三省堂, 東京, pp. 355-404)
1984 「パクパ字 (八思巴字) について — 特にeの字とėの字に関して — (二)」『言語』13-8, pp. 116-121.
福田　洋一
1986 福田洋一・石濱裕美子共著『西蔵仏教宗義研究 第4巻 — トゥカン『一切宗義』モンゴルの章 —』東洋文庫, 東京.
藤島　建樹
1963 「元朝崇仏の一面」『印度学仏教学研究』11-1, pp. 247-250.
村上　正二
1975 同抄訳「古代モンゴルの都城カラコルム(1)」『遊牧社会史探究』48, pp. 1-21.
村山　七郎
1961 「華夷訳語と元朝秘史との成立の先後に関する問題の解決」『東方学』22, pp. 130-115 (逆頁).
護　雅夫
1964 同訳『中央アジア・蒙古旅行記』桃源社, 東京. (再版, 1989)
森安　孝夫
1987 「中央アジア史の中のチベット — 吐蕃の世界史的位置付けに向けての展望 —」長野泰彦・立川武蔵編『チベットの言語と文化』冬樹社, 東京, pp. 44-68.
1991 『ウイグル＝マニ教史の研究』(大阪大学文学部紀要第31·32巻合併号).
箭内　亙
1916 「元代社会の三階級」『満鮮地理歴史研究報告』3, pp. 409-522. (再録：同著『蒙古史研究』刀江書院, 東京, 1930, pp. 263-360)
吉田　豊
1988 「カラバルガスン碑文のソグド語版について」『西南アジア研究』28, pp. 24-52.
鷲尾　順敬
1932 同監修『菩提達磨嵩山史蹟大観』三寶書院, 東京. (rep. 1981)
包祥
1980 「一三四〇年昆明蒙文碑銘再釈読」『民族語文』1980-4, pp. 43-51.
北京図書館金石組
1990 同編『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編』第48冊－第50冊, 中州古籍出版社, 鄭州.
蔡　美彪
1955 『元代白話碑集録』科学出版社, 北京.
1983 「乣与乣軍之演変」『元史論叢』2, pp. 1-22.
常　風玄
1984 「元代法旨碑四種」『中国民族関係史研究』中国社会科学出版社, 北京, pp. 501-524.
陳　得芝
1983 「元外剌部《釋迦院碑》札記」『元史論叢』2, pp. 251-260.

陳　垣
1988　同編 / 陳智超・曽慶瑛校補『道家金石略』文物出版社, 北京.
道布
1981　「回鶻式蒙古文《雲南王蔵経碑》考釈」『中国社会科学』1981-3, pp. 199-210.
敦煌研究院考古研究所・内蒙古師範大学蒙文系
1990　「敦煌石窟回鶻蒙文題記考察報告」『敦煌研究』4, pp. 1-19 + 30 pls.
故宮博物院
1985　同編『中国書蹟大観』第 1 巻, 故宮博物院(上), 講談社・文物出版社, 東京・北京.
哈斯額爾敦・巴音巴特爾・嘎日迪
1992　「榆林窟第12窟道爾吉題記釋讀」『敦煌研究』1992-2, pp. 5-7.
胡　斯振・白　翠琴
1985　「1257年釈迦院碑行釈」『蒙古史研究』1985-1, pp. 11-20.
李　逸友
1986　「内蒙古元代城址概説」『内蒙古文物考古』1986-4, pp. 87-107.
1991　編著『黒城出土文書(漢文文書巻)』(内蒙古額済納旗黒城考古報告之一), 科学出版社, 北京.
龍　潜庵
1985　『宋元語言詞典』上海辞書出版社, 上海.
仁慶扎西
1989　「胆巴碑与胆巴」『仁慶扎西蔵学研究文集』天津古籍出版社, 天津, pp. 112-124.
史　金波
1988　『西夏仏教史略』寧夏人民出版社, 銀川.
王　堯
1978　「西夏黒水橋碑考補」『中央民族学院学報』1978-1, pp. 51-63.
1981　「山東長清大霊寺大元国師法旨碑考釈」『文物』1981-1, pp. 45-50.
照那斯図
1982　「南華寺蔵元代八思巴字蒙古語聖旨的復原与考釈」『中国語言学報』1, pp. 221-232.(附録：常風玄「蔵文公哥羅古羅思監蔵班蔵卜帝師法旨訳文」p. 230)
1990/91　『八思巴字和蒙古語文献』I(研究文集) / II(文献匯集), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
照那斯図・楊　耐思
1987　『蒙古字韻校本』民族出版社, 北京.

Bosson, J.
1985　"It's Springtime for 'Phags-pa !" *Altaistic Studies* (Papers at the 25th Meeting of the PIAC at Uppsala June 7-11 1982), Stockholm, pp. 15-19.
Boyle, J. A.
1971　*The Successors of Genghis Khan*. Columbia Univ.

Chavannes, Éd.

1904 / 05 / 08 "Inscriptions et pièces de chancellerie chinoises de l'époque mongole." *TP* sér. 2-5, pp. 357-477 ; 2-6, pp. 1-42 ; 2-9, pp. 297-428 + 30 pls.

Clauson, G.

1972 *An Etymological Dictionary of Pre-Thirteenth-Century Turkish.* Oxford.

Cleaves, F. W.

1949 "The Sino-Mongolian Inscription of 1362 in Memory of Prince Hindu." *HJAS* 12 , pp. 1-133 + 27 pls.

1951a "The Sino-Mongolian Inscription of 1338 in Memory of Jigüntei." *HJAS* 14-1/ 2 , pp. 1-104 + 32 pls.

1951b "A Chancellery Practice of the Mongols in the 13th and 14th Century." *HJAS* 14-3 / 4, pp. 493-526.

1953 "The Mongolian Documents in the Musée de Téhéran." *HJAS* 16, pp. 1-107 + 2 pls.

1954 "The Bodistw-a čari-a Awatar-un Tayilbur of 1312 by Čosgi Odsir." *HJAS* 17, pp. 1-129 + 24 pls.

1964 / 65 "The Lingji of Aruγ of 1340." *HJAS* 25, pp. 31-79 + 1 pl.

1988 "Another Chinese Source for a Biography of Chos·kyi 'Od·zer." *UAJ* 8, 1988, pp. 153-163.

Gabain, A. von

1974 *Alttürkische Grammatik*, 3 ed. Wiesbaden.

Григорьев, А. П.

1978 *Монгольская дипломатика XIII-XV вв. (чингизидские жалованные грамоты).* Ленинград.

Haenisch, E.

1940 *Steuergerechtsame der chinesischen Klöster unter der Mongolenherrschaft.* Leipzig. (Berichte über dir Verhandlungen der Sächsischen Akademie der Wissenschaften zu Leipzig. Philologisch-historische Klasse 92. Band. 1940. 2. Heft).

Hambis, L.

1962 "La lettre mongole du gouverneur de Karak." *AOH* 15, pp. 143-146.

Hattori, S.

1989 "The ḥP'ags-pa Letter e and ė Represent One and the Same Mongolian Vowel." In: *Gedanke und Wirkung. Festschrift zum 90. Geburtstag von Nikolaus Poppe.* Wiesbaden, pp. 146-151. (AF 108)

Herrman, G. & G. Doerfer.

1975a "Ein persisch-mongolischer Erlaß des Ğalāyeriden Šeyḫ Oveys." *CAJ* 19-1 / 2, pp. 1-84 + 4 pls.

1975b "Ein persisch-mongolischer Erlaß aus dem Jahr 725 / 1325." *ZDMG* 125-2, pp. 317-346 + 7 pls.

Kara, G.

1964 "L'inscription mongole d'Aruγ, prince de Yün-nan (1340)." *AOH* 17, pp. 145-173 - 5 pls.

(Кара, Д.)

1972 *Книги монгольских кочевников.* Москва.

1981 "Уйгуро-монгольские литературные связи." *Литературные связи монголии,* Москва, pp. 51-62.

Kara, G. & P. Zieme

1976 *Fragmente tantrischer Werke in uigurischer Übersetzung.* Berlin. (BTT VII)

Kotwicz, W.

1934 "Formules initiales des documents mongols aux XIII[e] et XIV[e] ss." *RO* 10, pp. 131-157.

Laufer, B.

1916 "Loan-Words in Tibetan." *TP* 17, pp. 403-552.

Lessing, F. D.

1982 *Mongolian–English Dictionary,* (corrected re-printing). Bloomington.

Lewicki, M.

1937 *Les inscriptions mongoles inédites en écriture carrée.* Wilno. (Collectanea Orientalia, Nr. 12).

Ligeti, L.

1970 / 72c *Monuments préclassiques. 1. XIII[e] et XVI[e] siècles.* Budapest. (Indices Verborum Linguae Mongolicae Monumentis Traditorum I (1970), II (1972)).

1972a *Monuments préclassiques. 1. XIII[e] et XVI[e] siècles.* Budapest. (Monumenta Linguae Mongolicae Collecta II).

1972b *Monuments en écriture 'Phags-pa. Pièces de chancellerie en transcription chinoise.* Budapest. (Monumenta Linguae Mongolicae Collecta III).

Mostaert, A. & F. W. Cleaves

1952 "Trois documents mongols des Archives Secrètes Vaticanes." *HJAS* 15, pp. 419 - 506 + 8 pls.

Оболенский, М. А.

1850 "Хана зрлртрй орды Тохтамыша кь польскому королю ягайлу 1392–1393 года." Казан, pp. 1-72.

Pelliot, P.

1913 "Les plus anciens monuments de l'écriture arabe en Chine." *JA* 1913, Juillet-Août, pp. 177-191.

1923 "Les Mongols et la Papauté." *Revue de l'Orient Chrétien* 3[e] Série, T. III (XXIII), N[os] 1 et 2 (1922–1923), pp. 3-30 + 2 pls.

1963 *Notes on Marco Polo.* Paris.

Poppe, N. N.

1957 *The Mongolian Monuments in ḥP'ags-pa Script.* Second Editon translated and edited by John R. Krueger. Wiesbaden. (Göttinger Asiatische Forschungen 8).

1962 " Antworten auf Professor Fr. Wellers Fragen." *CAJ* 7, pp. 42-59.

1974 Grammar of Written Mongolian. (Third Printing). Wiesbaden.

Poppe, N. N. & Kun Chang & L. Hurvitz

1961 " Notes on the Monument in Honor of Mönke Khan." *CAJ* 6, pp. 14-23.

Rachewiltz, I. de.

1976 " Some Remarks on the Stele of Yisünge." In: *Tractata Altaica. Denis Sinor... sexagenario optime de rebus altaicis merito dedicata.* Wiesbaden. pp. 487-508.

Radloff, W.

1892 *Atlas der Altertümer der Mongolei*. St. Peterburg.

Rinčen, Y.

1959 " L'inscription sinomongole de la stèle en l'honneur de Möngke Qaγan." *CAJ* 4, pp. 130-138 + 6 pls.

Sperling, E.

1987 " Lama to the King of Hsia." *The Journal of the Tibet Society* 7, pp. 31-50.

Süngrüb

1990 " Dörberǰin üsüg-iyer bičigdegsen qoyar tulγur bičig-ün tuqai." *Mongγol kele udq-a ǰokiyal* 1990-6, Kökeqota, pp. 4-10.

Цэдэв, Д.

1993 " Шинээр гэрэлт хөшөө оллоо." *Ардын эрх* Jan. 13th, 1993, No. 8 (508).

Tucci, G.

1949 *Tibetan Painted Scrolls.* 3vols. Rome. (rpt., Kyoto, 1980).

Weller, F.

1957 / 58 " Anfragen eines Nichtmongolisten an den Mongolisten." *CAJ* 3, pp. 23-61.

Владимирцов, Б. Я.

1929 *Сравнительная грамматика монгольского письменного языка и халхаского наречия.* Ленинград.

Xiaojing.

1978 " Der Blockdruck der Xiàojīng aus dem Palastmuseum in chinesischer und mongolischer Sprache. " *ZAS* 12, pp.159-235.

Yule, H. & Burnell, A. C.

1903 *Hobson–Jobson ; A Glossary of Colloquial Anglo-Indian Words and Phrases, and of Kindred Terms, Etymological, Historical, Geographical and Discursive.* London.

Zieme, P.

1981 " Uigurische Steuerbefreiungsurkunden für buddhistische Klöster." *AoF* 8, pp. 237-263 + 5 pls.

Шагдарсурен, Ц.
1979 "К вопросу происхождение монгольской письменности." *Олон улсын монголч эрдэмтний III их хурал* vol. 3, pp. 286-290.

略号表

AF : Asiatische Forschungen.
AoF : *Altorientalische Forschungen.*
AOH : *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae.*
BTT : Berliner Turfantexte.
CAJ : *Central Asiatic Journal.*
HJAS : *Harvard Journal of Asiatic Studies.*
JA : *Journal Asiatique.*
RO : *Rocznik Orientalistyczny.*
TP : *T'oung Pao.*
UAJ : *Ural-Altaische Jahrbücher.*
ZAS : *Zentralasiatische Studien.*
ZDMG : *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft.*

[補註] 第1截の白話風漢文は概ね漢語としての整合性を持っているが，一方，第2截から第4截のモンゴル文直訳体漢文は，漢語の意味と語順を度外視して，背景にあるモンゴル語原文の構造をより強く意識させるかたちになっており，漢語の知識に加えてモンゴル語の知識なしには正確な翻訳が不可能である，cf. 高橋 1991, p. 420.

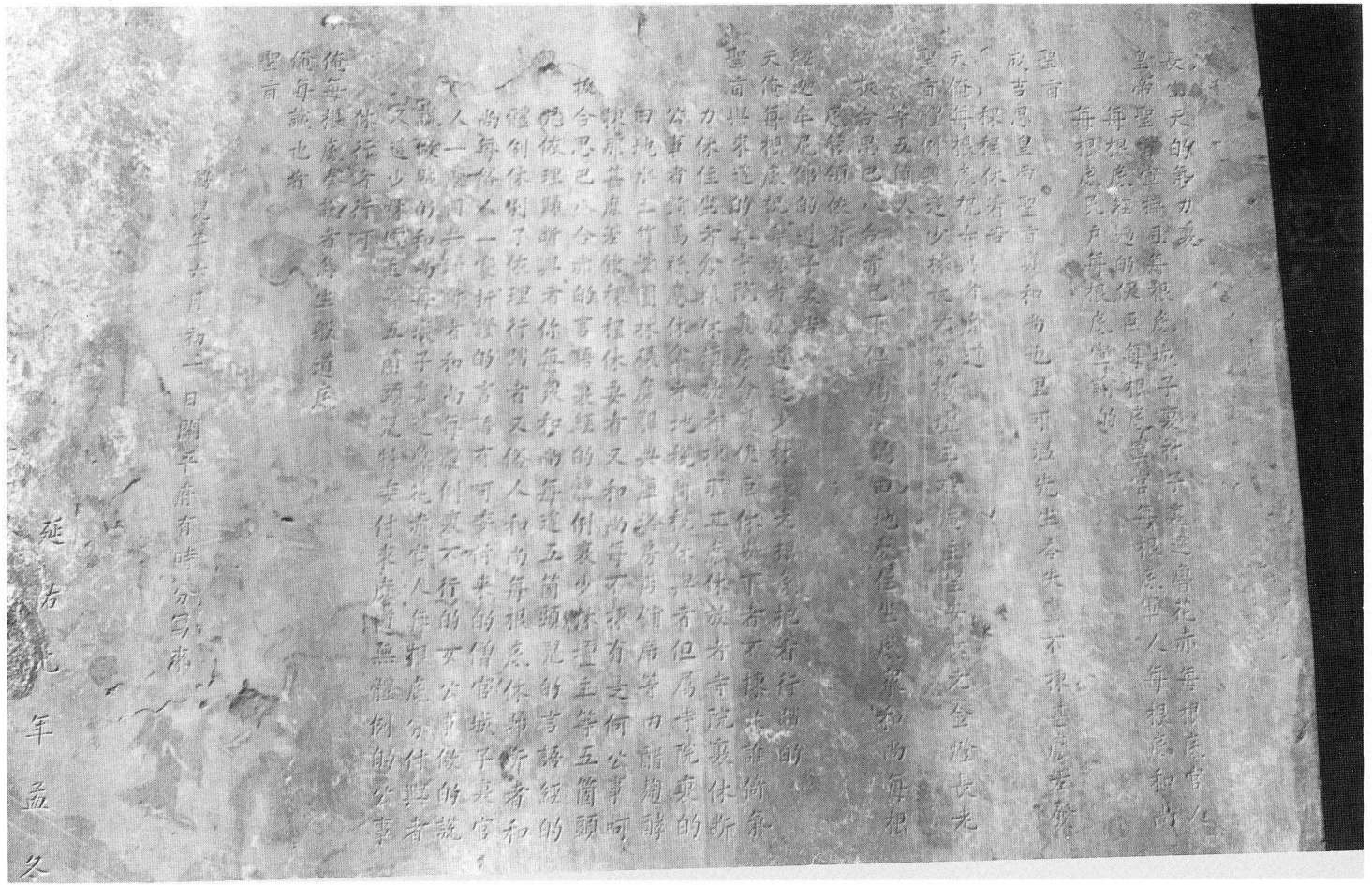
少林寺聖旨碑第１截モンゴル文面(中村・松川)



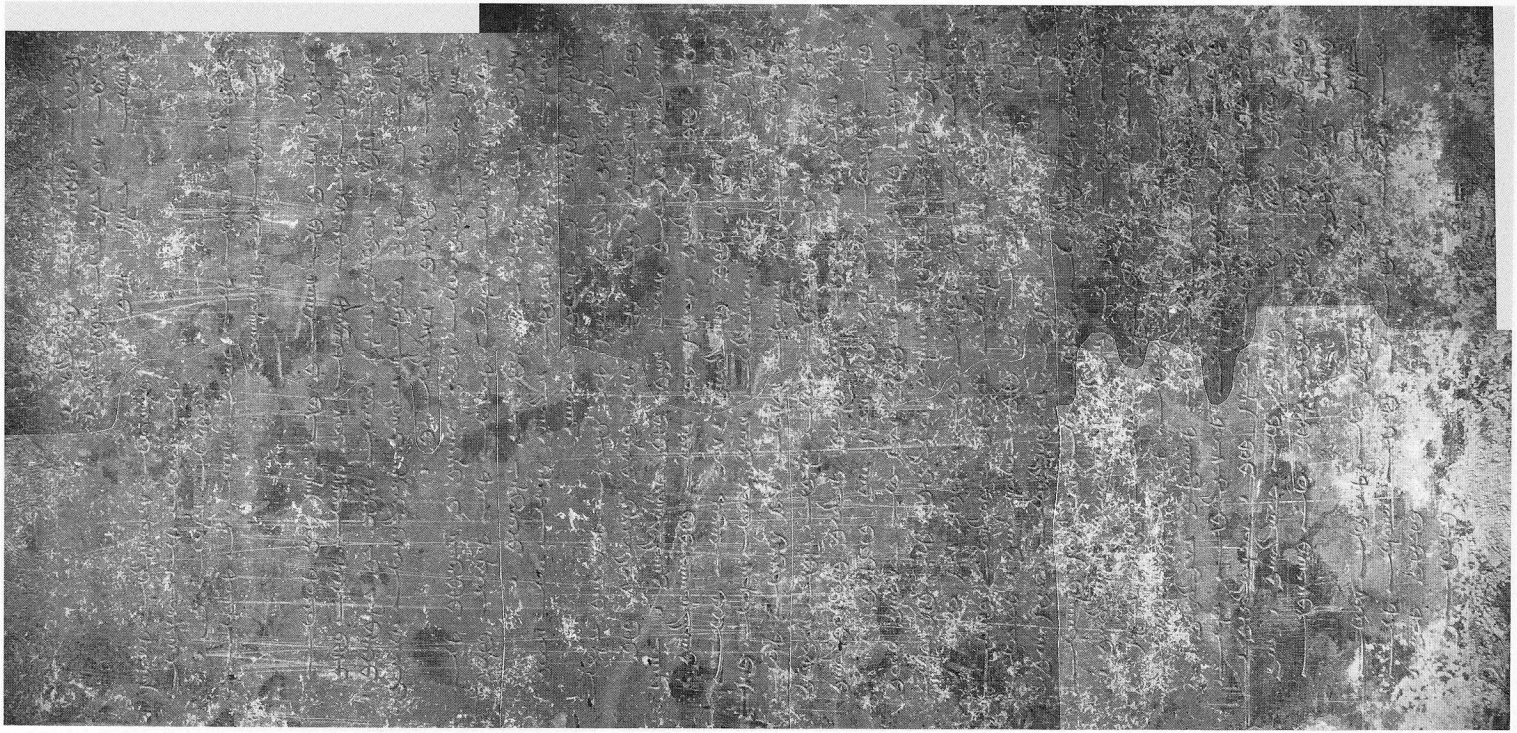
少林寺聖旨碑第１截漢文面(中村・松川)



少林寺聖旨碑第２截モンゴル文面(中村・松川)



少林寺聖旨碑第２截漢文面(中村・松川)



少林寺聖旨碑第３截モンゴル文面(中村・松川)



少林寺聖旨碑第３截漢文面（中村・松川）

少林寺聖旨碑第4截モンゴル文面(中村・松川)

P1. VII

少林寺聖旨碑第4截漢文面(中村・松川)